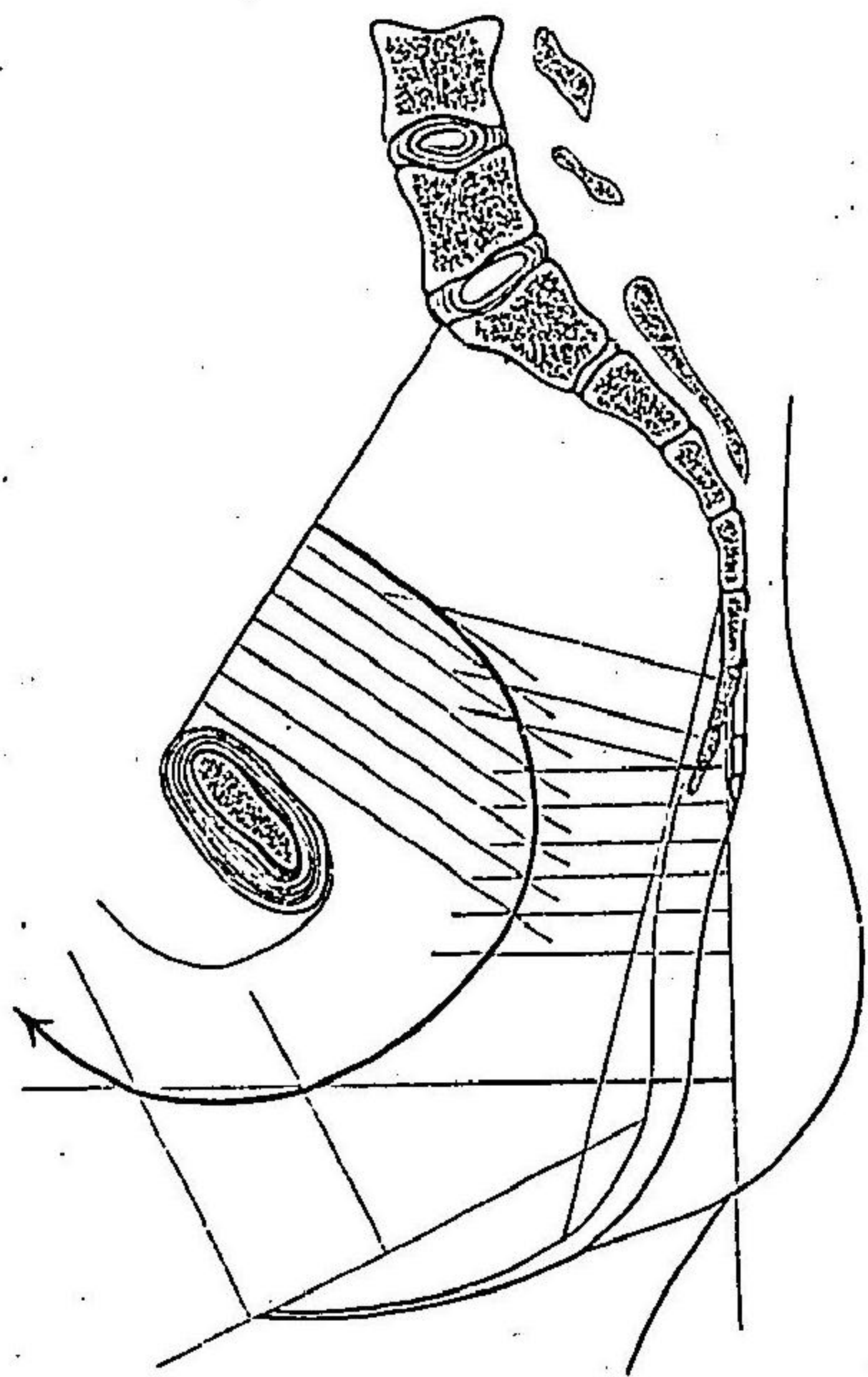


	東京醫科大學ニ於ケル木下氏數	ウイケンケル氏	ヘッケル氏
頭蓋位	九四、八六%	九五、四〇%	九五、五〇%
顔面位	〇、七四%	〇、六〇%	〇、五〇%
骨盤位	四、〇五%	三、六〇%	三、二〇%
斜位	〇、三六%	〇、四二%	〇、八〇%

中ニ於テ母體胎兒ノ危險最モ少ナキヲ以テ、生理或ハ通常分娩ノ位置ト云ヒ、其他ヲ異常位置ト云フ人アリ。然レトモ直位ハ其孰レノ部位先進部タルニ拘ハラズ、一定ノ回轉ニヨリ、自然ノ分娩ヲ爲シ得ルモノナルヲ以テ、古來斜位ヲ除クノ外ハ、普通生理分娩ト爲ス人多シ。是等各位置ニ於ケル回轉ヲ記セハ、胎兒下向部ノ最大直徑ハ骨盤上口ニ在テハ、其橫徑若クハ斜徑ニアレトモ、骨盤潤部ニ於テハ、漸々變シテ斜徑ニ近ツキ、狹部及出口ニ於テハ、縱徑ト一致ス。即チ產道内最モ廣キ部分ニ旋轉シツ、進ムモノナリ。故ニ胎兒ハ縱軸、橫軸、前後軸ニ回轉ス。

第一二二圖



骨盤誘導線ヲ示ス

得ルモノナリ。而シテ其後方ニ向ヘル部分ハ骨盤ノ彎曲ニ應シテ、骨盤後壁ニ沿テ前進シ、殊ニ下口ニ近ケハ、尾骶骨ヲ後方ニ壓押ス。而シテ其骨盤底ノ軟部ハ之レニ向テ抵抗スルカ爲メ、強ク前方ニ彎曲ヲ爲シ、進ムコト第一二二圖ノ矢ノ線ノ如シ。其詳細ノ作用ハ各位置ニ於テ述フヘシ。

後頭位分娩(頭蓋位トモ云フ)

Hinterhauptslage, (Schädellage).

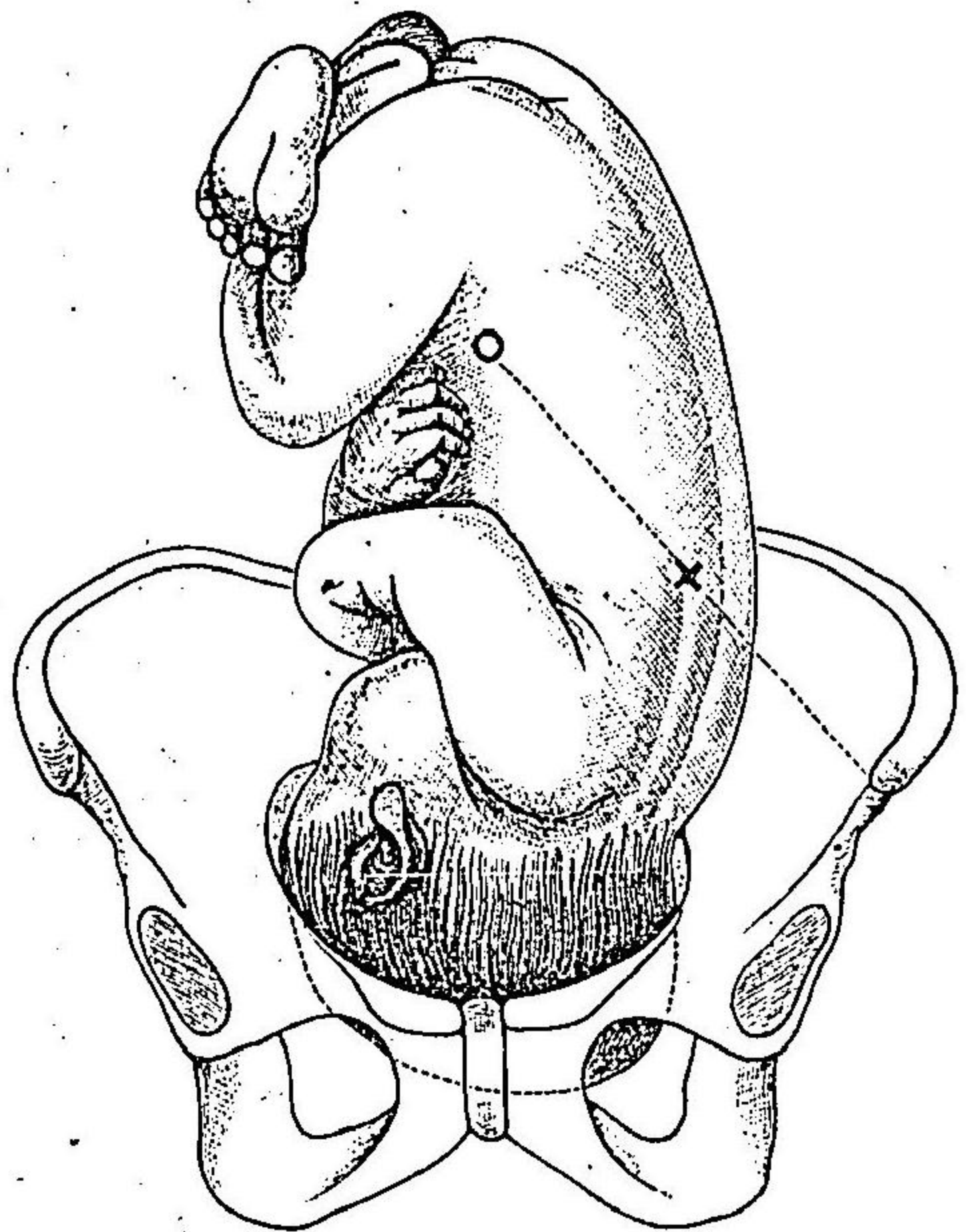
後頭位ハ其名ノ如ク、頭部ノ中ニ於テ、後頭部ノ先進スルモノヲ云フ。而シテ其初メ後頭部ハ母體ノ左側或ハ右側ニ在レトモ、骨盤出口ヲ出ルトキハ、必ス前方ニ向フモノナリ。其左側ニ向ヘルヲ第一體向ト云ヒ、右側ニ向ヘルヲ第二體向ト云フ。此ノ兩體向ニ就キ、本邦婦人ニ於テハ、第二體向多シト云フ説アレトモ、東京醫科大學産科教室ニ於ケル木下博士ノ統計ニ據レハ、其比例歐洲ト異ナルコトナシ。即チ第一體向ハ六十五・三六%、第二體向ハ三十四・六四%、ウインケル氏ニ據レハ、第一體向ハ四一・一%ニ對シ、第二體向ハ三十五・九%ナリ。

内診ニ依リ、胎兒ノ後頭部ナルコトヲ證スルニハ、小顛門、後頭縫合及矢狀縫合ヲ以テス。小顛門ハ成熟胎兒ニ於テハ既ニ骨ノ間隙部トシテ觸ル、コトナキカ故ニ三本ノ縫合線ノ集合セルコトヲ以テス、又其三骨

小顛門ノ診斷

ノ硬度ヲ比較スレハ、後頭骨ハ最モ硬ク、尙ホ應形機能ニ依リ、三骨中最モ下ニ在ルハ、後頭骨ナルカ故ニ、後頭骨ノ位置及顔面ノ方向ハ是レニ由テ知ルコトヲ得ヘシ。

第一後頭位 *I. Schädellage, I. Hinterhauptslage.*



第一體向ノ後頭位

外診 頭部ハ、分娩初期ニ於テハ、頭蓋底部ヲ骨盤上口ニ觸知シ、兒背ハ母體左側ニ臀部ハ左上方子宮底部ニ在リテ、小部分ハ右上方ニ在リ。心音ハ左

診斷

第一三百三圖

後頭位分娩

器械的作用
第一橫軸回轉

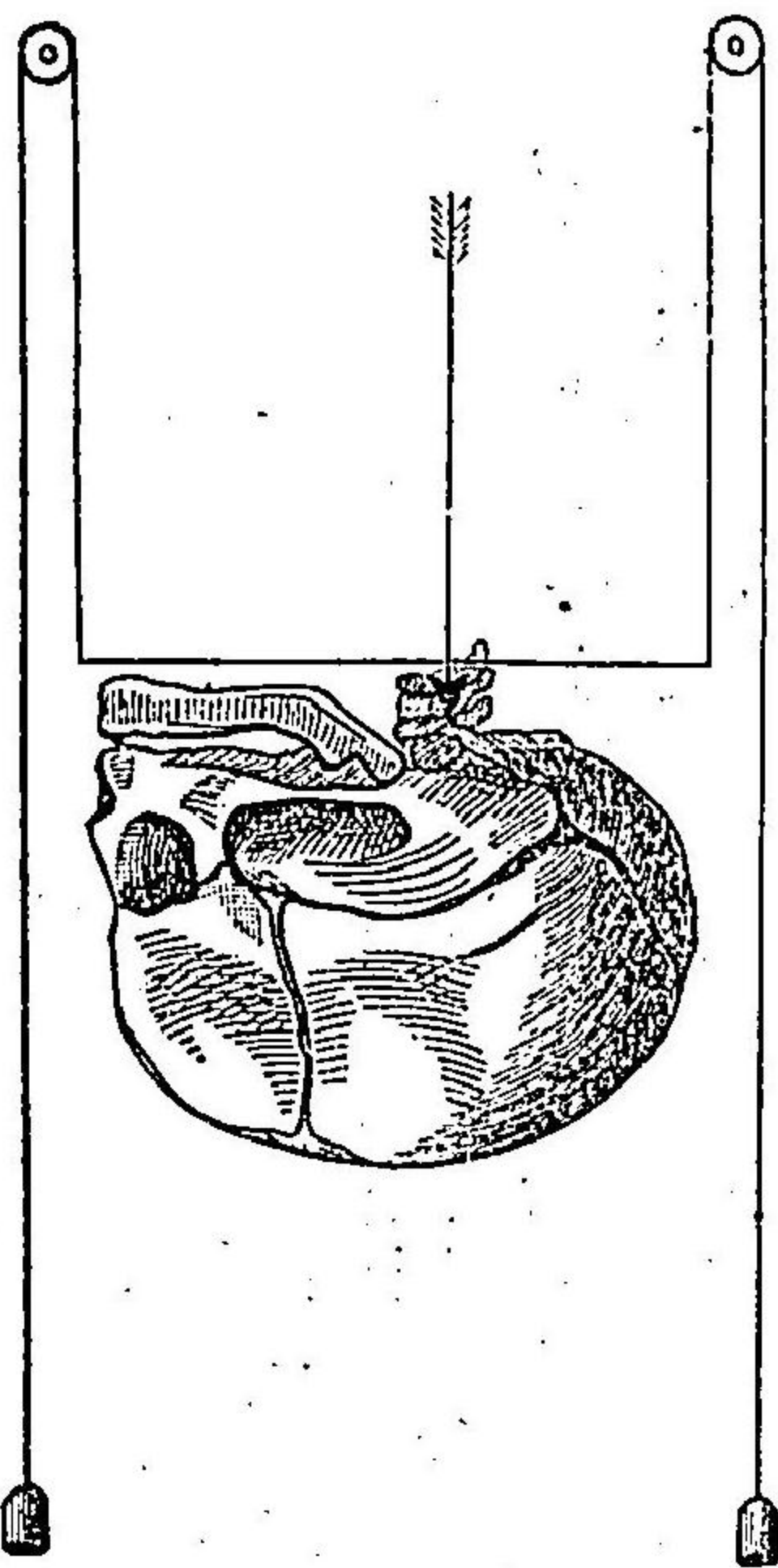
圖四百一第



第一後頭
位ニシテ
頭部小骨
盤腔ニ入
ルノ圖

下腹部ニシテ、臍ト左側腸骨前上棘トノ連結線ノ中央ニ在リ。
内診 初期ニ於テハ頭部ノ直徑ハ骨盤上口ノ橫徑線又ハ右斜徑線
ニ在リ、小顛門ハ低クシテ、左側ニ大顛門ハ高クシテ、右側ニ在リ。
器械的作用 兒頭ハ陳痛ノ力ニ依リ、頸管内ニ於テ、第一回轉ヲナス

圖五百一第



圖六百一第



圖ノルアニ部潤盤骨頭兒 位頭後一第

即チ兒頭橫軸ノ回轉
ニシテ、是レカ爲メ、願
部ハ盆、胸部ト接近シ、
後頭愈、下降ス、(卵膜ア
ル間ハ大小顛門同シ
高サナルコト有リ)是
レ排出力ハ軀幹ヨ
リ後頭大孔ニ向テ
働キ、其前橫杆臂ハ
第一百五圖ノ如ク、
後部橫杆臂ヨリ長
キヲ以テ、前方ニ向
テ橫軸回轉ヲ爲ス
モノナリ。而シテ兒

後頭位分鏡

第二縱軸回轉

頭骨盤底部ニ進ムニ從テ、第二ノ回轉ヲ爲ス、即チ縱軸ノ回轉ナリ。天斜

徑ヲ軸トシテ回轉

スト云フ人アレト

モ同一ナリ。是レニ

由テ、矢狀縫合ハ漸

々縱徑ニ近ツキ、小

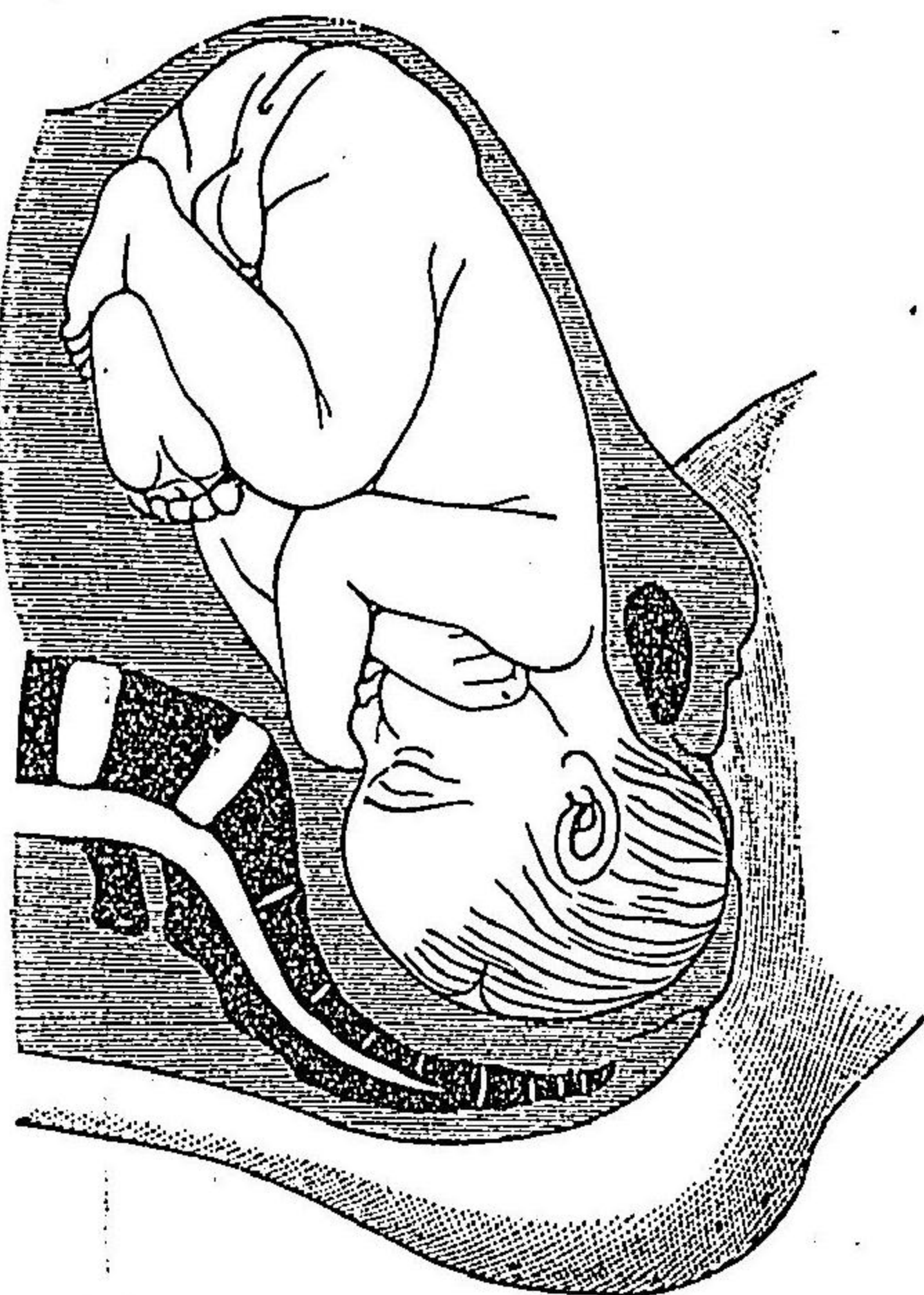
顛門ハ前下方ニ來

リ、其最大周圍、骨盤

狹部ニ來レ、ハ矢狀

縫合ハ全ク縱徑ト

第一七百七圖

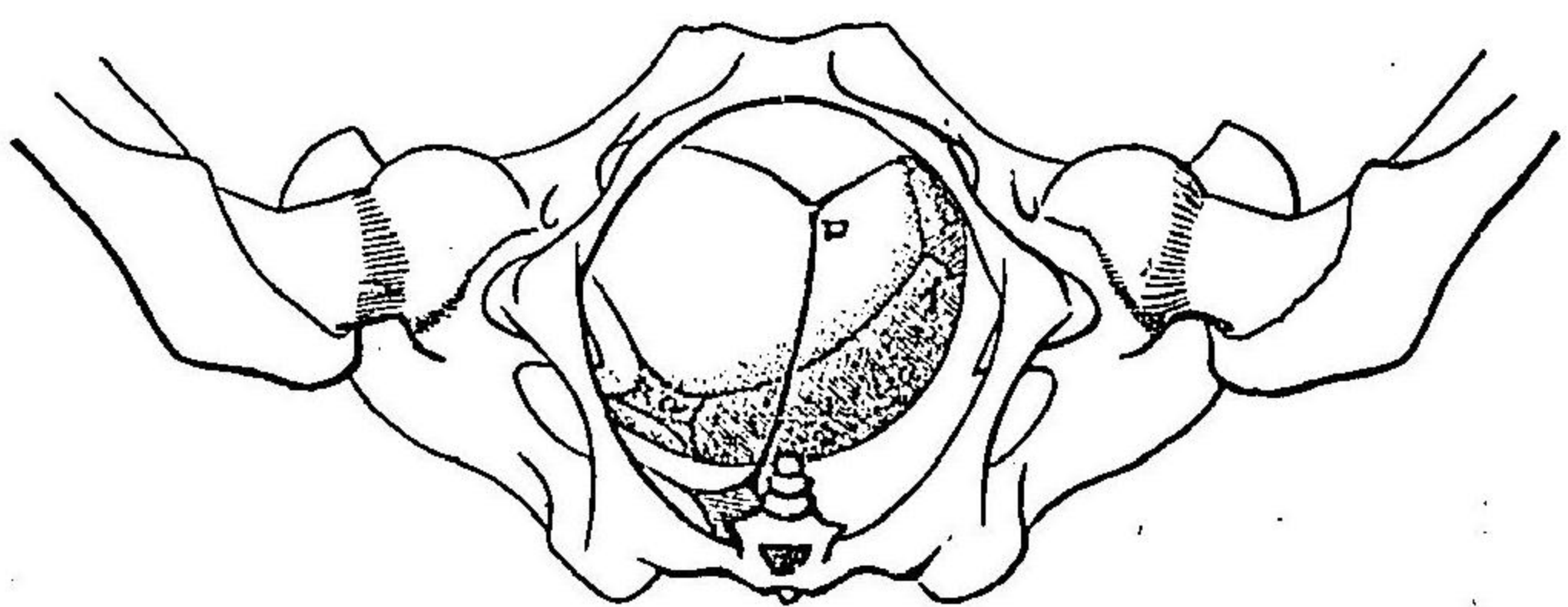


第一後頭位、兒頭骨盤狹部ノル

第三橫軸回轉

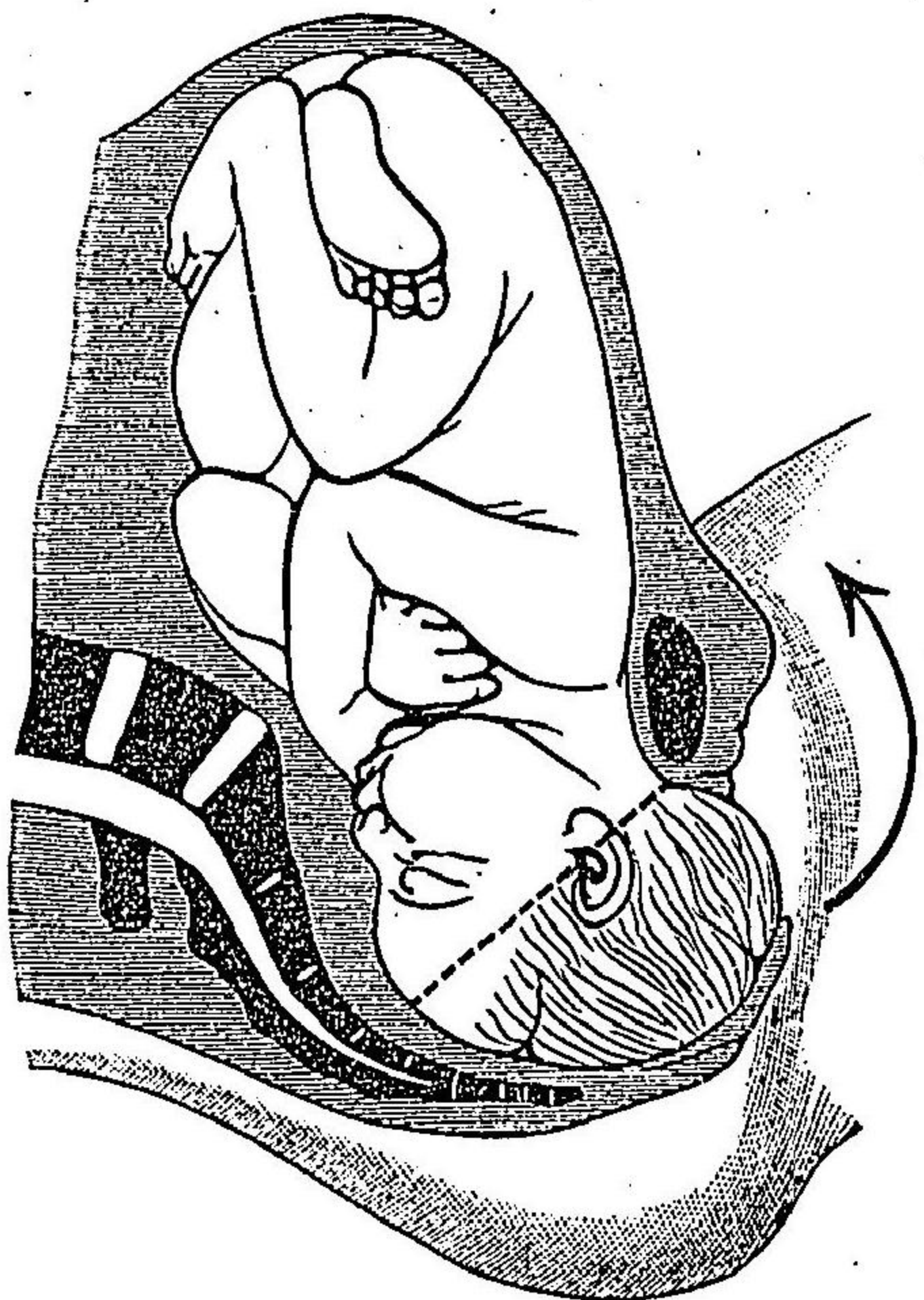
一致シ、後頭骨耻骨縫際下ニ來リ、小顛門ハ先進ス、續テ兒頭ハ第三ノ橫
軸回轉ヲナシ、前方ニ彎進ス。是レ骨盤底部ノ抵抗及收縮ニ由ルモノナ
リ。是レカ爲メ、兒頭ノ顛部ハ胸部ヲ離レ、後頭部ハ耻弓下ニ現ハル。右顛
頂骨ノ後上部陰隙ニ現ハレ、前頭ニ續テ、顔面ハ會陰ヲ排シテ撥露ス。兒

第一八百八圖



第一後頭
位、骨盤
狹部及狹
部ニ於ケ
ル兒頭回
轉ヲ示
ス。イ
ハ骨盤潤
部ニアル
小顛門ノ
位置、ロ
ハ骨盤狹
部ニアル
小顛門ノ
位置ヲ示
ス。

第一百九圖

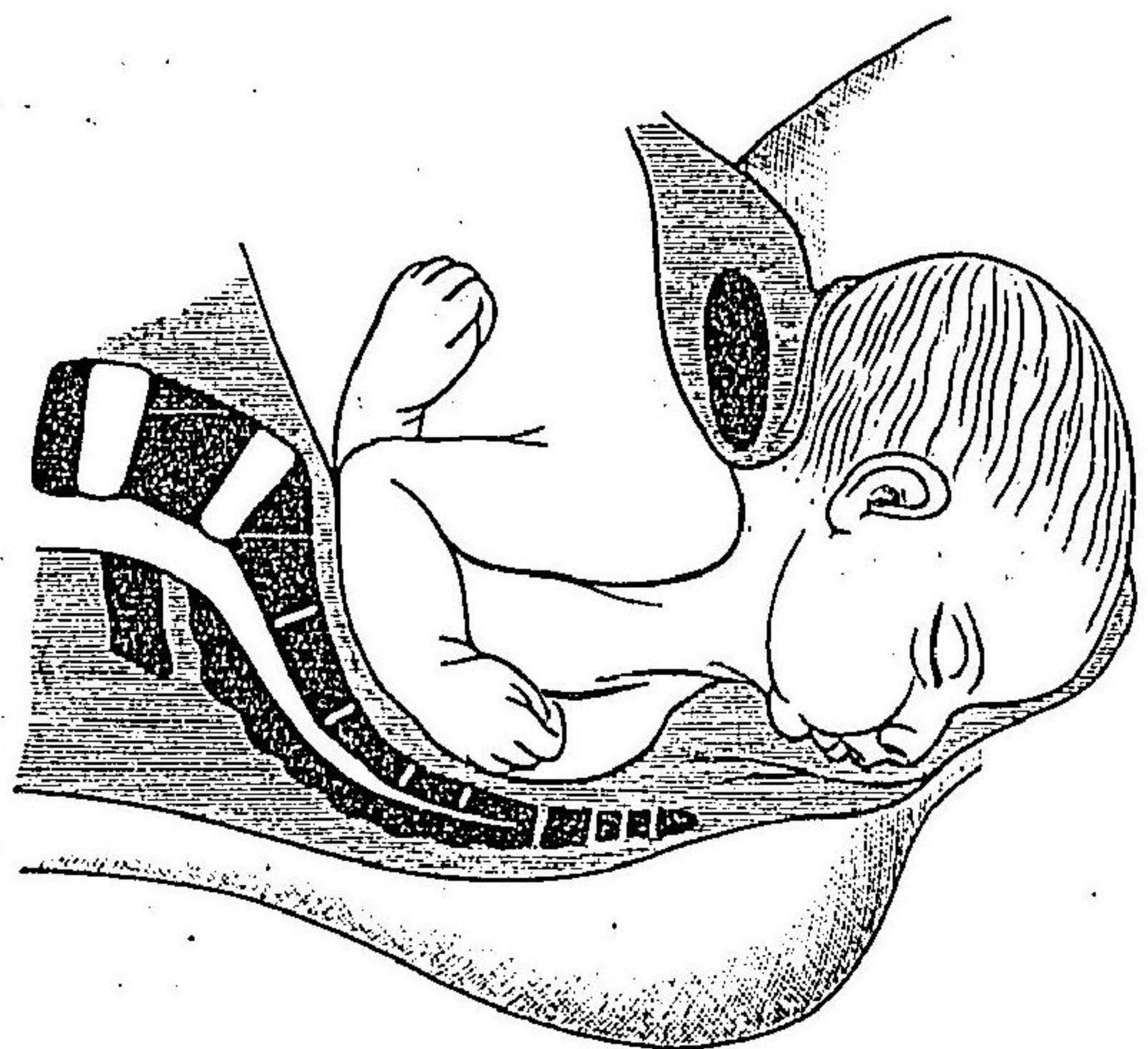


第一後頭位

兒頭骨盤下口ニアル圖

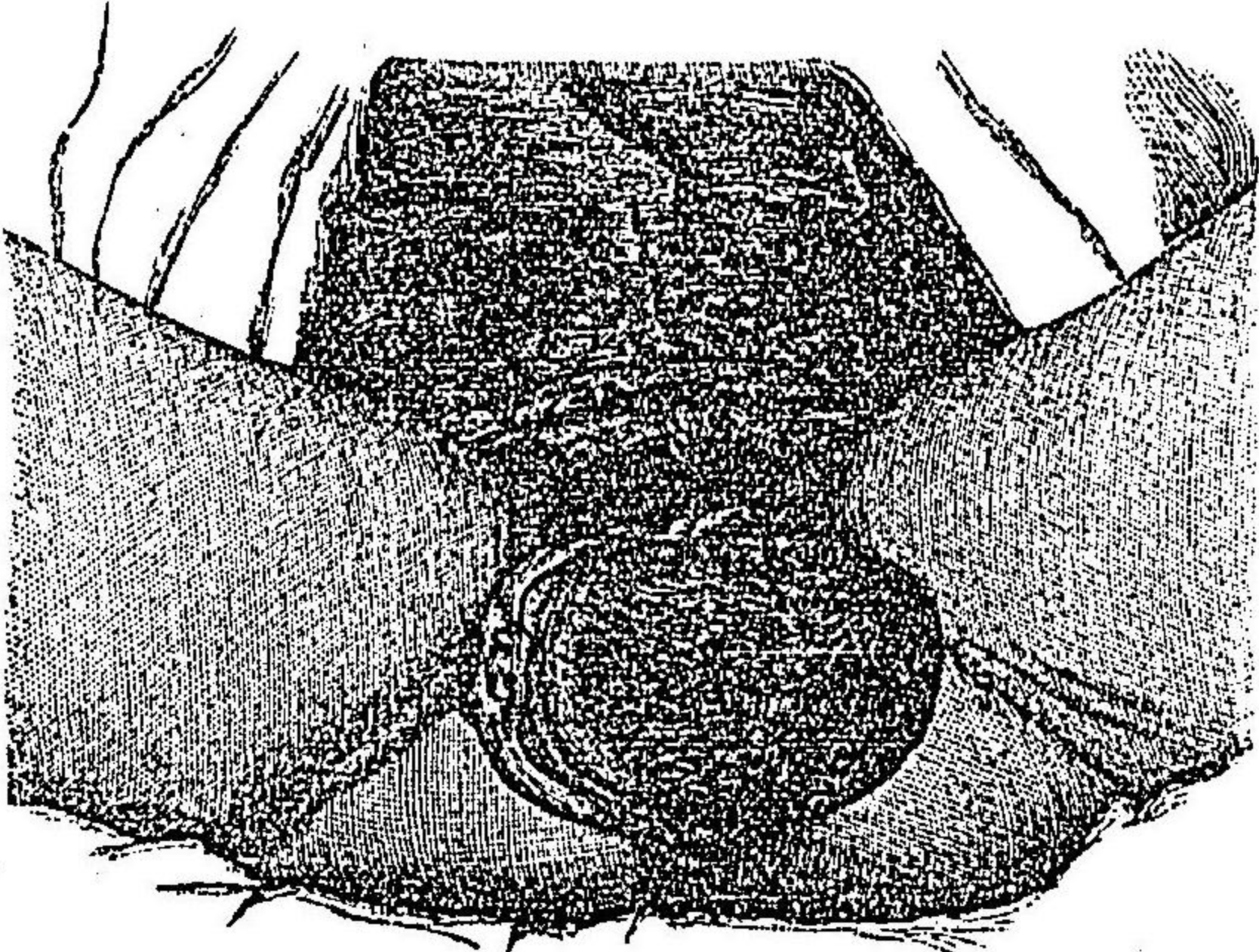
橫軸回轉 其一

第一百十圖



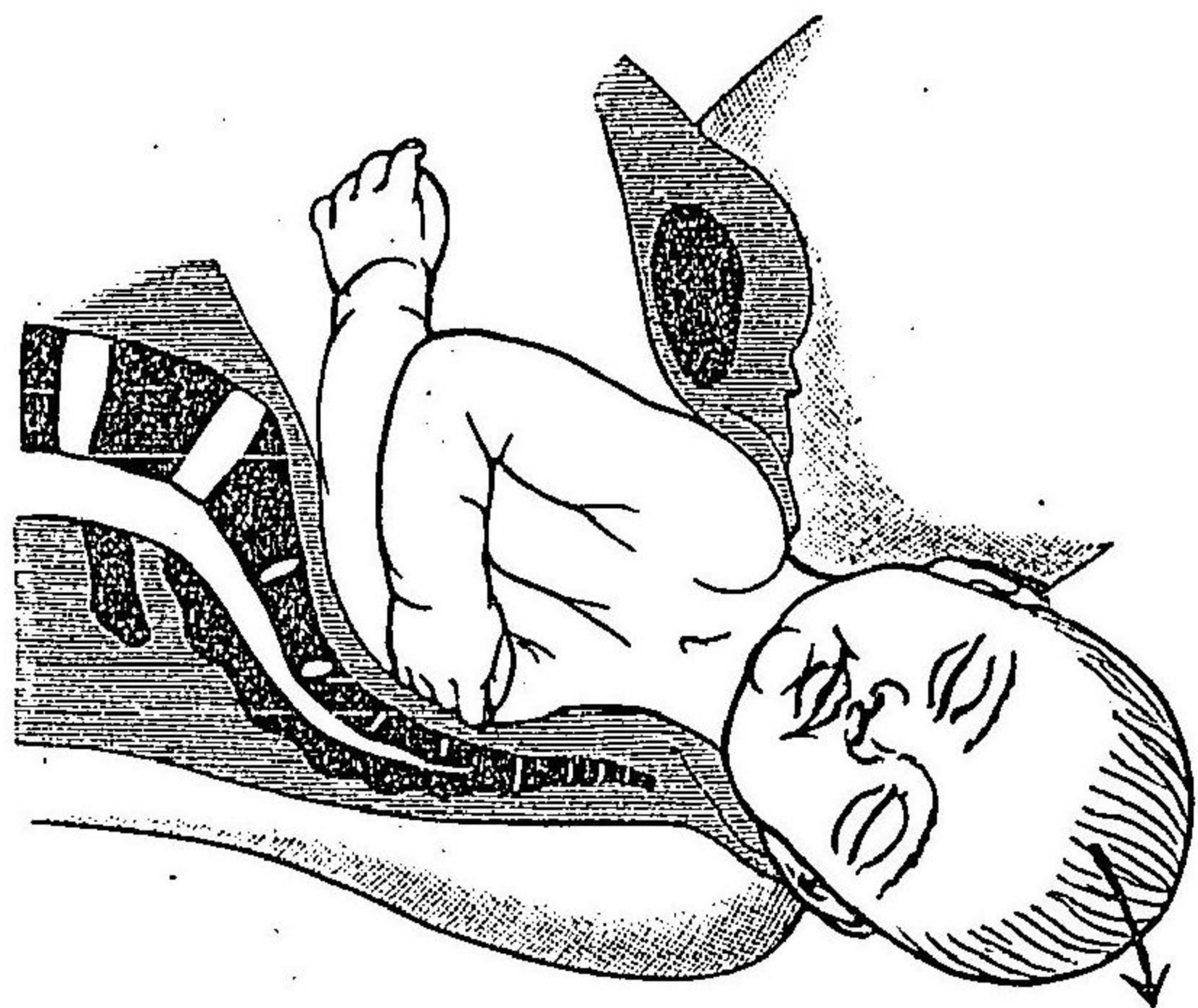
同上 其二

第一百十一圖



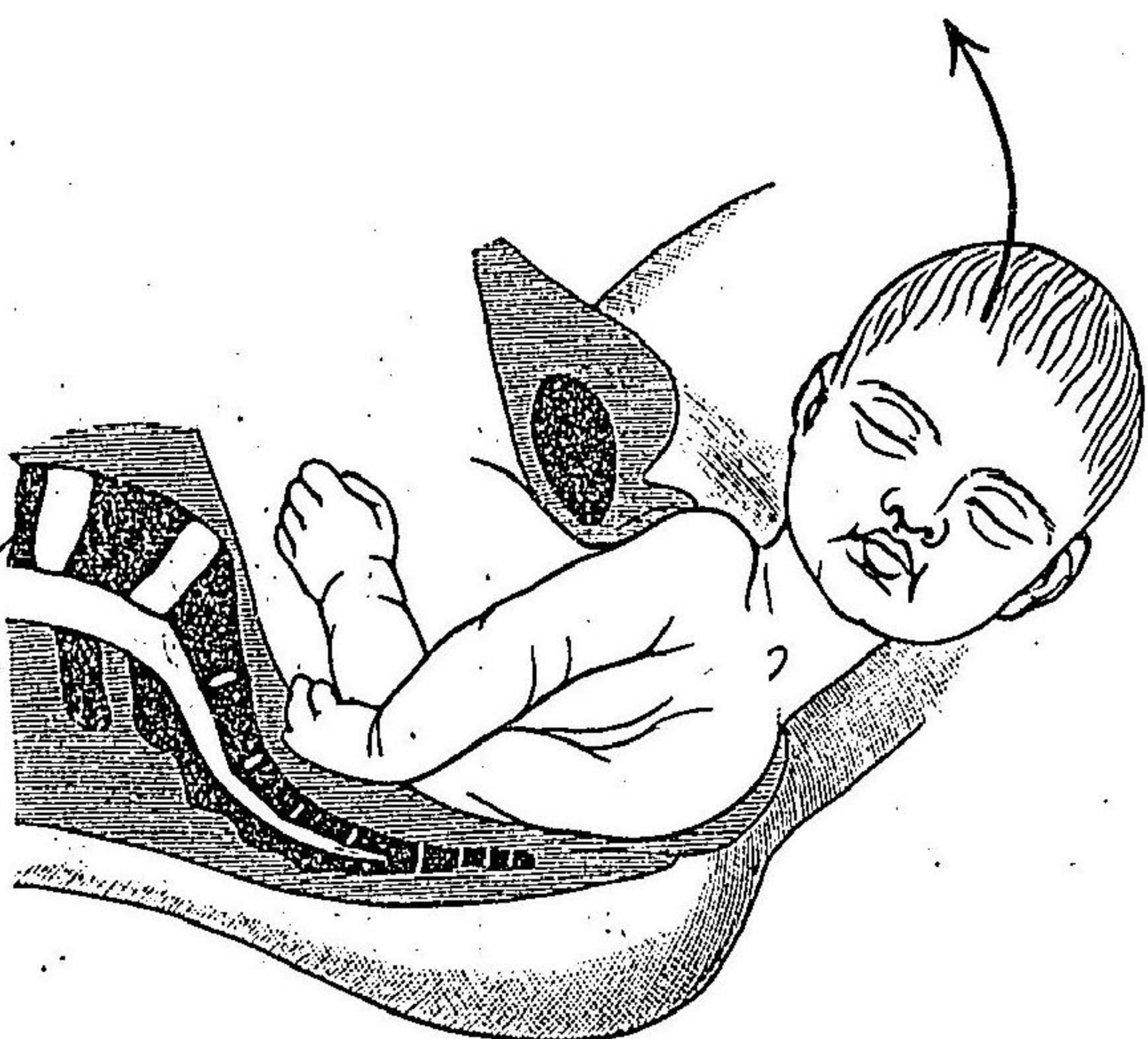
第一後頭位ニ於ケル頭部娩出後ノ
回轉ヲ示ス

第一百十二圖



第一後頭位、前方肩胛部娩出

第一百十三圖

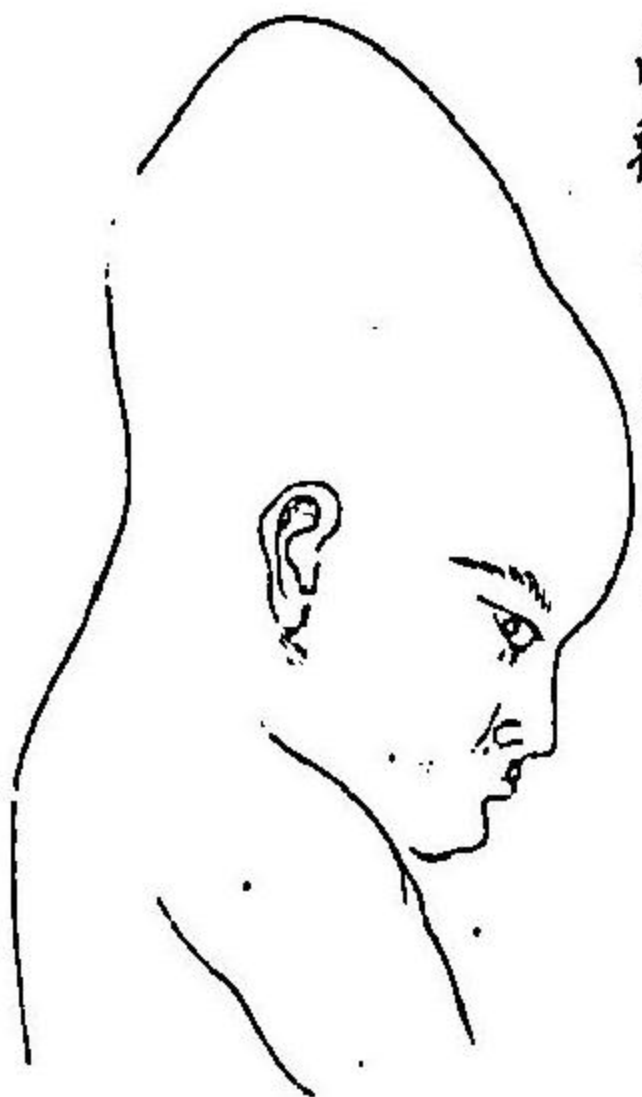


同上 兩肩胛部娩出

肩胛ノ回轉

産瘤

第一百四十四圖



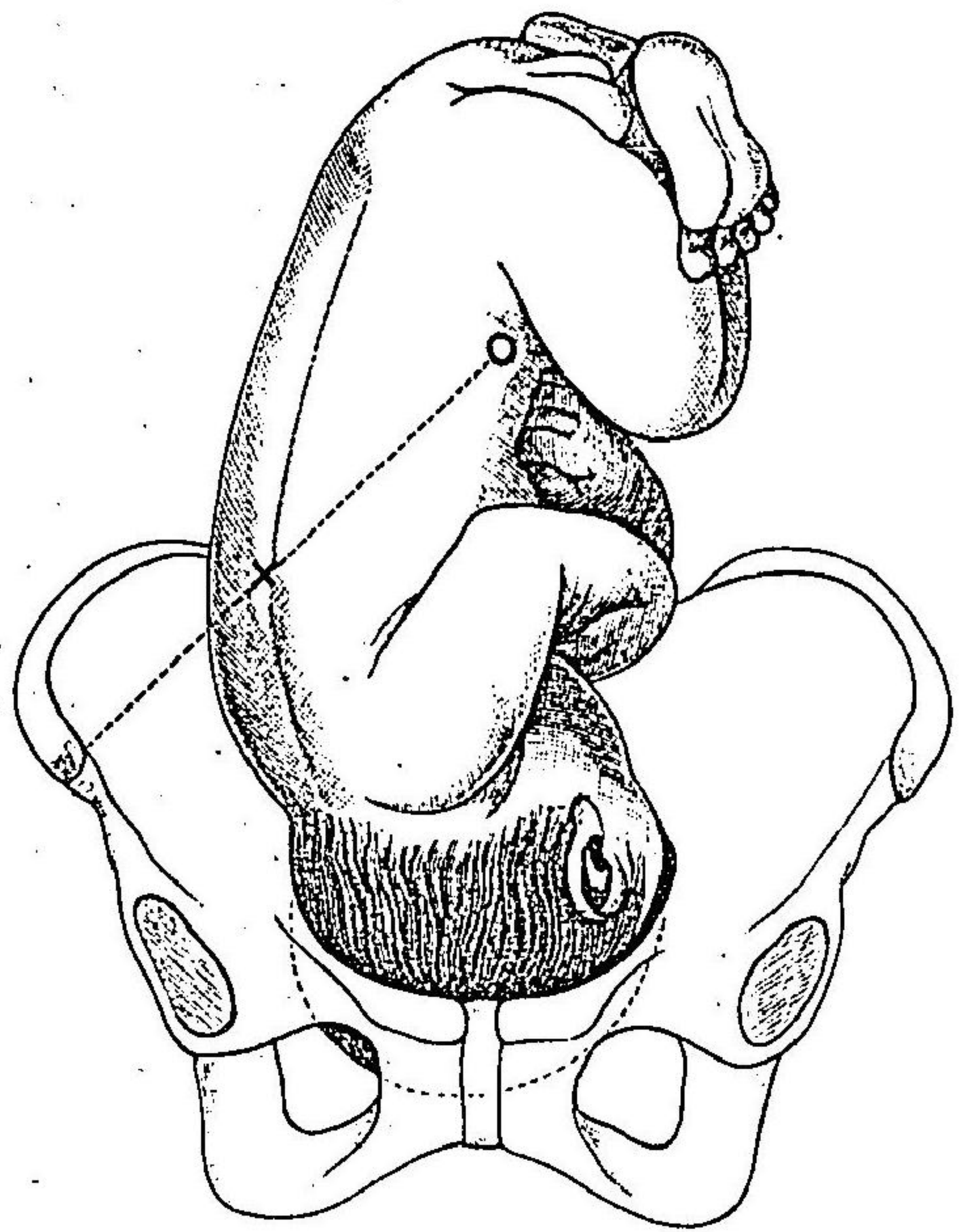
後頭位
ニテ娩
出セル
兒頭ノ
形状ノ

此、胎位、斜位也。

頭娩出スレハ、顔面ハ直ニ母體大腿ノ内面右後方ニ向フモノナリ。
 軀幹ハ肩胛横經骨盤上口ノ第二斜徑線ニ從テ進ミ、兒頭撥露スルヤ、骨
 盤底部ニ來リ、右肩胛ハ軀幹縱軸ノ回轉ニヨリ、下降シ、前方ニ來リ、左肩
 胛ハ後方ニ來リ、狭部ニ至レハ、肩胛横經全ク縱徑トナリ、右肩胛耻弓下
 ニ現ハレ、尙ホ軀幹ハ前後軸ノ回轉ニ由リ、左肩胛ハ會陰ヨリ出テ、續テ
 胸腹共ニ骨盤誘導線ノ方向ヲ以テ娩出ス。此ノ肩胛娩出時ニ會陰ノ延
 長スルコトハ頭部ニ比シテ少シ。肩胛會陰ヲ離ルレハ、其下部ハ續テ同
 一ノ腹壓ニ依リ、娩出セラル、モ
 ノナリ。
 此ノ位置ニ於テハ産瘤ハ右側顛
 頂ノ後上隅小顛門ノ近キ部分ニ
 生シ、又左顛頂骨ハ右顛頂骨ノ下
 タニ入り、後頭骨ハ此ノ二骨ノ下ニ重疊適應スルモノナリ。

第二後頭位 H. H. interhauptsäge.

第一百五十五圖



第二後頭位第一分類

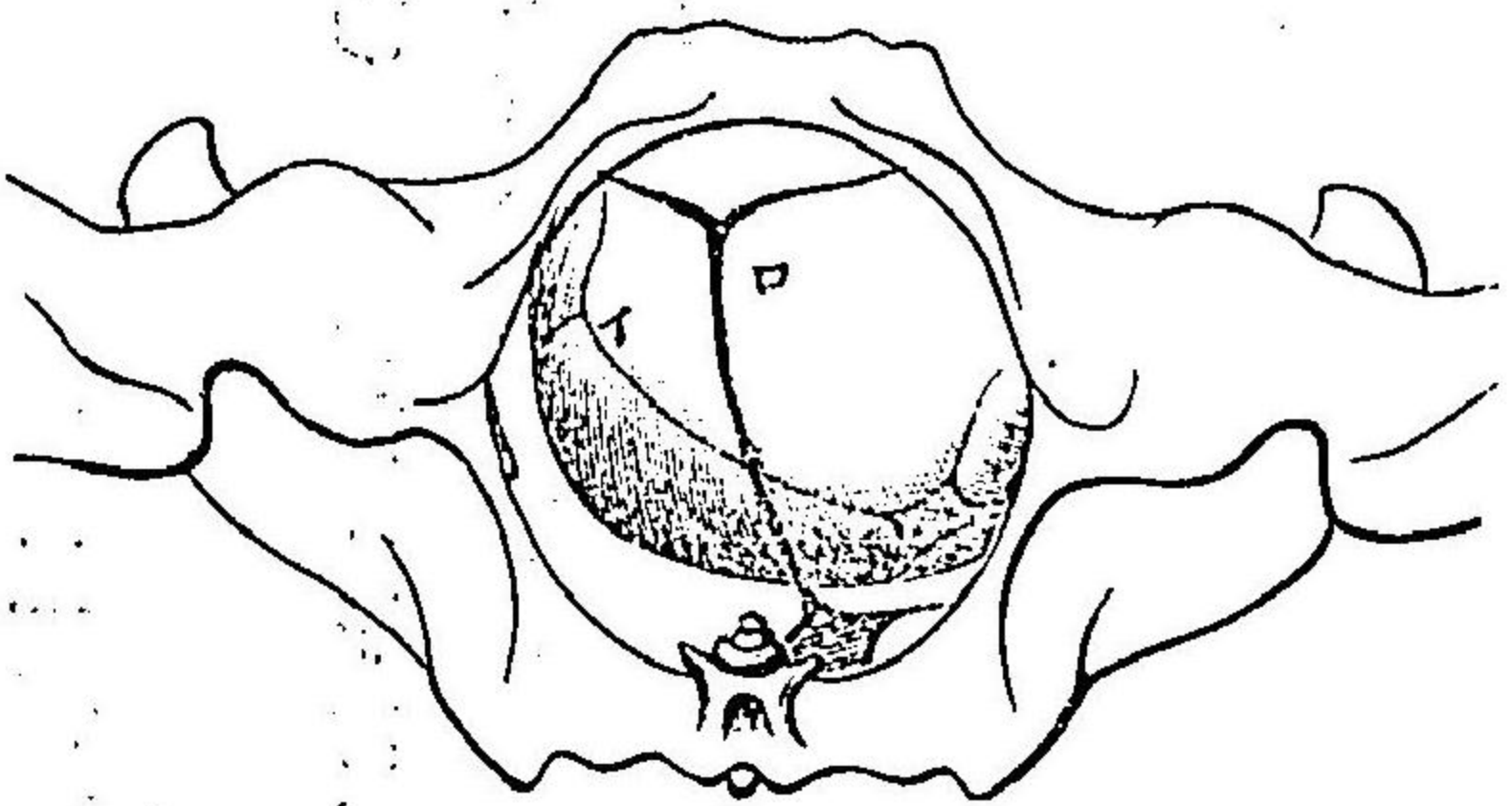
外診 臀部ハ子宮底ノ右上方ニ、小部分ハ左上方ニ、兒背ハ右方ニ在
 リテ、心音ハ臍下四指横徑ノ處ニシテ、中央線ヨリ少シク右ニ聽取シ得
 ヘシ。

内診 矢狀縫合
 ハ骨盤横徑ニ在リ
 テ、小顛門ハ低ク、右
 方ニ觸知スヘシ。分
 娩ノ最モ初期ニ於
 テハ稍、右後方ニ觸
 知スルコト多シ。而
 シテ大顛門ハ高ク
 左リ又ハ左前方ニ

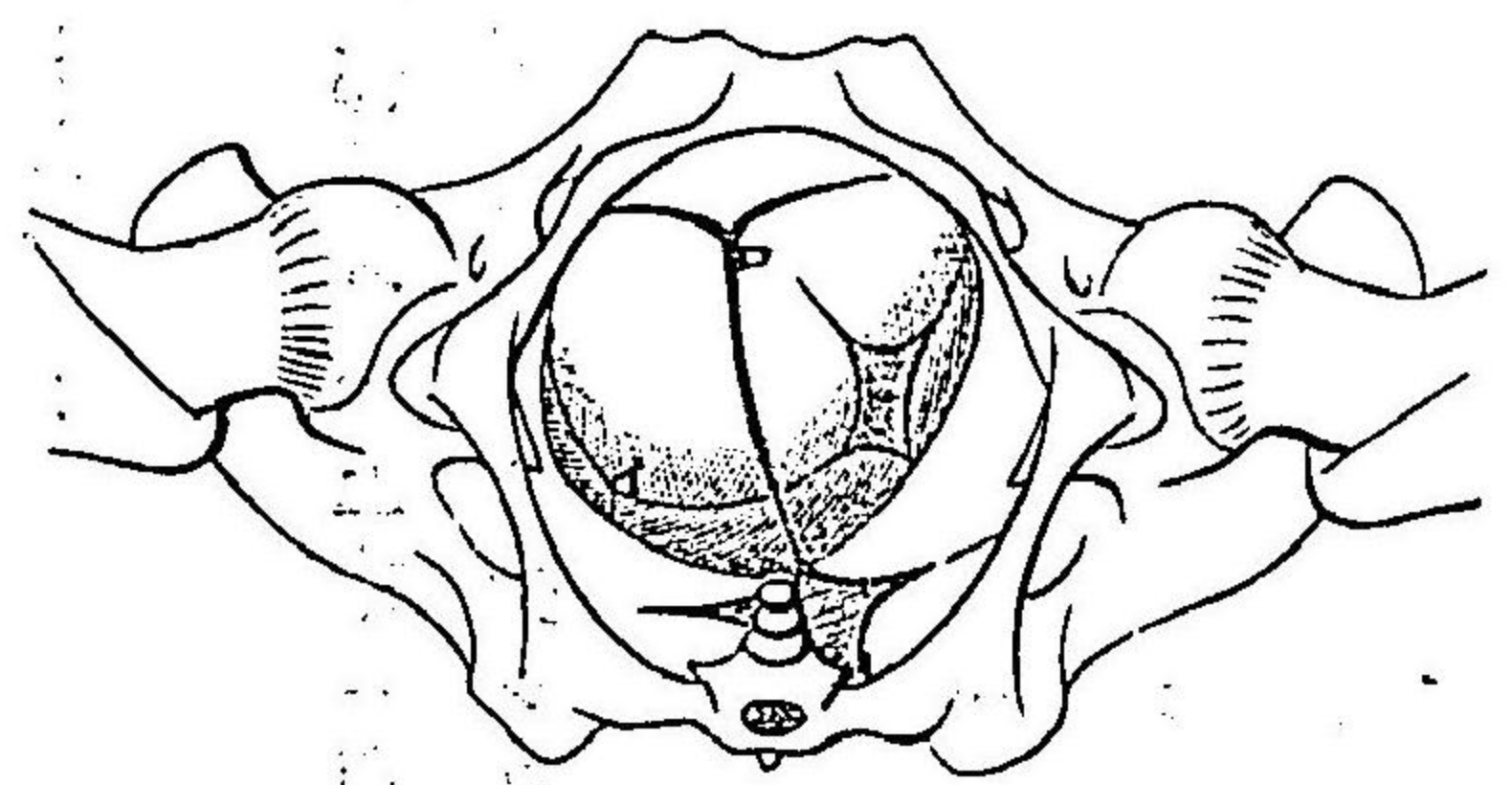
第二後頭位ノ器械的作用

在リテ、左方顱頂骨ノ後隅先進ス。器械的作用ハ、總テ第一後頭位ト異ナルコトナシ。唯其第二ノ縱軸回轉ニ於テハ、小顱門ハ右或ハ右後方ヨリ前方ニ回轉ス。而シテ狹部及下口ノ排臨撥露ハ少シモ前位置ト異ナルコト無シ。

第一百六十圖



第一百七十圖



第二後頭位ノ產瘤

產瘤ハ左顱頂骨ノ後隅ノ近傍ニ生シ、右顱頂骨ハ左顱頂骨ノ下ニ入ル。兒頭娩出後ハ左大腿内面ニ向ヒ、軀幹ハ背面ヲ右側ニ向ケ、左肩胛部前方ニ、右肩胛部後方ヨリ娩出ス。

前顱頂位(前顱位)

Vorderschielage.

第三及ヒ第四頭蓋位

從來此ノ名稱ヲ付スレトモ實ハ後頭位ノ異常回轉ト見做スヘキモノニシテ、頭産中一、二六乃至一、五%ハ後頭部後方ニ向ヒ、會陰ヲ排シ、娩出セラル。即チヘッケル氏ハ六十七乃至七十五回ニ一回ノ前顱位ヲ來スモノナリト云フ。而シテ其體向ニ付テハ、同氏ハ第二前顱位ト第一前顱位トノ比例ハ百十ノ百ナリト云フ。又、ブッシュ氏ニ據レバ、第一前顱位ヲ第四頭蓋位ト云ヒ、第二ヲ第三頭蓋位ト云フ。内診ニ依リ、前頭部ナルコトヲ定ムルニハ大顱門ヲ以テス。大顱門ハ菱形ナル骨ノ間隙部ナレトモ、

前顱頂位

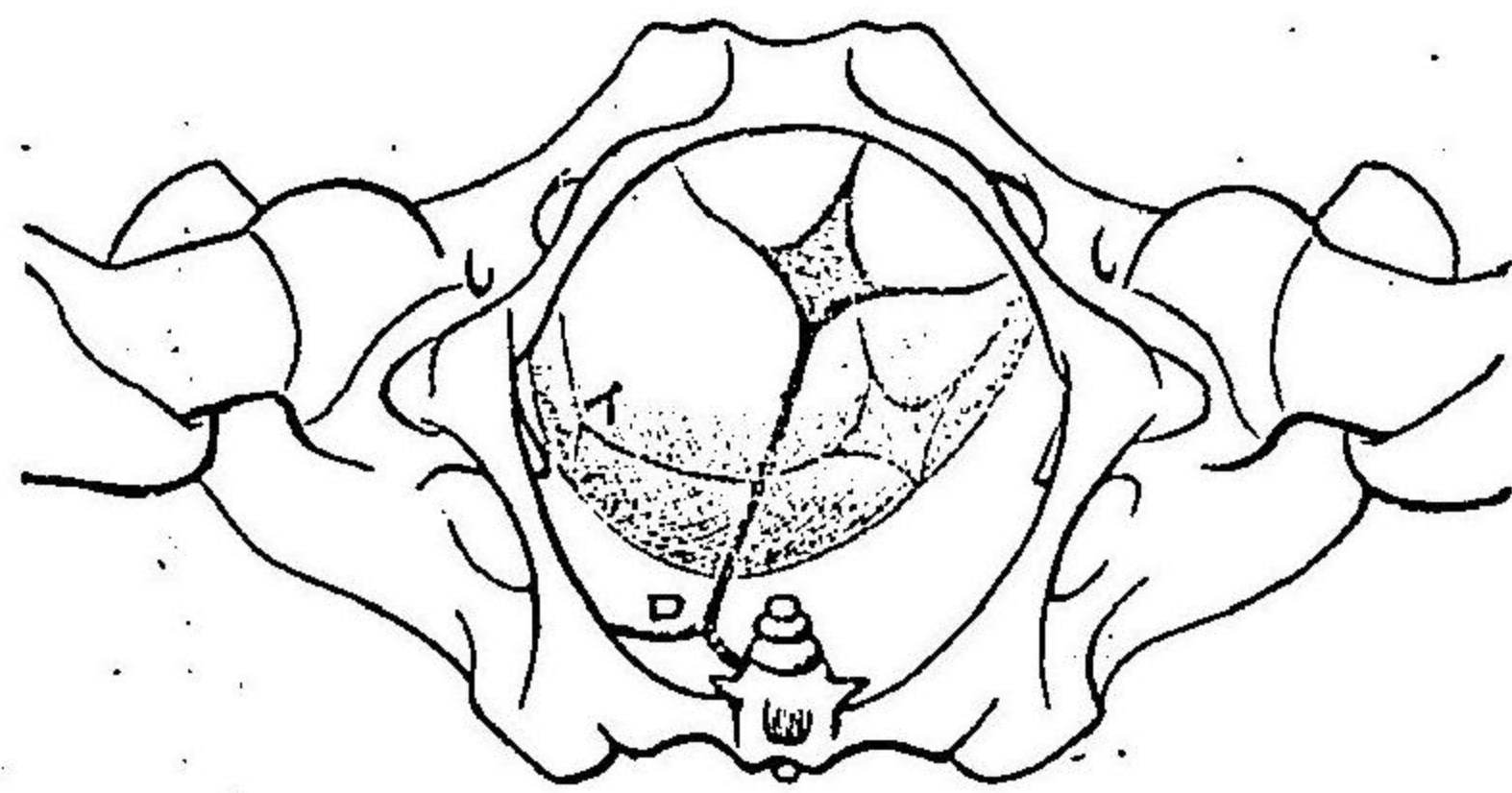
分娩時ニ於テハ、産瘤ノ爲メ、其形ヲ知ルヲ得サルコトアリ。斯ルトキハ、此ノ部ニ集合セル縫合線ノ數ヲ確メ、尙ホ其縫合ノ穹窿ノ度及重疊ノ形ニ由リ、證スルコトヲ得ヘシ。

第一百一十八圖



第二前顛位 兒頭骨盤澗部ヨリ骨盤狹部ニ進ムノ圖

第一百一十九圖

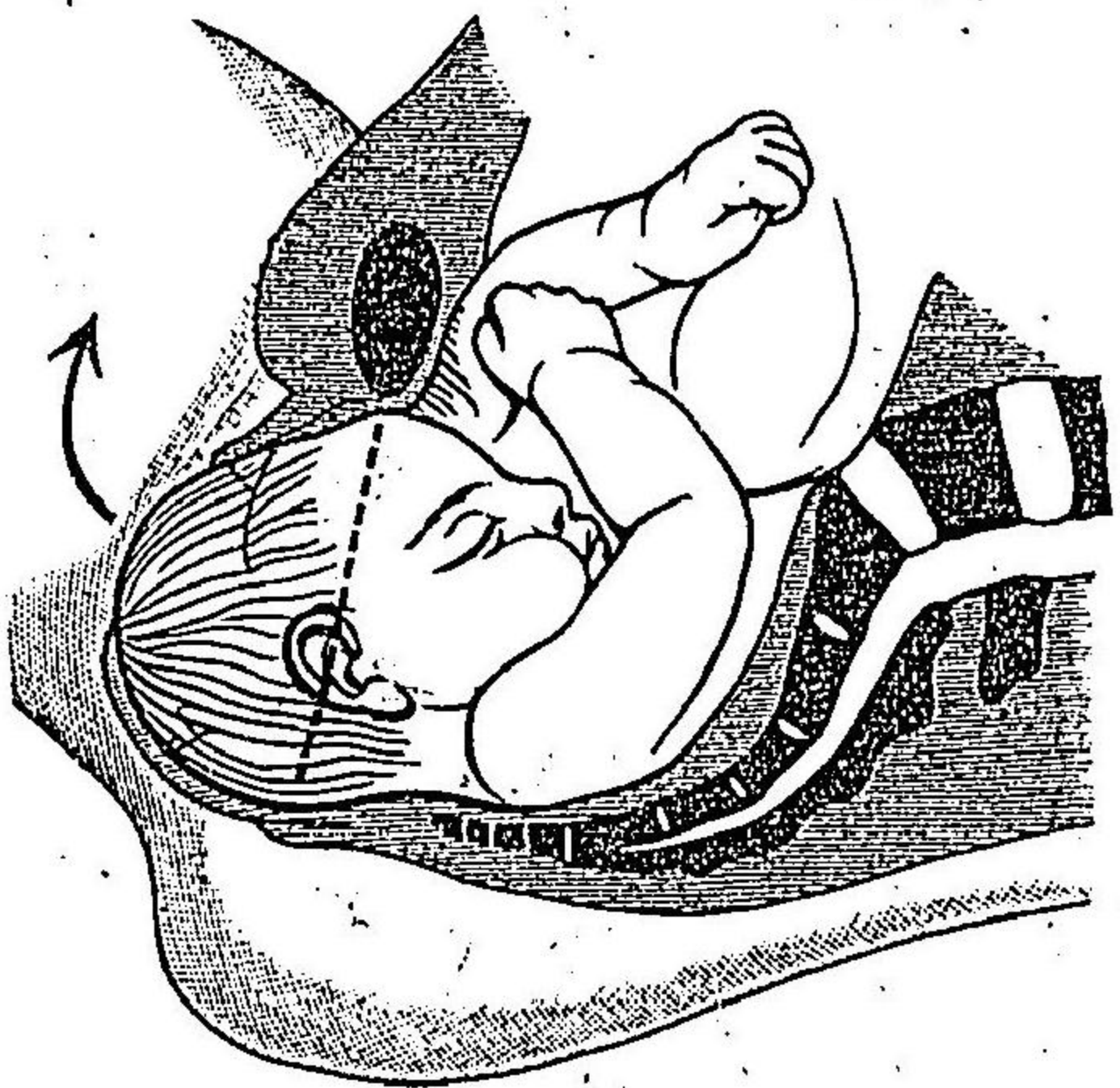


第二前顛位 兒頭ノ回轉ノ骨盤澗部ニ在ルトキハ骨盤狹部ニ在ルトキ

前顛位ノ原因

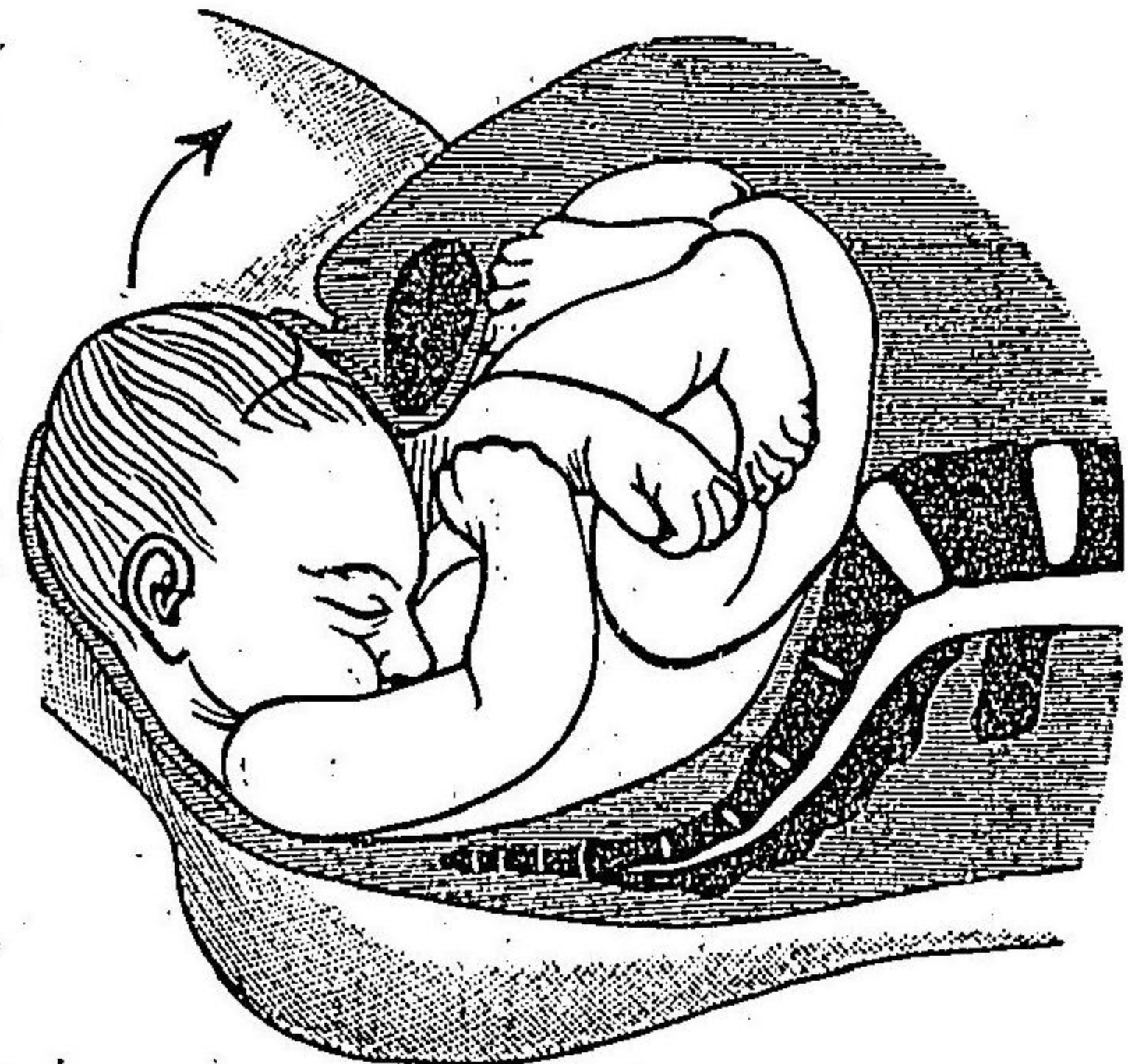
原因 兒頭ノ下降ヲ妨ケ、又ハ後頭部前方回轉ノ抵抗過大ナルカ、又其缺乏ナルトキナリ。即チ骨盤過大、胎兒過小、陣痛強劇、急遽分娩或ハ狹

第一百二十圖



第二前顛位 兒頭骨盤下口ヲ通過スルノ圖 前方ニ横軸回轉チナスノ狀 其一

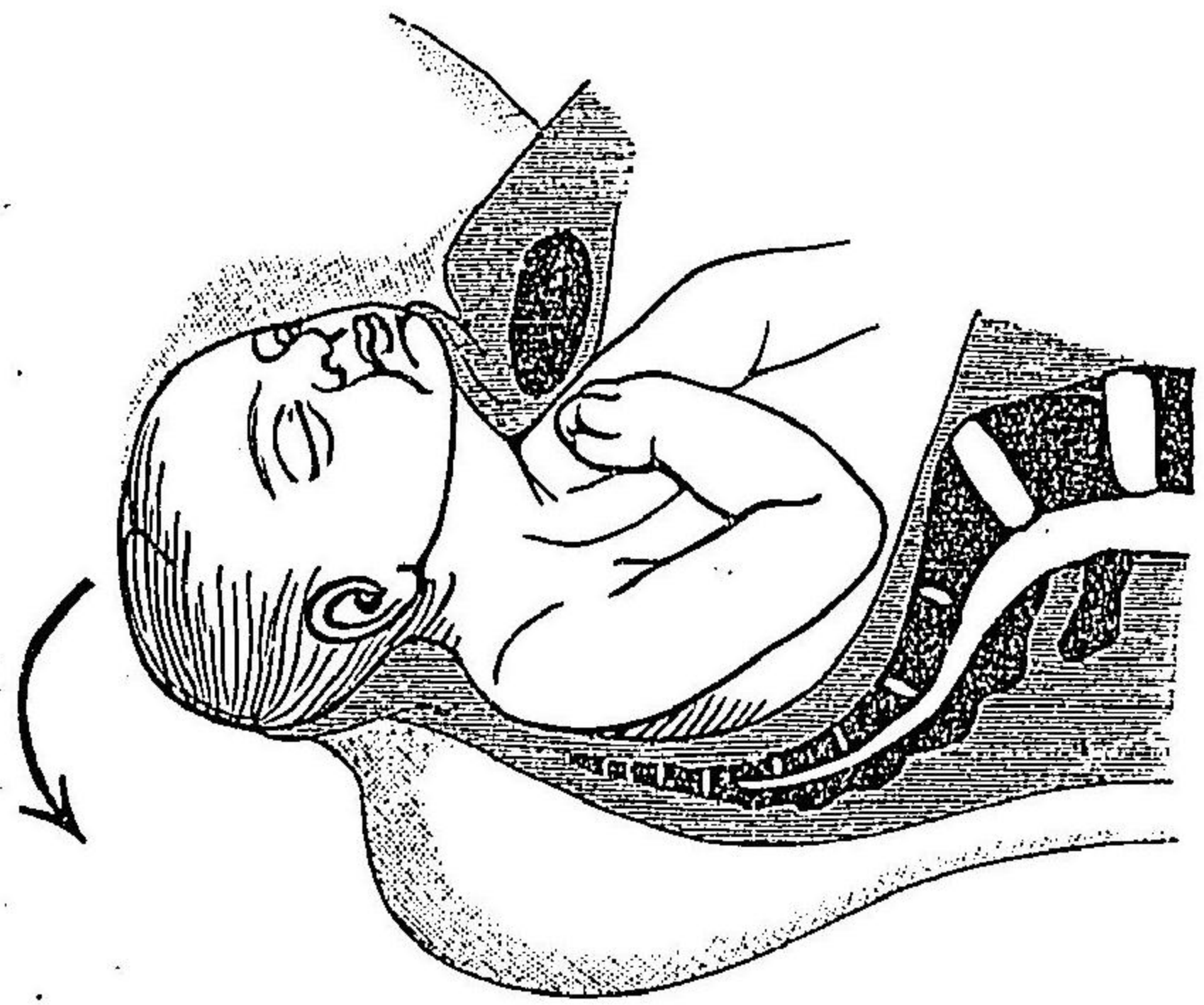
第一百二十一圖



同上 其二

分娩器械的作用

圖 二百一十二

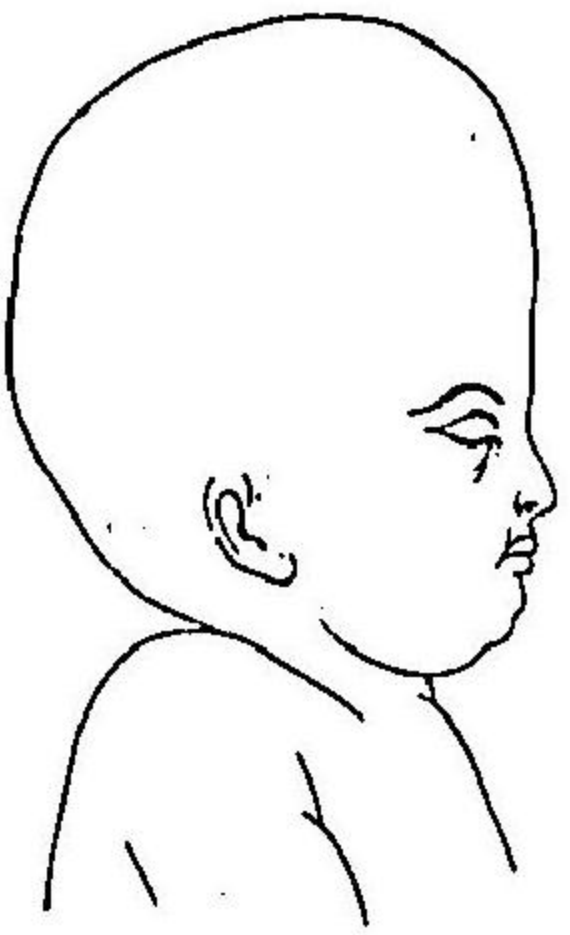


圖ノスナチ轉回軸横ニ方後 上 同

窄骨盤骨盤内腫瘍大胎兒前置胎盤及子宮ノ異常ナル形狀兒頭畸形等
 ニシテ特ニ強劇陳痛ノ如キ兒頭ヲ遑カニ骨盤内ニ壓入スル爲メ後頭
 ハ座骨棘ニ壓定セラル、ヲ以テ前頭下降先進スルモノナリ。
 分娩器械的作用 骨盤内
 ニ於テ横軸ノ回轉ニ由リ前
 頭下降シ前頭後頭周圍ハ最
 大周圍トナリ、次テ縱軸回轉
 ニ由リ額部前方ニ來リ、更ニ
 横軸回轉ニ由リ額部ハ耻弓
 下ニ固定シツ、後頭會陰ヲ
 排シテ出テ、再ヒ同軸ノ後方
 ニ向ヘル回轉ニ由リ顔面ハ
 耻弓下ニ撥露ス。稀ニハ其最
 大周圍ハ後頭位ト同シク、小

産瘤

圖 二百一十三



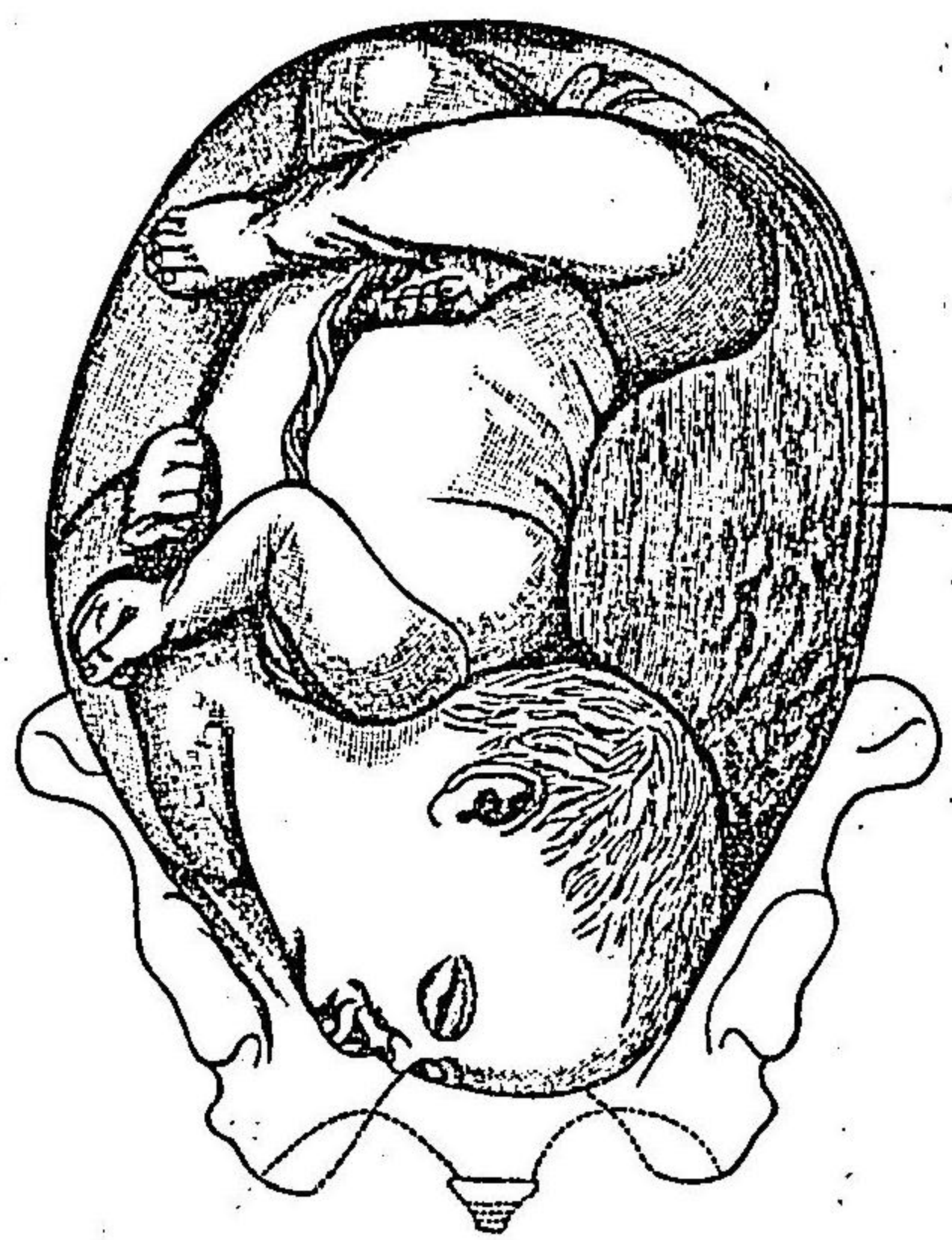
狀形ノ頭兒出娩位顔前

斜徑周圍ヲ以テ婉ル、コトアリ。殊ニ抵抗微弱ノ場合ニ多シト云フ。然
 レトモ器械的械作用ハ前述ノモノト異
 ナルコトナシ。
 是ノ位置ニ於テ婉レタル胎兒ノ産瘤
 ハ前頭部大顛門ノ近傍ニ在リ。第一體
 向ハ右側ニ、第二體向ハ左側ニ生ス。又
 娩出後ノ兒頭ノ形狀ハ第百二十三圖ノ如シ、原因中記載セル兒頭畸形
 殊ニ後頭過大ノ如キハ、分娩ノ結果ナラント云フ。
 此ノ位置ハ異常回轉ナルヲ以テ、娩出時期ノ遅延ヲ來シ易ク、從テ分娩
 時補助ヲ要スルコト多キモノナリ。

顔面位 *Gesichtslage*

診斷

圖四十二百一第



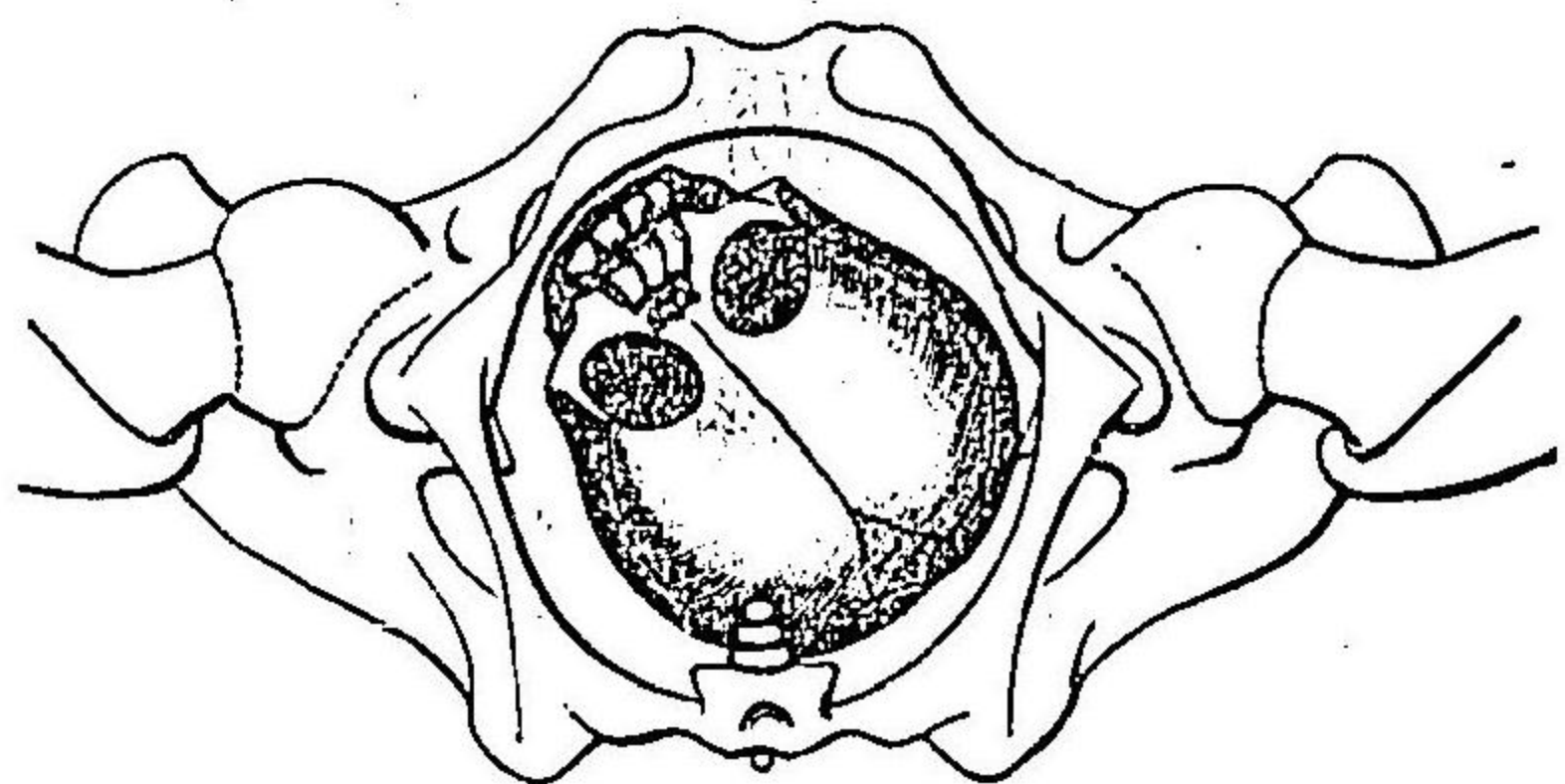
位面顔一第

産ニ編入スル人多シ。而シテ此ノ位置ニ於ケル體向ハ第一、四ニ對スルノ比例ナリ。

外診 胎兒軀幹ハ母體縱徑ニ斜ニシテ、小部分ハ子宮

顔面位ノ胎兒ハ頸部及軀幹ノ姿勢ヲ變シ、頤部ハ胸部ヲ離レ、頸部ハ前方ニ向テ凸出シ、顔面下降シ、殊ニ頤部骨盤内ニ先進ス。後頭位ニ比スレハ、其胎勢ヲ異ニスルカ故ニ、特別ノ位置トナスヨリハ寧ロ胎勢ノ變状ト見做スヘシトモ云フ人アリ。而シテ其異常胎勢ナルカ故ニ、分娩ニ困難ヲ來スコト多シト雖モ、自然分娩ヲ爲シ得サルニアラサルヲ以テ、常

圖五十二百一第



圖像想、ノモル在ニ部潤盤骨テシニ位面顔

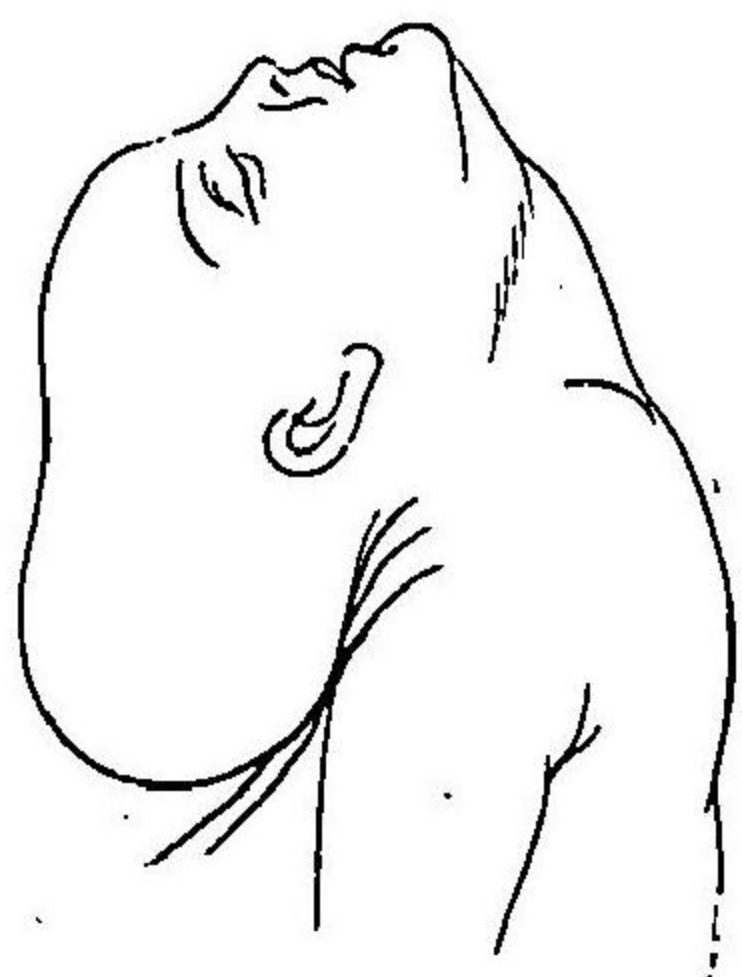
基底部ニ密接スルヲ以テ、子宮ノ形狀ハ其中央部狭ク、恰モ砂時計ノ如シ。而シテ基底部ハ多少側方ニ偏シ、時トシテ下腹部ニ於テ頤部ニ相當シ、馬蹄形ノ如キ硬物ヲ觸知スルコトアリ。心音ハ後頭位ト異リ、後頭部ノ壓迫ノ爲メ胎兒胸部ノ子宮壁ニ密接スルヲ以テ、兒背ノ向テ側方ノ反對側ニ在リ。フッシュェル氏ハ顔面位ノ胎兒心臟鼓動ヲ腹壁下ニ觸知セリト云フ。

内診 分娩初期ニ於テハ、下向部ノ骨盤内ニ下降スルコト晚ク、漸クニシテ之レヲ觸知シ得ルモ、唯比較的平坦ニシテ、少許ノ突隆ヲ有スル一大硬面ニ接スルノミ。後期ニ至リ、顔面深ク進ムトキハ、鼻口下顎骨殊ニ頤部ヲ觸知スルヲ以テ、之レヲ證シ得ヘシ。然レトモ鼻ハ産瘤ノ爲メニ其形ヲ失フコト有リ、口モ亦其周圍ノ壓

器械的作用

迫ニヨリ、其横裂口變シ、縦裂トナルコトアリ。故ニ上下齒齦或ハ舌ヲ診ス可シ。齒齦ハ上下ニ平行ニ走レル硬キ堤狀ノモノナリ。又舌ハ口中ニ指ヲ入ルレハ、生胎兒ハ吸引運動ヲナスモノナリ。口ト頤部トヲ確知スレハ、顔面タルコトヲ證スルヲ得ヘシ。然レトモ舌ハ毀損シ易キモノナレハ、觸診ハ大ニ注意スヘシ。前頭縫合或ハ眼窩縁ヲ診斷材料ト爲スコトアレトモ、生胎ナルトキハ、眼ハ成ル可ク之レヲ避ケテ、觸ル可カラス。是レ内診指ニ依リ、腔内ノ不潔物ヲ眼險下ニ送入スルトキハ、初生兒ヲシテ盲目タラシムルノ虞ナキニアラサレハナリ。

第一二百二十六圖



顔面ニ於テ出ルル胎兒ノ頭形

トシテハ、初メ顔面ノ長徑ハ骨盤上口ノ横徑或ハ斜徑ニ一致シ、第一横軸回轉ニヨリ、頤部先進シ、第二縦軸回轉ニヨリ、頤部前方ニ回轉シツ、骨盤下口ニ來レハ、其縦徑ニ一致シ、第三横軸回轉ニヨリ、撥露スルモノナリ。此頤部稀ニ後方ニ回轉シ、

産瘤

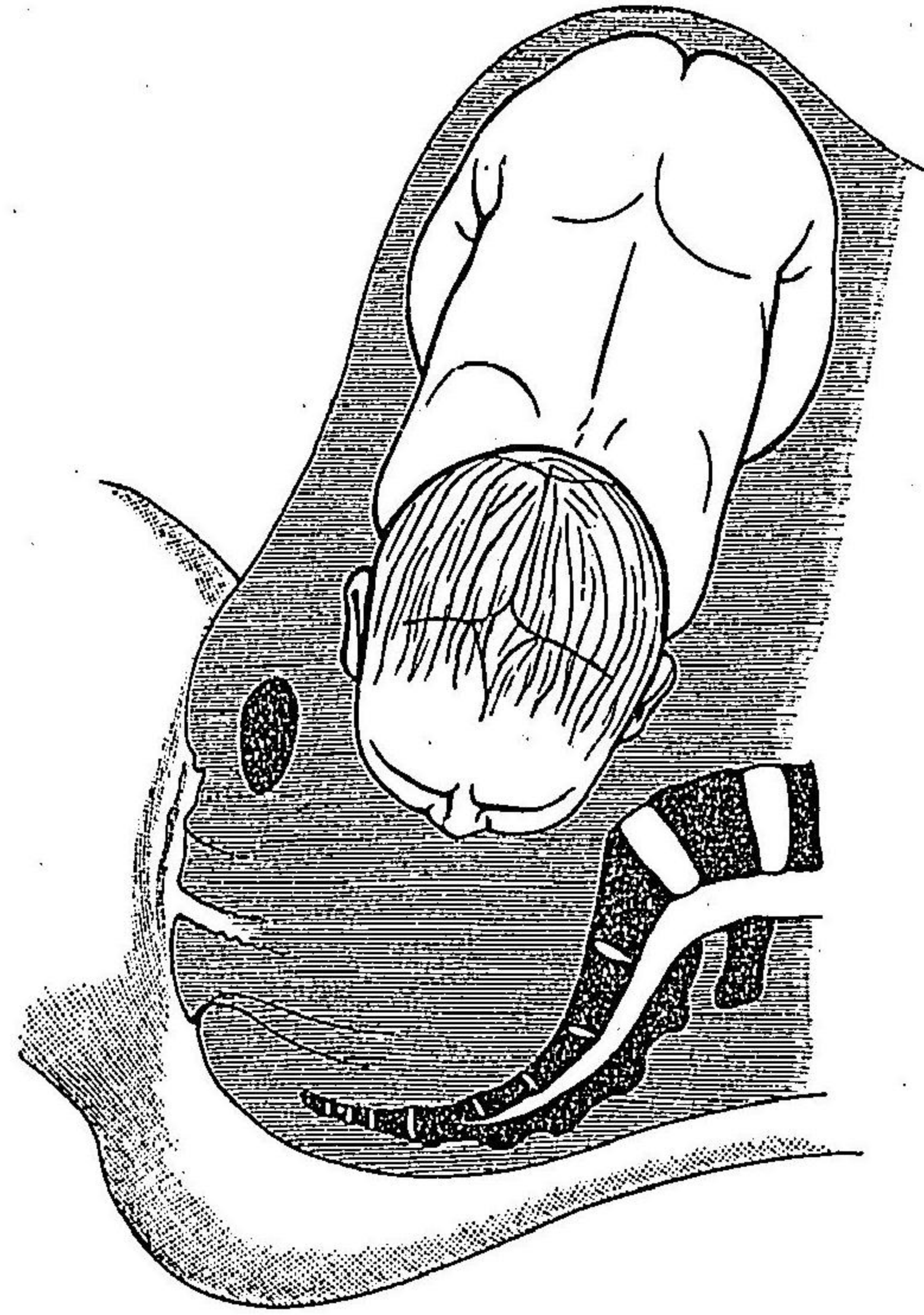
原因

自然分娩ヲ遂ケ得サラシムルコトアリ。産瘤ハ口角及頰部ニ生シ、顔面ハ其半側ニ於テ、腫脹シ紫紅色ヲ呈シ、時ニ水泡ヲ生シ、尙ホ亦皮下出血ヲ來スコトアリ。

原因 種々ノ説アリ。モリソ一氏ハ母體ノ劇烈ナル運動ニ由ルトナシシヤツツ氏ニ據レハ、子宮ノ異常發育ニ原クモノナリト云フ。而シテ同氏ハ其子宮基底部ノ幅廣クシテ内腔心臟形ヲナセルカ爲メニ、胎兒ノ背部ハ凹形トナリ、顔面位ヲ來セルヲ實見シタリト云フ。フロインド氏ハ子宮筋肉ノ痲痺質トナシ、是レカ爲メ兒頭後部ハ上方ニ昂ルモノナリトス。レエデレル氏ハ早期ニ於ケル急劇ナル陳痛ノ襲來トナシ、レブレット、ホール二氏ハ前置胎盤或ハ子宮ノ側方斜傾トナシ、アールフェルド氏ハ膀胱充盈ノ爲メトナシ、ランゲ氏ハ過度ノ骨盤傾斜トナシ、エストリヒ氏ハ骨盤ノ畸形及狹窄トナシ、シーボルト氏ハ胎兒ノ頭部過大又ハ異常胎勢ナリトナシ、ヘッケル氏ハ先天性ニ前後徑ノ長キ頭形ニ原クモノトナシ、其他項部筋肉過度ノ發育及其痙攣性收縮トナシ、アール

フルド氏ハ又先天性甲状腺腫トナス。然レトモ此ノ頸部ノ腫脹及長頭ノ如キハ、分娩ノ結果トシテ説明シ得ヘシ。斯ノ如ク諸説多シト雖モ、未タ眞ノ原因ト見認ム可キモノ無シ。骨盤狹窄、懸垂腹、羊水過多症、初メ弱クシテ後ニ遊ニ來ル強劇ナル陳痛、大胎兒、

第一二百七十七圖

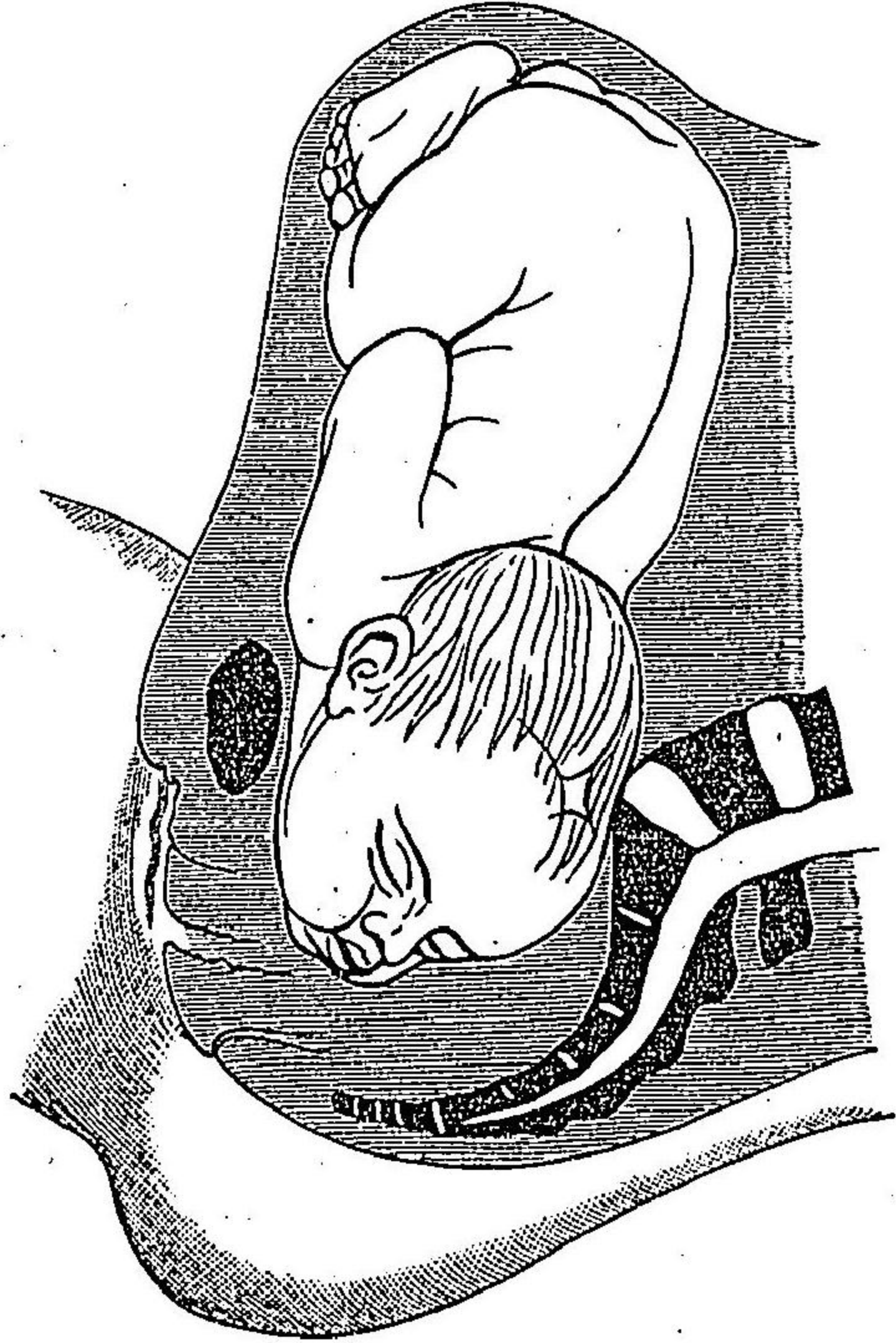


第一面顔位
兒頭骨盤上入口ノル圖

殊ニ兒頭ノ骨盤入口上部ニ移動スルトキ、産婦位置正シカラサルモノ等是等ノ二三同時ニ來ルトキハ原因トナルモノナラン。

第一面顔位
1. Gesichtslage.

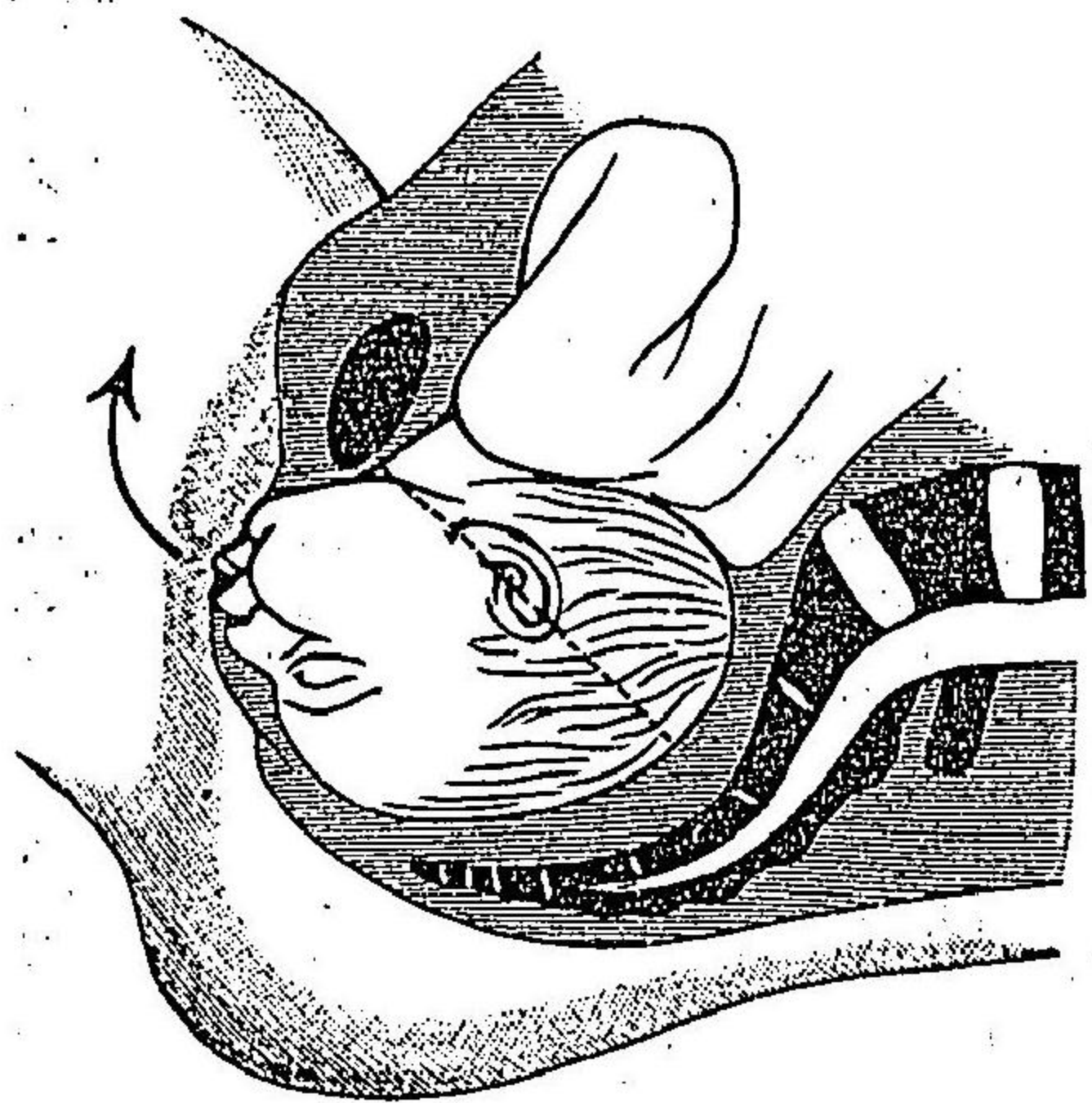
第一二百二十八圖



同上
兒頭骨盤潤部ニ在ル圖

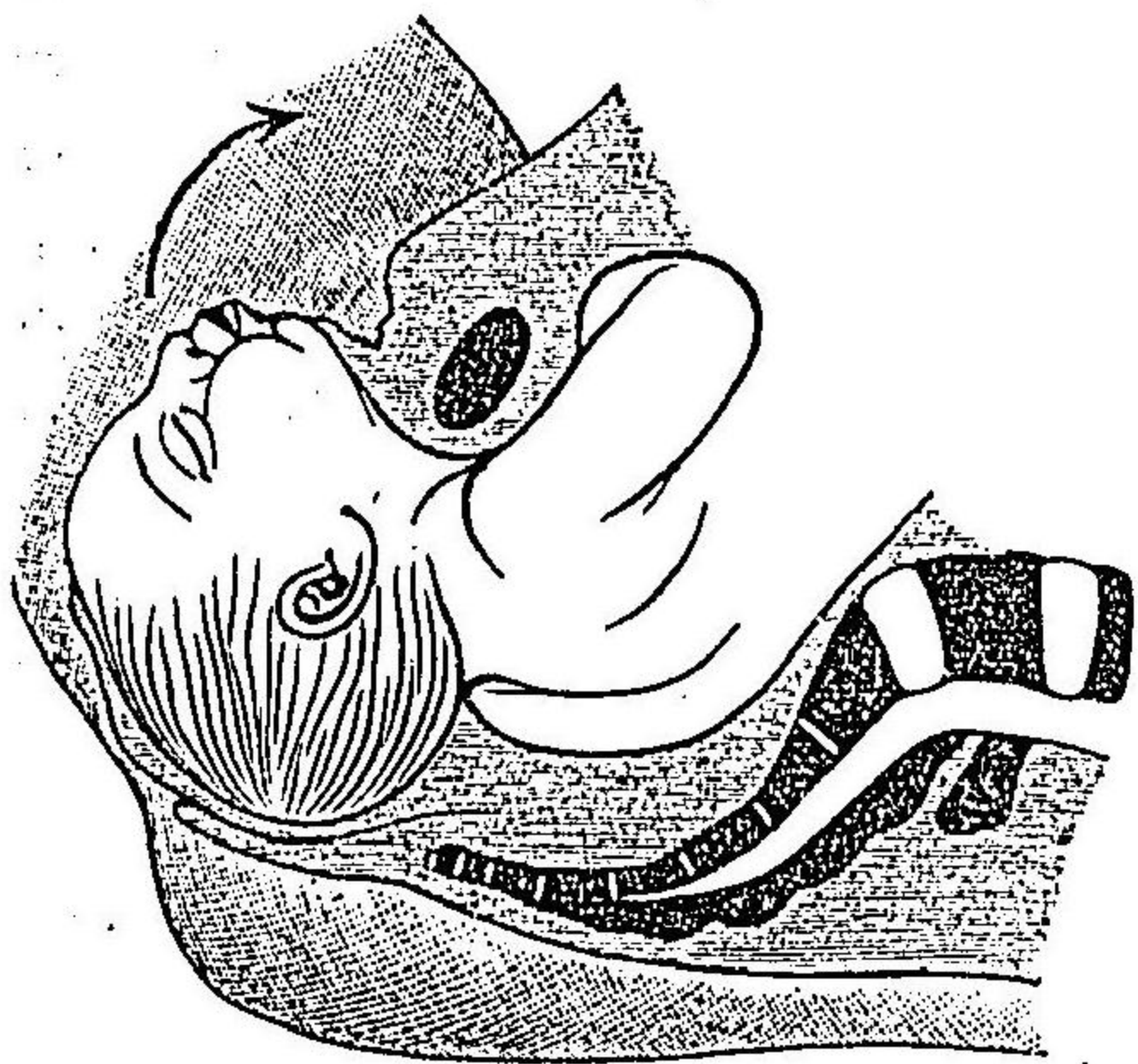
診斷 臀部ハ左上方ニ、小部分ハ右上方ニ在リ、兒背ハ左上方ヨリ右
 下方ニ斜ニシテ、左側ノ腸骨窩ニ後頭ノ突隆スルヲ觸知ス。心音ハ臍下
 右下腹部ニ在リ。内診スレハ、分娩初期ニハ穹隆部ハ空虚ニシテ、顔面ノ
 骨盤上口ニ入ルトキハ、其長徑ハ上口ノ横徑線ニ近ク、頤部ハ右ニ在リ

第一百二十九圖



同上 兒頭骨盤狹部ニ在ル圖

第一百三十三圖



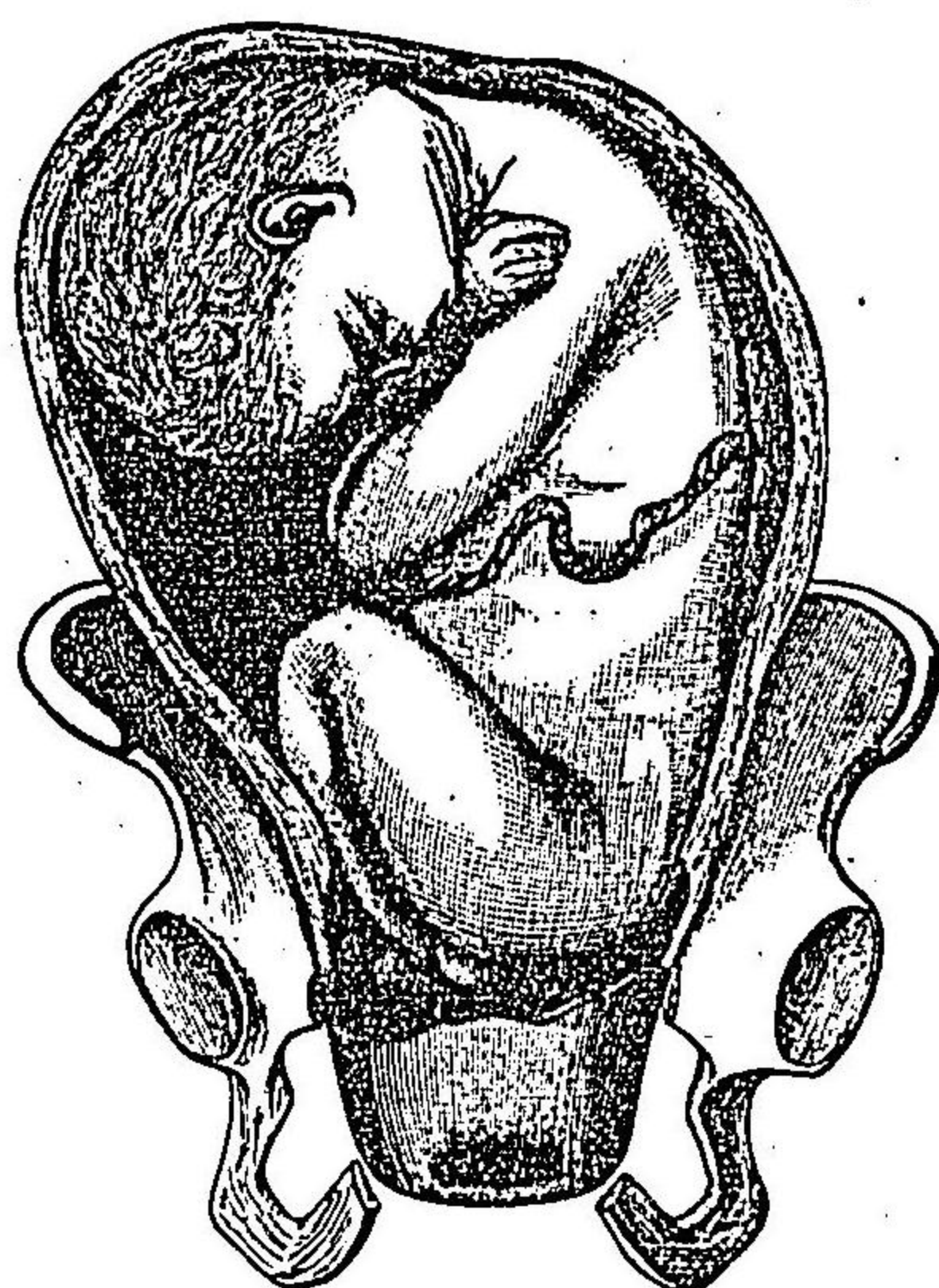
同上 兒頭骨盤下口ヲ通過スルノ圖

欠

MISSING

診斷

第一三二二圖



第一臂位

診斷 大ニシテ硬キ球形ナル頭部ハ子宮底ノ一方ニ在リテ。小部分ハ遙ニ下方ニ在リ、兒背ハ母體縱軸ニ平行ス。心音ハ臍高又ハ少シク其上方ニ在リ。腹部及子宮ノ形ハ頭部上方ニ在ル爲メニ、其部分少シク膨隆ス。臂部ハ分娩ノ開始ニ至ルマテ、骨盤入口ノ上ニアリ。是レ側方ニ偏在セル兒頭ニ於ケル子宮底部ノ壓迫ノ爲メ、臂部ハ反對側ノ下方ニ偏在スルニ由ル。故ニ腔穹隆部ハ分娩ノ初期尙ホ空虚ナルコト多ク、時ニ僅ニ足部ヲ觸知シ得ルコトアリ。分娩時胎胞ハ大

骨盤端位

ニシテ初メハ腔内ニ胎兒部分ヲ觸知スルコト少ク、後ニハ柔軟ニシテ、凸凹不平ナル丸キ物ヲ觸知ス。胎胞破ルレハ、直接ニ臀部ヲ觸知シ得ヘシ。臀部ハ頭部ト異ナリ、柔軟ナル二箇同大ノ半球狀物ニシテ、其境界ニ溝アリ、溝ノ中央ニ肛門アリ。其兩半球狀物内ニハ座骨結節ヲ觸知ス。肛門ノ觸知ハ臀部ノ確證トナスコトヲ得レトモ、時トシテ口ト誤ルコトナキニ非ス。然レトモ口ニ比シ小ナルコトト生胎兒ニハ活約筋ノ働アルトヲ以テ、區別スルコトヲ得ヘシ。肛門ヨリ溝ニ沿テ、一方ニ進メハ、尾骶骨ノ尖端ヲ觸知シ、反對ノ側方ニ於テハ、外陰部ニ觸知スベシ。外陰部ハ腫脹ニヨリ、變形シ、男女ノ區別明ナラサルコトアリ。陰囊腫脹ハ時トシテ、雙胎第二胎兒ノ胎胞ト誤ルコトアリ。而シテ是等ノ軟部ハ腫脹變形スルニ從テ、傷創シ易キヲ以テ、内診時診斷ニハ成ルヘク骨部ヲ以テスルヲ要ス。

器械的作用

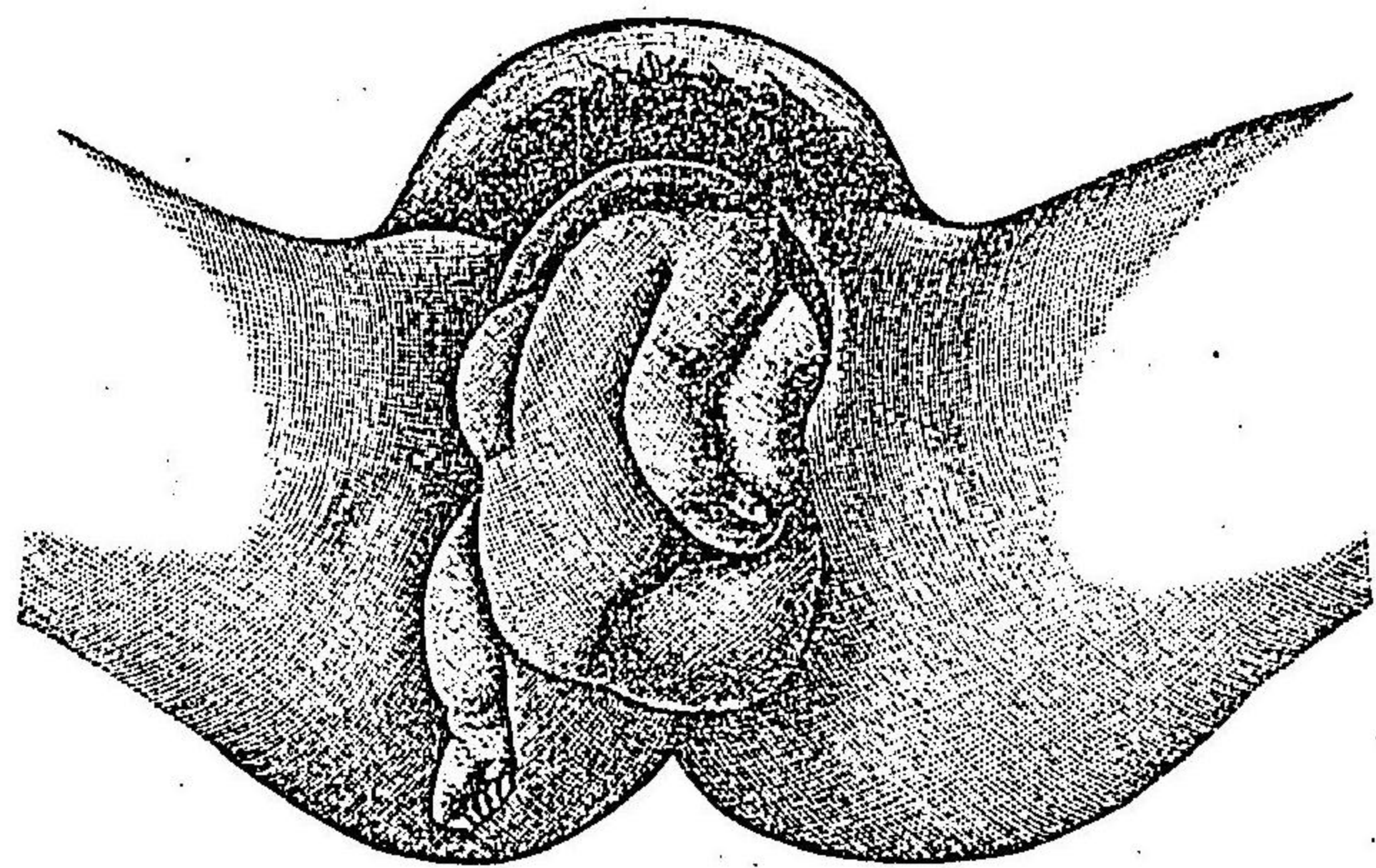
初メ臀部横徑ハ骨盤ノ横徑或ハ斜徑ニアリ、而シテ第一前後軸回轉ニヨリ、一方ノ臀部ハ深ク骨盤腔ニ入り、第二縱軸回轉ニ

器械的作用
第一前後軸回
第二縱軸回轉

欠

MISSING

第一百三十八圖

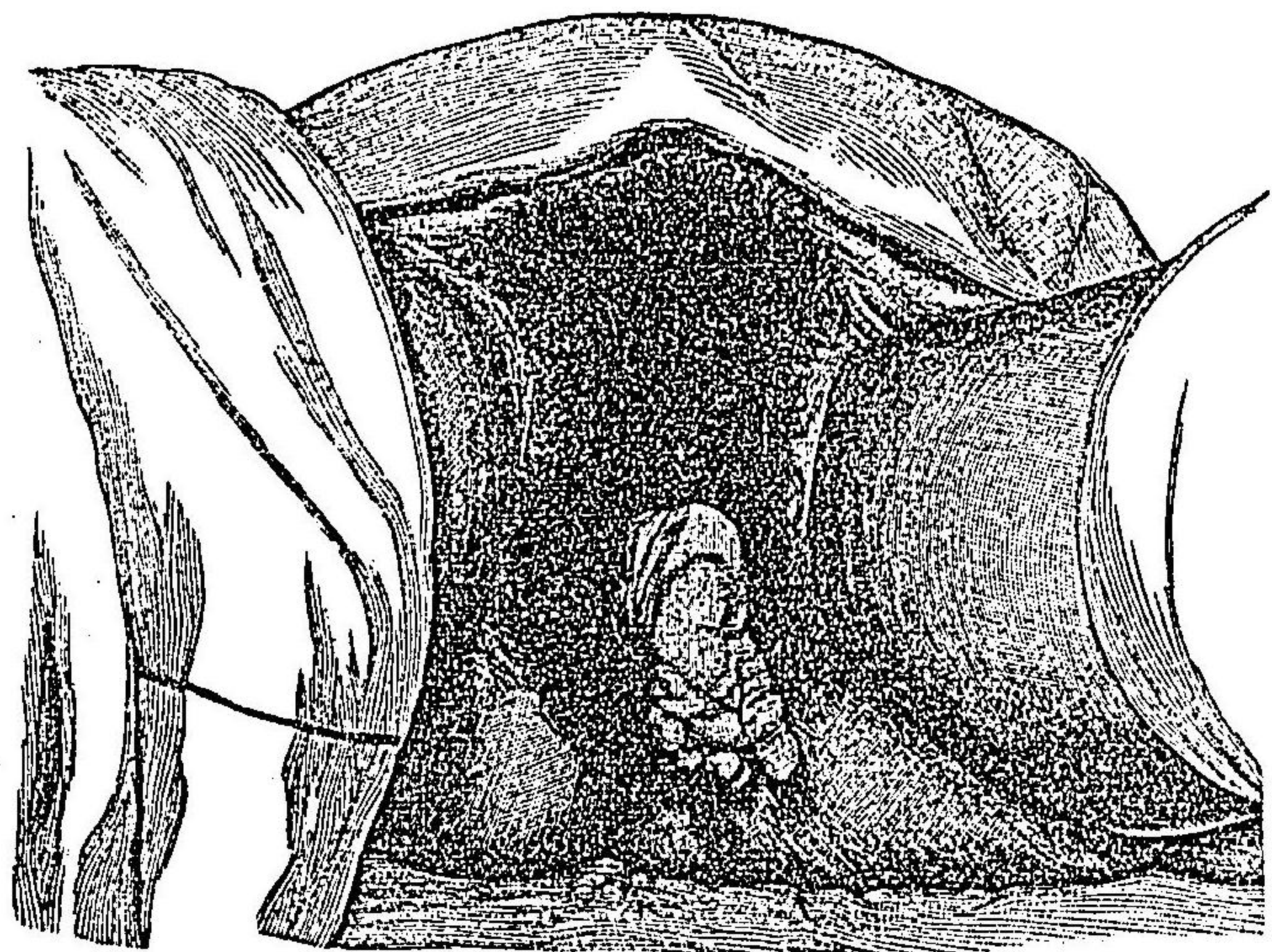


腎位ニシテ頭部マテ娩出セラル

ニ在リ而シテ胎兒腰部ノ前後徑ヲ軸トシテ回轉シ前方臀部ハ深く骨盤腔ニ入り第二其直軸ニ回轉シ右前方ノ左側臀部ハ前方ニ回轉シツ

ツ下リテ耻骨縫際下ニ來ル即チ臀部横徑ハ骨盤狹部ノ縦徑ト一致ス第三回轉ハ再ヒ前後徑ヲ軸トシ左側臀部ハ耻弓下ニ固定シテ右臀部ハ會陰ヲ排シテ娩出ス。臀部娩出スレハ軀幹ハ兒背ヲ左前方ニ向ケツ、進ミ、下肢軀幹ト共ニ娩出ス。上肢モ亦胸部ニ接シツ、肘關節ヨリ現出シ、肩胛ハ左肩胛耻弓下ニ、右肩胛ハ後方會陰ヲ排シテ出ツ。兒頭ノ矢狀徑ハ初メ骨盤横徑ニ在リ。後ニ狹部ノ縦

第一百三十九圖



不全足位

徑ニ向ヒテ進ミ後頭ハ耻骨縫際下ニ來リ顔面ハ頤部ヲ先ニシテ會陰ヨリ娩出ス產瘤ハ左側ノ臀部ノ後方ヨリ外陰部ニ生ス。

第一臀位(尾骶位)

II. Steisslage.

兒頭ハ子宮底ノ左側ニ兒背ハ右側ニ在リ心音ハ臍高或ハ臍上右方ノ外側ニ近キ所ニ聽取ス内診スレハ臀部横徑ハ第一斜徑線

ニ在リテ尾骶骨尖端ハ右側ニ在リ右側臀部前進ス。

器械的作用ハ第一體向ト異ナルコト無シ唯兒背ノ方向反對セルノミ。產瘤ハ右臀部及外陰部ニ生ス。

骨盤端位中膝位足位ハ臀位ノ異常胎勢ト見認ム可シ兩足出ルモノヲ全トシ一足出ルモノヲ不全トナス即チ不全足位 (*unvollkommene Fusslage*)

全足位 (*vollkommene Fusslage*) 不全膝位 (*unvollkommene Knielage*) 全膝位 (*vollkommene Knielage*) トナス。

各位置ニ於ケル分娩ノ豫後

前記ノ諸位置中最モ良好ナルハ後頭位分娩ニシテ殊ニ第一後頭位ナリ後頭位ノ最大周圍ハ他ノ頭位ニ比シ最小ニシテ周圍三十二仙迷直徑九仙迷ナリ第二後頭位モ殆ント同一ノ豫後ナレトモ唯時トシテ前

後頭位胎兒死亡數
前頭位胎兒死亡數

顔位ニ變スルコトアルヲ以テ、之レニ次ク、而シテ前頭位ハ其周圍三十四仙迷ニシテ、前方幅廣キ故ニ軟部ニ挫傷ヲ來シ易ク、胎兒モ分娩時比較的長時間ヲ要スル爲メ、危險多シ。第一第二後頭位ニ於テハ、胎兒ノ死亡數ハ二、五%ナレトモ、他ノ前頭位等異常回轉ニアリテハ、十五%ナリ。

(ウインケル氏)

顔面位胎兒死亡數

顔面位モ自然分娩ヲ遂ルモノナリ。然レトモ後頭部ニ由リ子宮壁ノ一部擴張セラル、ガ故ニ、疼痛多ク、又銳角ノ頤尖ニヨリ、挫傷多ク、爲メニ膀胱瘻ヲ生スルコトアリ。尙ホ顔面ハ直徑大ナル爲メ、會陰破裂ヲ起シ易シ。胎兒ハ頸部ノ靜脈壓迫ニヨリ腦充血竝ニ出血ヲ來ス。又小部分及臍帶ノ脫出臍帶ノ纏絡早期破水ノ爲メ分娩ノ障礙ヲ起シ、分娩後ハ舌口唇ノ腫脹ニヨリ、一時嚥下及呼吸困難トナル。故ニ前頭位及顔面位ハ難産ノ部類ニ屬スヘキモノニシテ、其死亡數ハウインケル氏ニ據レハ、十三%假死七、五%ナリ。

骨盤端位ハ母子共ニ豫後不良ナリ。早期ニ胎胞破レ羊水ヲ漏スコトア

骨盤端位胎兒死亡數

リ。殊ニ胎兒ハ其臍部先進部ニ近キヲ以テ、臍帶ハ長時壓迫ヲ受ク。殊ニ頭部骨盤内ニ在ルトキニ於テ甚シ。其他胎兒ハ早ク其軀幹ヲ空氣ニ曝サル、ヲ以テ、其冷却ハ刺戟トナリテ、早期ニ呼吸シ、粘液胎糞ヲ吸入シ、假死トナリテ救フヘカラサルニ至ルコトアリ。從テ挽出手術ヲ要スルコト多キモノナリ。

骨盤端位中比較的豫後ノ佳良ナルハ臀位ニシテ、足位ハ不良ナリ。是レ臀位ハ其前進部ノ大サ頭部ニ近キト、臍帶ノ伸揚セル兩足間ニ在ルトヲ以テ足位ニ比シ、壓迫ヲ受ルコト少キニ由ルナリ。故ニ不全足位ハ全足位ヨリモ良シトス。此ノ位置ニ於ケル胎兒死亡數ハ統計一致セズ。或ハ二十六%(ヘッケル氏)或ハ十九、二八%(ウインケル氏)トナシ。尙ホ大數ノ死亡統計ヲ掲クル人アリ。

生理的分娩ニ依リ後頭位胎兒ノ受ル影響

生理的分娩ニ依リ後頭位胎兒ノ受ル影響

心音ノ變化

胎兒ハ破水前ニ於テハ分娩機能ノ爲メ受クル所ノ影響ハ極メテ輕微ナルモノナリ

心音ハ羊水尙ホ漏出セサル時ニ於テモ多少ノ變化ヲ受ク殊ニ破水後排出期ニ於テハ其變化著シク陳痛發作時ニ於テハ其數ヲ減シ間歇時ニ至レハ前狀ニ復ス而シテ分娩末期ニ至レハ陳痛間歇時ト雖モ少シク減少ス此ノ現象ハ胎盤内瓦斯交換ノ不及ヲ以テ説明シ得可シト云フ然レトモ破水前ノ現象ハ之レヲ以テ説明スルコト甚タ難シ

アールフェルド氏ハ是レヲ陳痛ノ爲メニ胎盤内動脈血輸入ノ缺乏ト此ノ靜脈血ノ排出不全トニ原クモノナラント云フ即チ陳痛時ニハ絨毛ハ酸素ニ乏シキ血中ニアルヲ以テ臍帶靜脈内ノ血液ニ酸素乏シキカ爲メナリト云フ

胎動ノ減少

分娩ノ開始ト共ニ胎兒ハ運動ヲ減ス是レ場所ノ狹隘ナルニモ關スルナランカアールフェルド氏ハ尙ホ他ニ神經中樞ノ關係モアラント云フ

兒頭形狀ニ及
ホス影響

産瘤

排出期ニ於テ胎兒ハ尙ホ著シキ變化ヲ受ク即チ兒頭骨盤上口ニ入ル時ハ其矢狀縫合ハ殆ント骨盤横徑ニ一致スレトモ多クハ少シク後方ニ近ツクモノナリ是レヲキーゲレー氏ノ「ラブリクイター」ト云フ是レ胎兒軸ハ骨盤上口ニ直角ナラスシテ腹壁延長ノ爲メ上部前傾スルカ故ニ前上部ニ近キ部分ヨリ骨盤上口ニ向フモノナリ而シテ兒頭此ノ形ヲ以テ進ム時ハ前方顛頂骨ハ後方顛頂骨ノ上ニ重疊シ前頭後頭ノ二骨其ノ下方ニ重リ尙ホ一方ノ顛頂結節ハ他方ニ比シ後頭結節ニ近ツクモノナリ(ドーレン氏)

兒頭ハ後頭ヲ先ニシテ圓柱狀産管ヲ通過スル爲メニ前頭ヨリ後頭骨ノ基底部ニ向テ壓迫ヲ蒙リ後頭方向即チ兒頭ノ長徑ニ前後徑延長ス加之ナラス初妊婦ニ於テハ下子宮部ト骨盤上口ノ爲メニ兒頭卵圓形トナルヲ以テ其變形尙ホ著シ殊ニ此ノ延長セル尖部ニ産瘤ヲ生スルトキハ奇異ナル形狀ヲ呈スルニ至ルモノナリ

産瘤ハ兒頭ノ腔内ニ向ヘル部分ニ生スルモノナリ是レ其上部周圍ハ

生理的分娩ニ依リ後頭位胎兒ノ受ル影響

産道壁ニ輪狀ニ接觸シ其尖部ハ壓迫ヲ受ルコト少ナキカ爲メニ其皮膚ノ皺襞ニ鬱血シ毛細管ハ擴張シ漿液浸出スルニ由リ腫脹スルモノナリ殊ニ其腫脹ハ中央部ニ著シ。

破水以前ニ於テハ其先進部モ子宮腔内ト同一ナル壓迫ヲ受クルニヨリ産瘤ヲ生スルコトナシ然レトモ時ニ頭蓋最大周圍ノ強ク絞窄サルルコトニ由リ前房水ハ他ノ羊水ニ比シ壓力少ナキカ爲メニ小産瘤ヲ生スルコト有リ破水早期ナルトキハ強硬ナル子宮口縁ニヨリ絞窄セラルモノナリ狭窄骨盤ニ於テハ其大サニ應シ産瘤堤狀ニ生ズ又膈入口或ハ陰唇ノ抵抗ニ依リテモ産瘤ヲ造ルコトアリ。

娩出セル胎兒第一呼吸ノ原因

胎兒分娩後第一呼吸ヲ來ス原因ニ就テハ種々ノ説アルヲ以テ左ニ是

レヲ記ス。

皮膚ノ刺戟説ハブライエル氏ノ云フ處ナレトモ、ゴーンスタイン氏及ツンツ氏ハ之レヲ反證ス。又分娩後其皮膚ノ冷却ニヨリ呼吸ヲ起スト云フ人アレトモ、ブライエル氏ハ温湯ノ中ニテ分娩セシムルモ、尙ホ呼吸ヲ爲セリト云フ。ラース氏ハ胎兒心臟ニ向テ血液多量ニ入ルコトヲ原因トナスモ、確説ニアラス。ミハエリス、チールスハウゼンノ二氏ハ腦ノ充血トナセトモ、ヘルニチウス氏ハ實驗上然ラスト云ヘリ。近時チールスハウゼン氏ハ胸部娩出後ノ擴張ニヨリ呼吸ヲ始ムルモノナリト云フ。然トモ、ブライエルフェルド氏ハ兒頭ノミ娩出セル時尙ホ淺呼吸ヲ爲セシヲ見レハ其理無シト云フ。近頃多クノ人ノ信スル所ハシワルツ氏ノ説ニシテ、血液ノ酸化作用不全ニ原クモノナリトス。此ノ炭酸ニ富タル血液ハ呼吸中樞ヲ刺戟シ、深呼吸ヲ誘起ス。而シテ此ノ呼吸中樞ハ胎兒期ニ於テモ、全ク之レ無キニアラサルコトハ前陳(子宮内胎兒生活反應)子宮内胎兒呼吸ノ例ニ依リ明ナリ。而シテ胎兒假死ノ状態ニ於テ生シタルトキハ、總テ他ノ皮膚刺戟ハ深呼吸ヲ惹起セシムルモノナリ。

分娩ノ母體全身ニ及ボス影響

體温

分娩ハ産婦ノ年齢及體力ニ依リ、影響ヲ異ニス。然レトモ筋肉勞動及腹
壓ノ爲メ幾分ノ影響ヲ蒙ルコトハ總テ免カルヘカラス。
體温ハ分娩經過中十分一度許昇ルモノナリ時トシテハ三十八度或ハ
以上ニ昇リ、尙ホ三十九度以上ニ昇ルコトアリト云フ。然レトモ此ノ高
熱ハ筋肉ノ勞動ヲ以テノミ説明スルコト難シ。多クハ産道内上部ニ於
ケル分解作用ニヨル中毒性ノ熱ナラン。

脈搏

脈搏ハ其數ヲ増シ、心臟ノ働キ大ニ亢進ス。殊ニ陳痛及腹壓ノ間歇短ク、
陳痛頻發スルニ至レハ、其變化著シク、排出期ニハ百乃至百二十ニ達ス
ルコトアリ。
産婦ハ時トシテ妊娠末期ヨリ、睡眠不全ヲ來スコトアリ。殊ニ分娩時ニ
於テハ、全ク睡眠ヲ缺クコト多キヲ以テ、甚シク疲勞ス。又分娩中ハ食慾
減退或ハ嘔吐ヲ催シ、疲勞ノ度ヲ増スニ至ル。時トシテハ外陰部ノ擴張
疼痛ノ爲メ、失神スルニ至ルコトアリ。而シテ分娩後ニ於テハ、産時ノ疼
痛ハ全ク止ミ、陳痛モ頻發セサルヲ以テ、多クノ産婦ハ産婆ノ接觸或ハ

産後ノ惡寒

強烈ナル後産期陳痛アルニアラサレハ、胎盤娩出ニ至ルマテ、熟眠スル
コトアリ。

胎兒ノ分娩後直ニ惡寒或ハ戰慄ヲ來スコト少カラス。是レ精神ノ異動、
血液ノ損失、皮膚ノ冷却、産褥ノ濕潤等ニ基因スルモノニシテ熱發スル
コト無ク、毫モ惡兆ニアラサルナリ。

年齢ノ關係

年齢ニ關シテハ極年少ノ婦人ハ種々ノ異常ヲ來シ易シ。又三十歳以上
ノ初妊婦ハ陳痛ノ發作短ク、微弱ニシテ其效少ク、腹壓モ亦微弱ニシテ
軟部産道ノ抵抗大ナル等ニ依リ、分娩時延續シ、從テ手術ヲ要スルコト
多キニヨリ、創傷ヲ蒙ルコト多シ。又陳痛時疼痛甚シキトキハ、大ニ精
神ノ發揚スルコトアリ。

分娩時ノ攝生及取扱法

Die Diätetik und Behandlung der Geburt.

分娩時ニ於ケル胎兒位置ノ九十六%ハ後頭位ニシテ生理的分娩ナルヲ以テ特ニ人工補助ヲ要セスト雖モ其經過中攝生及其取扱宜シキヲ得サルコトアレハ容易ニ異産トナルモノナリ故ニ生理的分娩時ニ於ケル介導ハ通例産婆ヲシテ取扱シムルト雖モ若シ其經過ニ微細ナリトモ異變アルトキハ必ス速ニ診察ヲ請ハシムヘキモノナリ。

正規分娩ノ經過中注意スヘキハ衛生、食事及取扱上消毒ノ注意ナリ。手指、器械、綑帶材料ノ消毒不充分ナルトキハ瘡ニ疾病ヲ惹起スルノミナラス、褥婦死亡ノ大原因トナルモノナレハナリ。

分娩ハ生理機能ナルコトハ前陳ノ如シト雖モ疼痛甚シキ爲メ産婦ハ大聲ヲ發シ呻吟シ、筋肉勞働甚シク出血亦多大ニシテ且ツ分娩經過延長スレハ忍耐力ヲ失ヒ、醫療ヲ乞フモノ多シ。此ノ際分娩上ノ經驗少キ者ハ其状態ヲ病者ト區別スルコト能ハス。不必要否ナ却テ有害トナルヘキ處置ヲ施スコトナキニアラス。又一方ニ模型器ニ就テ演習シ得タ

ル分娩手術法ヲ特ミ、産婦ニ同情ヲ表シ無要ノ手術ヲ施スニ至ルコトアリ。大ニ注意スヘシ。故ニ分娩介導者ハ總テ生理的分娩ノ種々ナル經過ヲ見、其生理的及ヒ病的ノ状態ヲ詳ニスルヲ要ス。

分娩時消毒防腐法

分娩時産道内ハ常ニ數多ノ創傷ヲ受クルモノナレハ此ノ際産道ニ傳染病芽ヲ有スルカ、又外部殊ニ醫師、産婆ノ手及綑帶材料ヨリ傳染病芽ヲ送入スルコトアレハ産褥熱トシテ危険ナル疾患ヲ起シ、遂ニ死ニ至ラシムルコト少ナカラス。産道内ニ病毒ノ存在スルコトハ比較的僅少ニシテ、醫師、産婆ノ手及器械ヨリ多クハ送入セラル、モノナリ。故ニ内診其他内陰ニ接スル場合ニ於テハ、可及的嚴重ナル消毒法ヲ施シ、尙ホ且ツ診断上必要ナキ限リハ内診ノ數ヲ節スヘシ。

内診手ノ消毒ハ左記ノ方法ヲ用ユヘシト雖モ今日ノ學說ニ於テハ、到

底完全ナル細菌學的無菌ハ望ム能ハス故ニ醫師及産婆ハ平素可及的
 其手ヲ清潔ニ保持スルコトヲ勉メ傳染毒ヲ有スル患者即チ實扶埵利
 亞、猩猴熱、産褥熱、腐敗性分泌液ヲ有スル患者又ハ解屍ニ接セシ場合ハ
 少クモ三日間ハ産婦ニ接スヘカラス子宮癌腫ノ如キ腐敗性物ヲ有ス
 ルモノヲ檢診セントスルトキハ診察指ニ「コンドーム」護謨製ノ指囊ヲ
 着クヘシ

實扶性埵利亞、産褥熱等ノ傳染毒ニ接シタル後余儀ナク分娩ヲ介導スルトキハ宜シ
 ク先ツ全身浴ヲ爲シ而シテ衣服ヲ改メ手、毛髮、鬚髯等ヲ洗滌シ殊ニ指ハ全ク其臭氣
 ナ脱スルマテ洗滌シ更ニ嚴重ナル藥液消毒法ヲ用ユヘシ。

手ノ消毒法

手ノ消毒法 フーエルプリンゲル氏ノ法ハ多ク人ノ稱用スル處ナレ
 ハ左ニ掲ク。

指爪ニ附着セシ不潔物ハ乾燥ノ儘除去シ次テ一分間石鹼ト高度ノ溫
 湯ヲ以テ綿密ニ刷拭シ殊ニ爪下ノ間隙ヲ清メ次ニ一分間八十%以上
 ノ「アルコール」ヲ以テ洗ヒ直ニ一%ノ昇汞水又ハ三%ノ石炭酸水ニテ
 一分間洗フモノナリ。

第一百四十四圖



爪兼掃除器

垢塵ヲ刀尖ノ如キモ
 ノ(爪掃除器アリ)ヲ以
 テ除去スヘシ且ツ爪
 尖ハ爪鏟ヲ以テ丸ク
 スヘシ。

現時醫科大學産科婦人科教室ニ於テ用ユル法ハ殆ント同法ナトレモ、
 細記スレハ左ノ如シ。

第一 袖ヲ高舉シ腕ヲ充分ニ暴露シ指ノ爪ヲ短ク截リ爪床及爪下ノ
 第二 溫湯ヲ大鉢ニ湛ヘ石鹼刷毛刷毛ハ大形ニシテ毛強キモノヲ良
 シトス)ヲ以テ指尖指間手及腕等ヲ叮嚀ニ刷洗シ其凹キ部分殊ニ皴裂
 ハ最モ注意シテ刷洗スルコト少クモ五分間ニシテ次テ尙ホ新溫湯
 ヲ湛ヘタル鉢ニ於テ石鹼ヲ洗ヒ落ヌヘシ若シ石鹼ヲ充分ニ洗ヒ落サ
 サルトキハ表皮上ニ脂肪ヨリ成ル滑澤ナル薄層ヲ造リ昇汞水ニ入ル
 ルトキ沈澱ヲ生シ昇汞直接ニ表皮ニ働カサルヲ以テ消毒ヲシテ薄弱

ナラシム。故ニ流下スル湯ヲ用ヒ石鹼ヲ洗ヒ落スヲ良シトス。

第三 四十度アルコールヲ「ガーゼ」ニ濕シ、充分ニ拭掃摩擦スヘシ。

第四 五百倍ノ昇汞水ニ熱湯少許ヲ入レテ、温メタルモノヲ以テ、刷毛ニテ拭刷スルコト二三分ニシテ、其儘拭フコト無ク使用ス。

第一ノ洗拭ハ器械的ニ皮膚ヲ清潔ナラシムル目的ナレハ、刷毛ノ代リニ消毒セル山砂ヲ用ユルモ良シ。尙ホ又其洗拭ノ充分ニ達セシカ、否ヤヲ檢スル爲メ、豫メ手ヲ一%ノ「フクシン」液ニテ染色シ、後其着色ノ脱スルマテ、拭洗スル人アリ。フーリング、デーデルライン二氏ノ稱用セル護手袋ヲ使用セハ、手ヲ全ク無菌トナスコトヲ得ヘシ。

特ニ注意スヘキコトハ一度消毒シタル手ハ決シテ他ノ消毒セサル物ニ觸接セサラシムルコトナリ。若シ觸接セシ疑ヒアラハ、其消毒ヲ反覆スヘシ。初心者ハ往々其手ヲ他物ニ接觸セシコトヲ氣付カサルモノナレハ、勉メテ注意スヘシ。

尙ホ又一度消毒シタリト雖モ、其手乾燥スレハ、其效力減スルカ故ニ、時

産婦ノ消毒法

綿帶材料ノ消毒法

時、消毒液ヲ以テ拭刷スヘシ。

昇汞ニ代用スヘキ消毒液ハ石炭酸或ハ「リゾール」液ナリ。

産婦ノ消毒法 産婦ハ手足身體ヲ清潔ニシ、外陰部及其周圍ヲ分娩ノ始ニ於テ湯或ハ石炭酸水(五十倍)ト石鹼トヲ以テ洗拭スヘシ。然レトモ内陰ハ惡臭分泌物或ハ膿様ノ分泌物アルニアラサレハ、洗フヲ要セス(洗フハ反テ害アリト云フ)。腔内ニハ無數ノ芽胞等アレトモ、病的ノモノニアラサルヲ以テ唯外部ヨリ病的菌ヲ送入セサル様ニ注意スヘキノミ。然レトモ若シ病的ノ分泌物アレハ、第一ノ内診ニ先テ、千倍ノ昇

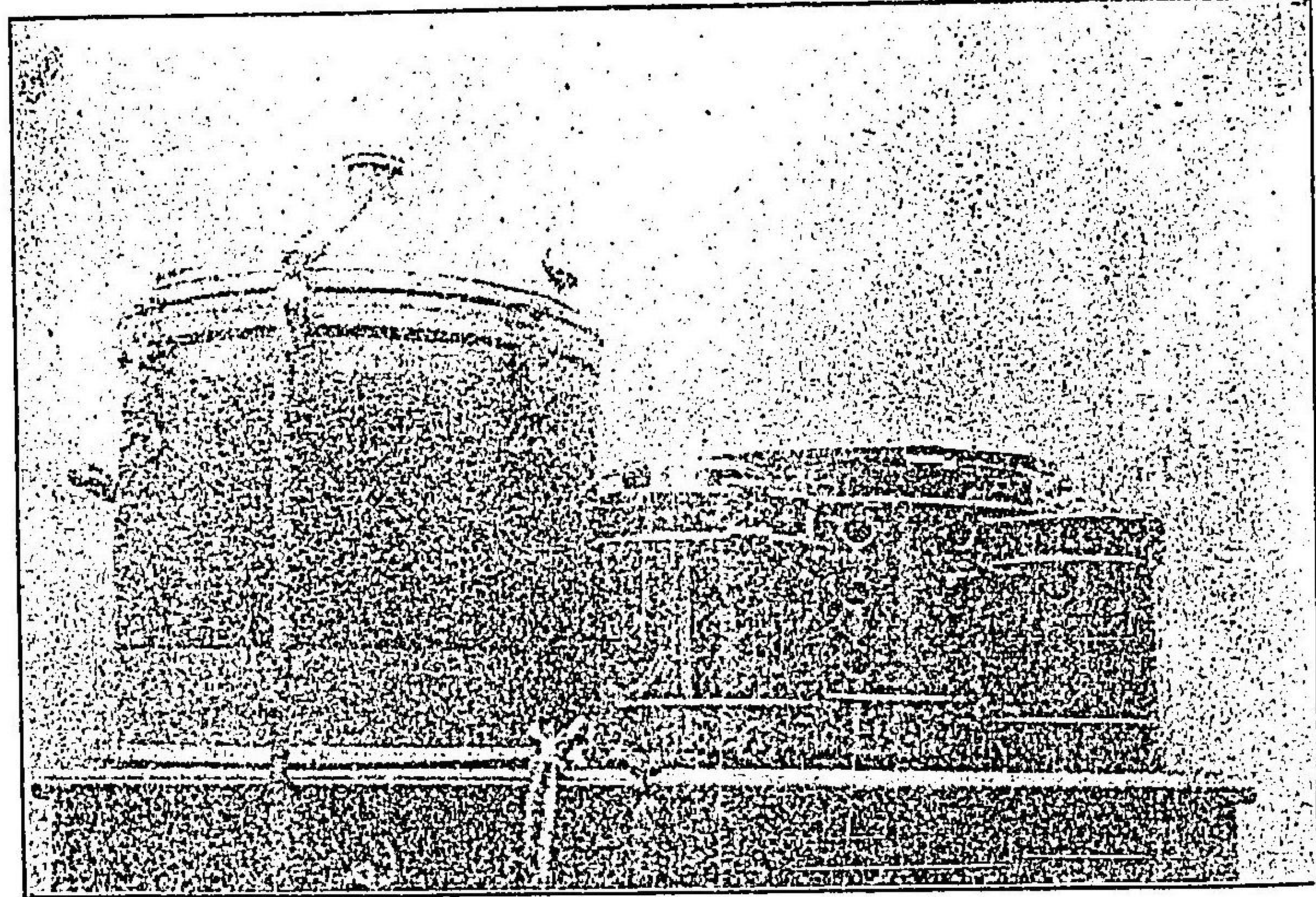
汞水又ハ五十倍ノ石炭酸水或ハ百倍ノ「リゾール」液ヲ以テ洗滌スヘシ。而シテ分娩經過中ハ健全ナル産婦ニ在リテハ、内陰ハ手術前或ハ數度ノ内診後ニ非サレハ、洗フヘカラス。唯外陰ハ時々石炭酸又ハ「リゾール」ニ浸シタル「ガーゼ」或ハ綿花ヲ以テ拭フヘシ。分娩後ニ於テモ其經過異常ナキモノハ洗滌スヘカラス。

綿帶材料ノ消毒殺菌法 從來我國ニ於テハ、分娩時ハ産褥襖ト

唱へ、他ノ使用ニ堪へサル片布類ヲ集メ、或ハ不潔ナル漉返シ紙ノ如キモノヲ用ユルノ習慣アリ。是レ等ハ創傷傳染病現今ノ學說ニ徴スレハ、其危険測リ知ルヘカラス。近時分娩用具ヲ販賣スル者アルヲ以テ、漸々消毒綿ヲ使用スル人多キニ至レルハ、大ニ喜フヘキノコトナリ。然レトモ此ノ消毒綿タルヤ永ク乾燥ノ儘ニ空氣中ニ暴露スルトキハ、微菌ヲ含有スルニ至ルコトアリ。加之營利的製品ニハ往々不完全ノモノ少カラス。故ニ醫師産婆ノ業務ニ従事スルモノハ自ラ之レヲ殺菌シ、使用スルニ如カス。其最モ安全ナルハ充分ニ煮沸スルニアリト雖モ、乾燥綑帶トシテ使用セントセハ、蒸氣消毒ニ依ルノ外ナシ。近時コッホ氏及シンメルプツン氏ノ殺菌罐アリ。手術時ノ綑帶等ハ皆ナ是レヲ以テ消毒ス。余ハ近時コッホ氏殺菌罐ノ上部ノミヲ造リ之レヲ普通ノ釜ニ飯焚釜載セ殺菌罐ニ代用セリ。其形第四百一十一圖ノ如シ。蓋ノ上部ニ寒暖計ヲ挿入セリ。尚ホ綿及ガーゼ等ハ殺菌後塵埃ヲ附着セサラシムル爲メ、第四百一十一圖ノ如キ種々ノ形狀ヲナセル金屬製容器ヲ用ユ。其小ナルハ携

器械ノ消毒法

圖一十四百一第



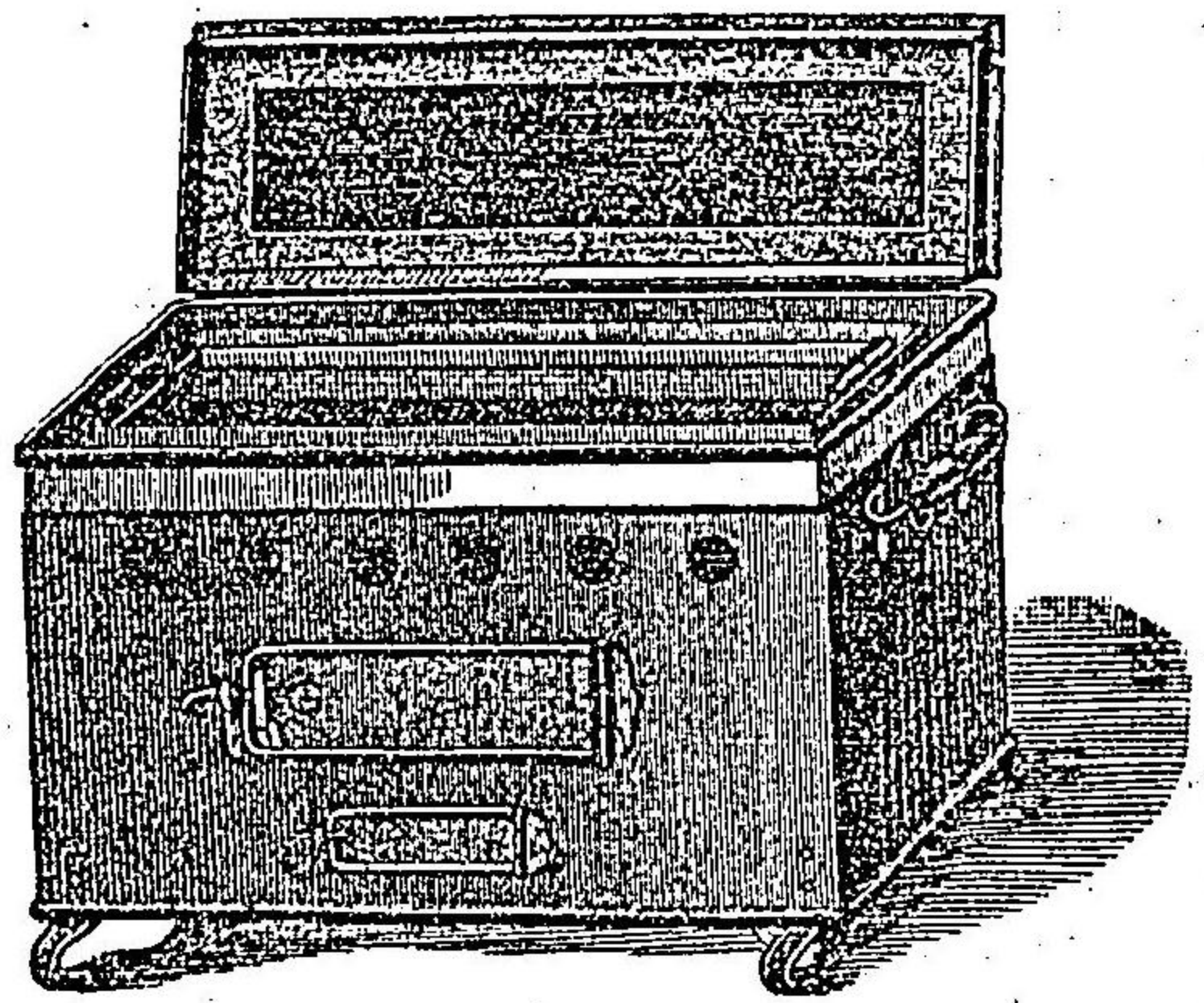
釜蒸菌殺ルセ用使ノ器器容料材帶綑

帶ニ便ナルシムル爲ナリ。此ノ容器ヲ用ユレハ、分娩時單ニ脫脂綿ト脱脂綿紗トヲ以テスレハ、充分ナリ。其使用法ハ初メ綿或ハ「ガーゼ」ヲ容器ニ納メ、其周圍ノ窓ヲ開キテ、罐ニ入レ、罐ヲ密閉シ、其上方ニアル寒暖計百度ニ上昇シテヨリ三十分時ノ後ニ於テ、蓋ヲ開キ、容器ヲ出シ、直ニ其窓ヲ閉チ、貯藏スヘシ。

器械ノ消毒 器械

分娩時ノ攝生及取扱法

第一四二圖



シブメル氏器沸煮器

産婦ノ診察

問診

先ツ問診ニ於テ、年齢、既往ノ疾病及健康状態又初妊ナルカ、經妊ナルカ而シテ經妊ナルトキハ、前回ノ妊娠分娩及産褥ノ經過醫療ヲ要セシヤ

ハ普通分娩時ニ於テ、使用スルモノノミナラス、手術時ニ於ケルモノト雖モ、其多クハ金屬製ナルヲ以テ、使用前五%石炭酸ニ浸シ置キ、或ハ煮沸法ヲ用ユヘシ。病院ノ如キ場所ニ於テハ、シンメルプシ等ノ適當ナル煮沸器アリト雖モ、一般ニハ鍋、釜或ハ金盥ヲ代用スルモ、便利簡易ノ法ナルヘシ。

外診

否ヤ、其小兒ノ健否、次テ最終月經妊娠中ノ經過、分娩ノ初期、其疼痛ノ模様等ヲ尋ヌヘシ。次テ全身状態、體格、營養、脈搏、體温ヲ檢シタル後、外診ヲ爲スヘシ。

外診ハ妊娠診斷學ニ述タル順序ニ從ヒ、子宮底ノ高サ、胎兒ノ位置及大サ、胎動、心音、陳痛ヲ檢スヘシ。妊娠中ニ於テ、一回モ診察セシコト無キ産婦ナレハ、尙ホ骨盤ノ測定ヲ爲スヘシ。

内診

内診ニ於テハ、眞ニ分娩期ナルヤ、否ヤヲ子宮口及其周圍ノ變化ニ由テ定メ、分娩期ナルトキハ、其何レノ期ナルヤ、即チ子宮口ノ大サ、胎胞ノ存否、子宮口唇及胎胞ノ陳痛時ニ於ケル模様、胎兒下向部ノ種類及其骨盤ニ進入セル形状ヲ檢スヘシ。破水後ナルトキハ、下向先進部ノ産瘤頭蓋骨ノ縫合、顛門及其重疊ノ模様、陳痛時下向部前進ノ度、流出スル羊水ノ色性、軟部産道、壓迫ノ有無及腔口ノ延長性ヲ檢スヘシ。而シテ初一回ノ内診時ニ於テ、充分ニ其處見ヲ明カニシ、内診ハ可及的其回数ヲ節スヘシ。若シ數回内診ヲ爲ストキハ、或ハ子宮口唇ノ刺戟ニヨリ陳痛異狀ヲ

分娩時ノ攝生及取扱法

産房

來シ又胎胞存スルトキハ誤テ破ルコト無キ能ハス。又微菌ヲ送入シ易ケレハナリ。診察ハ陳痛強度ノ測定、陳痛ノ子宮口ノ開大ニ對スル働キ及其胎胞ニ來ルカヲ檢スルノ外ハ、總テ間歇時ヲ用ユヘシ。其他尙ホ分娩ノ經過中母體ノ脈搏、呼吸、體溫、疼痛、胎兒ノ心音、膀胱及直腸ノ排泄ヲ注意スベシ。陳痛ハ腹壁ニ手ヲ當テ時計ヲ以テ、其強サ及長サヲ發作間歇ニ就テ測定シ、總テ其處見ト其時間トヲ明カニ記載スヘシ。

醫師産家ニ到レル時、既ニ胎胞破綻セシ後ナルトキハ、直ニ手ヲ消毒シテ、先ツ内診ニヨリ、其狀況ヲ詳ニシ、急劇ノ變ニ備フヘシ。然レトモ通常ノ場合ニ於テハ、成ル可ク前陳ノ順序ヲ以テ、診檢スヘシ。

産房 ハ空氣ノ流通宜シク狭カラズシテ、閑靜清潔ナル室ヲ選ムヘシ。日光ノ直射ハ防クヲ良シトスト、雖モ、特ニ暗黒ナラシムヘカラス。夜中モ室内ヲ充分ニ照スヘシ。溫度ハ適當ニ保タシメ、戸隙ノ盜風ヲ防キ、冬ハ煖爐ヲ用ユ可シ。室内不用ノ器具及香氣ノ甚シキモノハ除去スヘシ。其他産婆及産婦ニ親近ナル者ノ外ハ、産室ニ入ヲ禁シ、犬猫等ハ決シテ

産牀

分娩時ニ要スル器具

入ラシムヘカラス。

産牀 ニ用ユル布團ハ通常ノ物ニテ可ナリ。柔ニシテ厚キモノハ却テ取扱ニ不便ナリ。而シテ其布團ノ上ニ廣キ油紙若クハ護謨布ヲ敷キ、更ニ上敷ヲ蓋ヒ、腰ノ下ニハ清潔ナル木綿ノ折り重キタルヲ敷キ、又ハ油紙ヲ一面ニ當テタル薄キ布團ヲ敷キ、其上ニ布又ハ脱脂綿ヲ敷キ、腔内ヨリ流出スル液汁ヲ吸收セシムヘシ。是レ等ニ使用スル布ハ新古ニ拘ラス、必ス充分ニ洗濯シタルモノヲ用ユヘシ。煮沸スレハ最モ良シトス。被衾ハ通常ノモノニシテ、重カラサルヲ用ヒ、衣服ハ緩裕ナラシメ、枕ハ稍、高キヲ良シトス。而シテ此ノ産牀ハ、室廣ケレハ、中央ニ設ケ、前後左右ヨリ自由ニ人ヲシテ産牀ニ近ツキ得易カラシメ、足部ハ成可ク明キ方ニ向ハシムヘシ。

其他産婆ヲシテ豫メ分娩時及初生兒ニ要スル衣類器具等ヲ取纏メシムヘシ。參考トシテ其品目ヲ左ニ掲ク。

生兒ノ入浴ニ要スル盥手洗鉢二個、布片或ハ綿ヲ石炭酸或ハリゾール

ニテ浸スヘキ鉢一個是レハ外陰部ヲ掃除スル爲メニ用ユ。産兒ヲ包ミ
 竝ニ浴後之レヲ拭フニ用ユル布産兒及褥婦ノ衣類ヲ温メ置クコト臍
 帶ヲ纏フニ用ユル布片及緋帶是レハ通常ノ卷軸緋帶ヨリ幅ヲ廣クシ
 殺菌ガ―セラ宜シトス。差込便器、腰枕、多量ノ湯及水、石鹼、手拭數條、其他
 「イリガートル」ノ護膜管、腔内洗滌用カラス製長彎嘴管、カテーテル等ハ
 二十分時以上煮沸スルカ或ハ豫メ二十倍ノ石炭酸中ニ浸シ置クヘ
 シ。
 産婦ニ就テ總テ異常ナシト認ムレハ其經過ハ産婆ヲシテ看護セシム
 ルモ可ナリ。

分娩第一期及第二期ノ取扱法

頭蓋位
第一期

後頭位第一期 陳痛起リ分娩期トナレバ、先ツ浣腸ヲ施シ、假令産
 婦ハ既ニ排便アリト云フト雖モ、必ス石鹼浣腸ヲ試ムヘシ、尿モ亦時々

子宮口三仙迷
トナレバ就牀
セシム

第一期ニ於ケ
ル産婦ノ就牀
位置

排泄ヲ促スベシ、大小便ノ蓄積ハ陳痛微弱症ヲ來シ易キモノナレバナ
 リ。排尿ハ産婦ノ意ニ任セ、子宮口小ナル時期ニ於テハ便處ニ於テ爲ス
 モ差支ナシト雖モ、子宮口三仙迷大ニナルトキハ、必ス牀中仰臥位置ニ
 於テ試ミ、尿出テサレハ、指ヲ前穹窿部ニ挿入シ、兒頭ヲ少シク上方ニ壓
 押スレハ、容易ニ利スヘシ。而シテ尙ホ利シ難キ場合ニ於テハ、カテーテ
 ルヲ用ユヘシ。

此期ノ初メニ於テハ室内ノ起臥歩行等ハ總テ初妊婦ニ在リテハ、其意
 ニ任セ、毫モ妨ケ無シト雖モ、子宮口三仙迷大トナルトキハ、必ス臥牀ニ
 就カシムヘシ。是レ起居ノ際胎胞破レ、上肢及臍帶ノ脱出等ヲ來ス虞ア
 レハナリ、又經産婦ナリト雖モ、從來ノ分娩經過ニ急劇ナル習慣アル者
 或ハ懸垂腹出血等アル者ハ初期ヨリ臥牀ニ就カシムヘシ。

産婦ノ就牀位置ハ胎兒下向部既ニ骨盤内ニアルトキハ、其意ニ任セ、或
 ハ仰臥或ハ左右孰ノ側臥ヲ取ルモ、差支ナシト雖モ、兒頭今尙ホ入口上
 ニ移動スルトキハ、仰臥ヲ良シトス。然レトモ經妊婦ニシテ前回分娩經

第一期ニ腹壓ヲナスハ害アリ

過甚タ早キニ失シ、或ハ骨盤廣ク陳痛モ亦強激ナル爲メニ急劇ナル分娩經過ヲ取ルノ恐レアルトキハ、側臥ヲ良シトス。側臥ハ成ヘクハ下向部中後チニ耻骨縫際下ニ現ルヘキ部分ノ偏在セル側方ヲ下ニセシムヘシ。故ニ頭蓋位ニアリテハ、後頭部ノ在ル側ヲ下ニセシメ、第一體向ナレハ左リヲ第二體向ナレハ右ヲ下ニスヘシ。

産婦此ノ期ニ於テ腹壓ヲ加フルコト多シト雖モ、第一期ニ於ケル腹壓ハ雷ニ無益ニシテ疲勞ヲ來スノミナラス、早期破水又ハ痙攣性陳痛ヲ誘起シ、分娩經過ヲ遲滯セシメ、疼痛ヲ増進スルコトアルヲ以テ、嚴禁スヘシ。内診モ亦此ノ期ニ於テハ屢々爲スヘカラス。是レカ爲メ傳染毒ヲ送入シ、胎胞ヲ破裂セシメ、或ハ子宮口縁ノ刺戟ニ由リ、疼痛及痙攣性陳痛ヲ起スコトアレハナリ。故ニ第一回ノ内診後其經過少シク持長スルモ、特ニ異狀ナキトキハ、破水ニ至ルマテ、可及的内診ヲ避ケ、唯外診ニ依リ、陳痛ノ間歇及發作ノ時間、膀胱ノ充盈、腔内ヨリ流出スル分泌物ノ色及性質、心音、母體脈搏、呼吸體溫ニ注意シ、其變狀ノ有無ヲ檢スヘシ。然レ

第二期ニ破水スレバ直ニ内診スベシ

トモ又經過ノ延長ニ失スルトキハ、時々内診ヲ施シ、子宮口ノ大小ヲ檢シ、産機ハ如何ニ進ミシカ、子宮口縁ノ陳痛發作及間歇時ニ於ケル緊張ノ度、頭部ノ回轉正シキカ否ヤヲ檢スヘシ。第一期中ニ於テ、時トシテ陳痛漸々ニ休止シ、又ハ微弱トナリ、睡眠ヲ催スコトアリ。斯ル場合ニ於テハ産婦ヲシテ隨意ニ安眠セシムヘシ。是レニ由テ産婦ハ氣力ヲ恢復シ、醒覺後更ニ強勢ナル陳痛ヲ起スモノナレバナリ。

第一期 開口期中産婦ハ疼痛激シキ時ハ、飲食ヲ望マサルコト多シト雖モ、其經過長キヲ豫知シ得ル場合、殊ニ初妊婦ノ如キハ、時々少量ノ食物ヲ與フヘシ。然レトモ一時ニ多量ヲ與フルハ害アリ。食物ハ少量ノ糜粥、葛湯、鶏卵、牛乳、脂肪少ナキソップ、麵麩等ナリ。又産婦ハ渴ヲ訴フルモノナレハ、清水、麥湯、稀薄ナル茶ヲ與フ可シ。酒類濃厚ナル茶、咖啡等ハ害アリ。但シ分娩經過ノ持長スヘキ傾アルカ、又虛弱ナル者ニハ稀薄ナル赤酒等ヲ時々與フヘシ。

第一期 破水アレハ、直チニ消毒手ヲ以テ内診シ、頭部ノ回轉及其位

第二期ニ於ケル産婦就床位

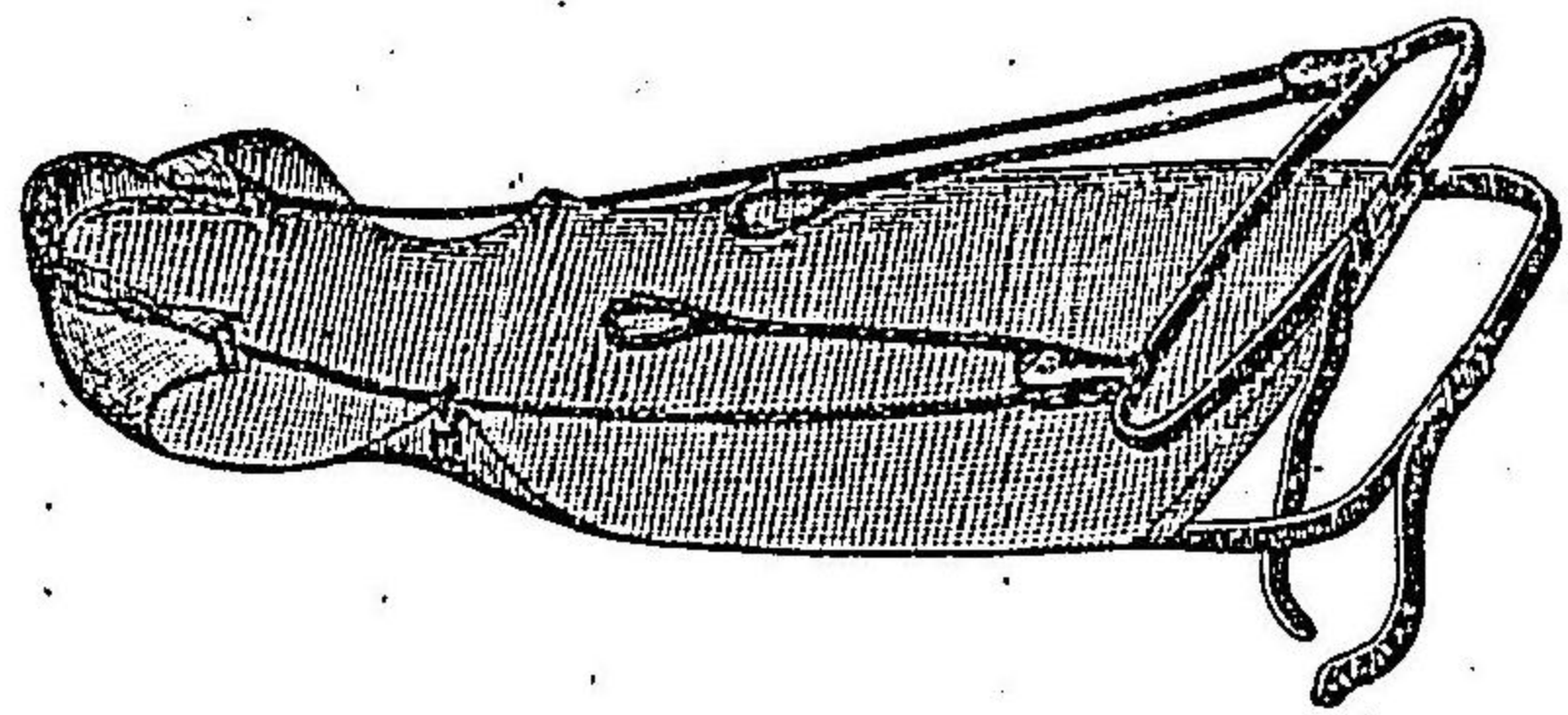
第二期ニ於ケル陳痛時腹壓シテ加ヘシムヘ

置ヲ定メ、子宮口ノ大サ其縁ノ硬軟厚薄、臍帶及上肢脱出ノ有無、羊水ノ色及量ヲ檢スヘシ。

第二期ニ於ケル産婦就褥位置ハ孰レヲ論セスト雖モ、通常側臥ヲ宜シトス。殊ニ初妊婦ニ在リテハ最モ然リトス。其他胎兒ノ分娩非常ニ速ナル者即チ骨盤ノ大ナルカ、胎兒ノ小ニシテ陳痛劇甚ナルトキハ、既ニ開口期ニ續テ側臥ヲ採ラシムヘシ。座産ハ經過早キコトアリト雖モ、危険多シ。仰臥ナレハ腰部下ニ小枕ノ如キモノヲ入レ、少シク是レヲ高クスヘシ。若シ側臥ヲ採ラシムルトキハ、左右前述ノ規定ニ從フベシ。而シテ時々胎兒ノ心音及産道内ノ壓迫等ヲ注意シ、若シ危険アラハ、速ニ挽出手術ヲ施シ、母子ノ危険ヲ救フヘシ。

産出期ニ於テ胎兒ノ位置其他骨盤腔等ニ異常ナキトキハ、産婦ヲシテ腹壓ヲ以テ、娩出ヲ扶ケシムレハ、大ニ利アリ。腹壓ハ此ノ期ニ至レハ、別ニ命スルコト無キモ、産婦ハ自然ニ營ムモノナレトモ、尙ホ之レヲ促シ且ツ腹壓スルニ便ナラシムル爲メニ、頭部ニ近キ柱等ニ紐ヲ結付ケ之

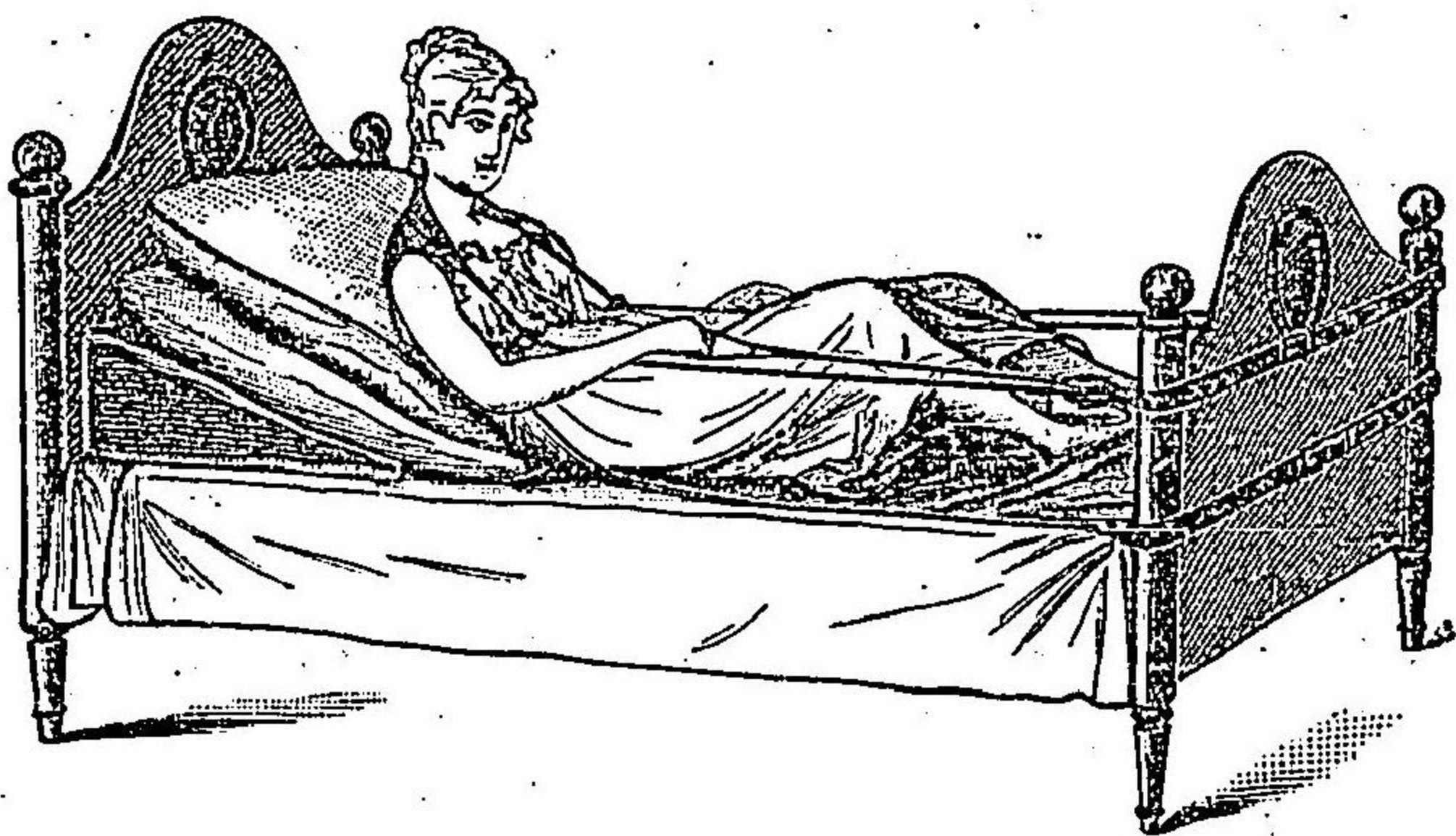
第一四百三十三圖



アフルドッレシクツ氏ノ腹壓補助器

(獨逸婦科中央雜誌千九百四十六號二一九二頁二圖)

第一四百四十四圖



同上腹壓補助器ヲ使セラル

レヲ引カシメ又足部ニ物ヲ當テ、充分ニ支エシムベシ、側臥ナレハ、産婆ヲシテ背部若クハ臀部ニ手ヲ加ヘテ、體ヲ後方ヨリ支持セシム。尙ホ足ヲ支持セシムレハ、腹壓ヲ加フルニ便利ナリ。アルフレット、ジャック氏ハ第四百十三圖ノ如キ腹壓補助器ヲ考案セリ(獨逸婦人科中央雜誌千九百年四十六號然レトモ腹壓ハ單ニ陳痛發作時ニノミ加ヘシムヘク、間歇時ニハ嚴ニ禁セザルヘカラス。爲メニ疲勞ヲ増スコト多ケレハナリ。骨盤異常或ハ體質虛弱ノ産婦若クハ呼吸困難脱肛、脱腸等ヲ患フル産婦ニ於テハ腹壓ハ害アルヲ以テ禁ス可シ。

胎兒ノ進行遲滯セハ、時々内診ヲ施シ、兒頭ノ回轉ヲ檢スヘシ。兒頭充分ニ骨盤内ニ入り狭部ニ近ツケハ、産婦ハ直腸壓迫ノ爲メ便意ヲ催スニ至ル。益、兒頭進メハ、會陰部ハ陳痛時ニ於テ膨隆シ、遂ニ球ノ如ク緊張シ、肛門ヲ哆開シ、直腸粘膜其間ニ現ハル。故ニ陳痛時ニ於テハ産婆ヲシテ絶ヘス片布ヲ以テ、肛門ヲ壓セシメ、同時ニ指尖ヲ會陰ニ當テ、陳痛時ニ於ケル會陰緊張ノ度ヲ注意セシメ、間歇時ニ於テモ、前進部陰裂間ニ現

會陰保護術

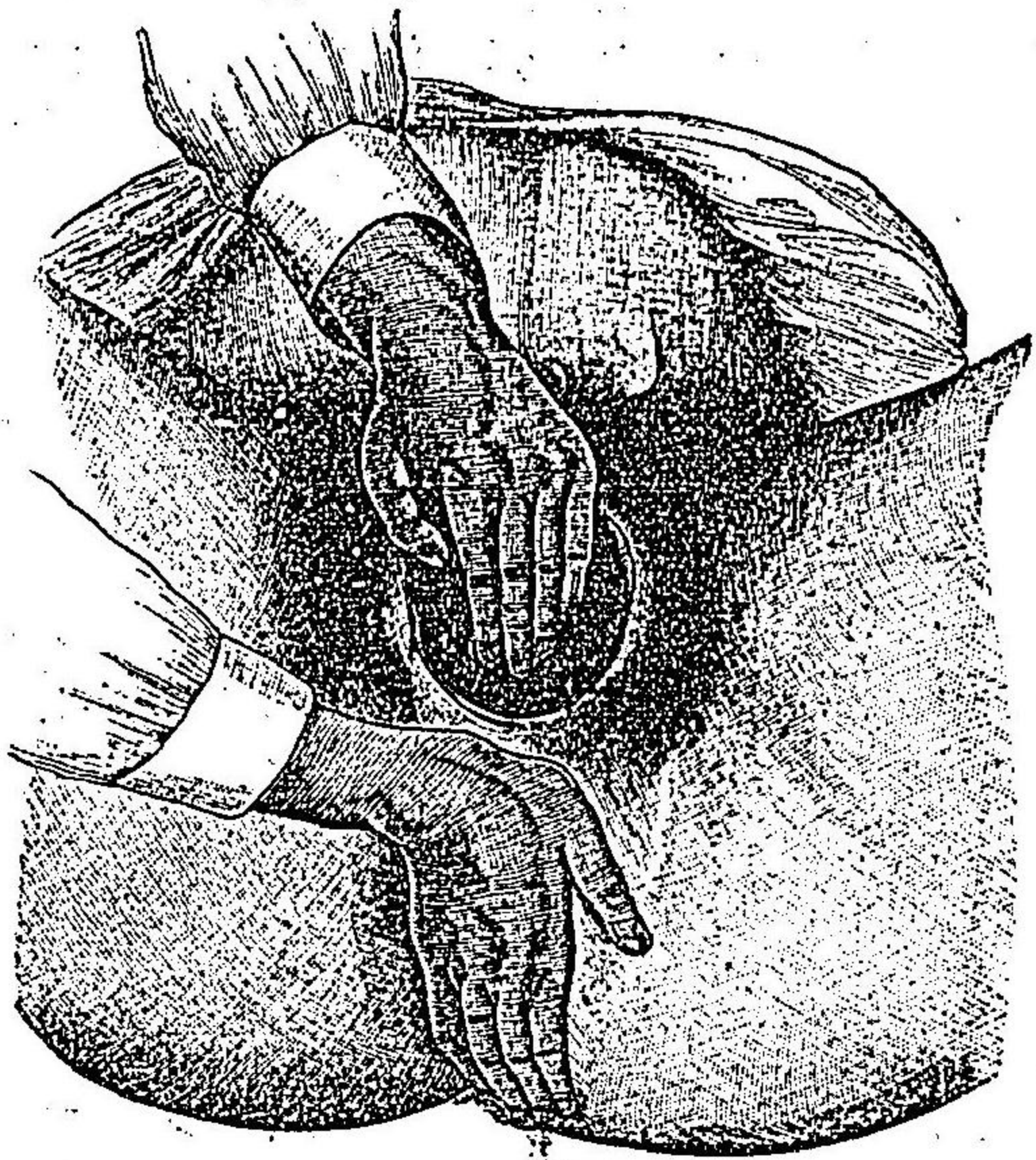
ハレ、陰唇繫帶ノ部分甚シク緊張スルニ至レハ、速ニ保護ヲナサシムヘシ。是レヲ會陰保護術ト云ヒ、殊ニ初妊婦ニ於テハ大切ナルモノナリ。

會陰保護術(Dammuschutz)ニ於ケル主要ナル點ハ、**第一**兒頭ノ急劇ナル娩出ヲ防キ、**第二**會陰ノ組織ヲシテ可及的緩徐ニ延長セシメ、

第三其胎兒部分ヲ骨盤誘導線ニ向ケ進マシムルニアリ。第一第二ノ目的ニ對シテハ、産婦ヲシテ側臥位置ヲ取ラシメ、腹壓ヲ禁シ、口ヲ開キ迅速ニ呼吸ヲ營マシム可シ。是レ側臥ハ會陰ヲ充分ニ視ルコトヲ得又腹壓ハ減削セラル、爲メ、胎兒ノ突進ヲ防クカ故ナリ。

會陰保護法ニ二種アリ。一ハ仰臥位置ニ於テ施スモノ、一ハ側臥位置ニ於テ施スモノナリ。孰レニ於ケルモ手掌ヲ會陰ニ當ツヘシ。仰臥ニ在リテハ、拇指球及小指球ヲ兩小陰唇ノ下方ニ當テ、四指尖ハ肛門ヨリ薦骨後面ニ當テ、指球間ヨリ陰唇繫帶ヲ見ツ、陳痛發作時ニ於テ、其手ヲ耻骨ニ向ケ壓シ、同時ニ一手ヲ腹部ヨリ陰阜ヲ超ヘ、兒頭ノ陰隙ニ露出セル部分ニ當テ、之レヲ押ヘツ、誘導線ニ向ケ、回轉ヲ助クルモノナリ

圖五十四百一第



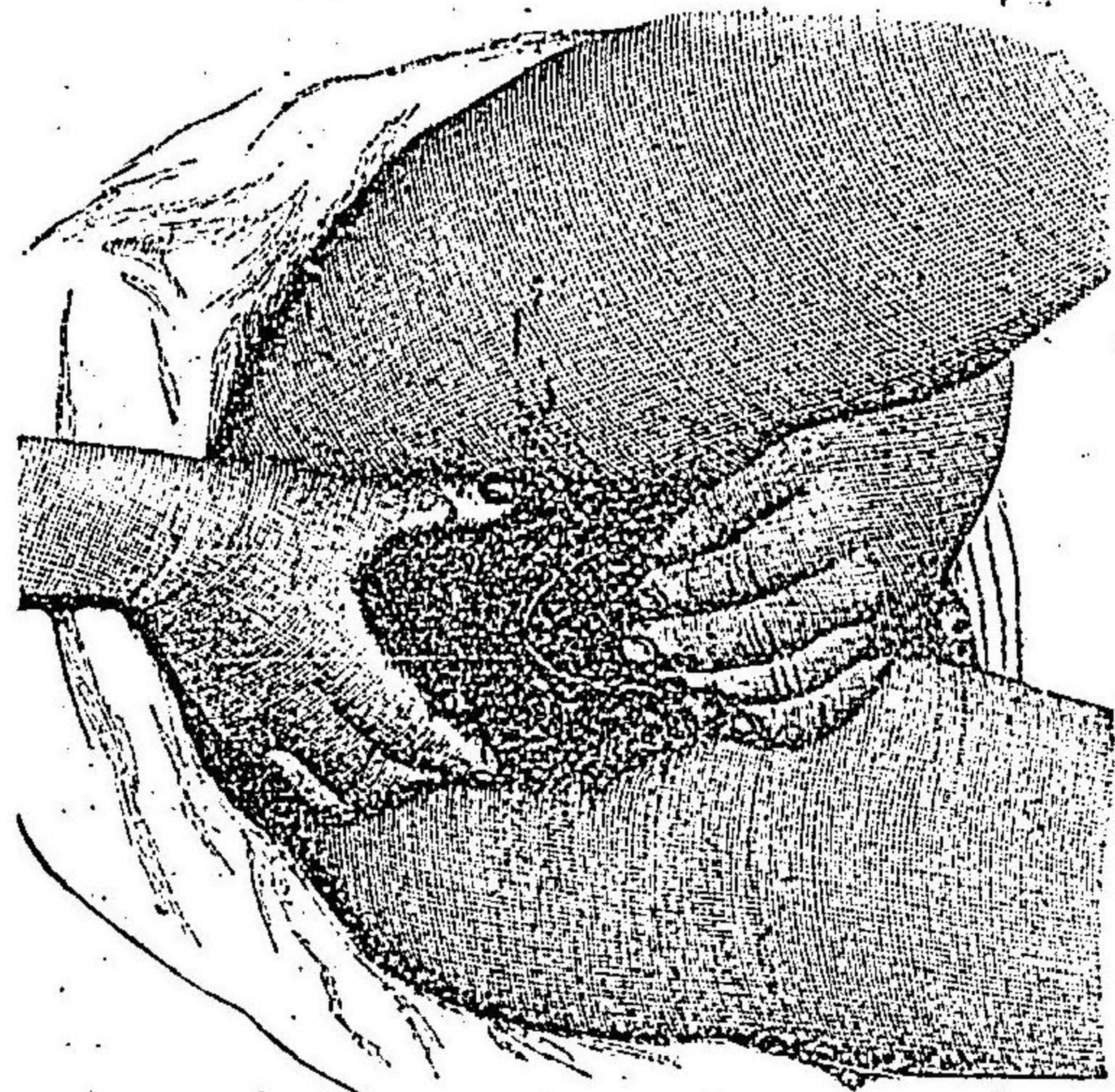
法護保陰會ルケ於ニ置位臥仰

帶ヲ現シツ、左手ハ腹壁耻骨ヲ越ヘテ、兒頭ニ當テ是レヲ押ヘツ、回轉ヲ助グルモノナリ。(第百四十六圖) 兒頭生ル、モ尙ホ肩胛娩出ノ際會陰ノ破裂ヲ來スコトアルニヨリ、手

(第百四十五圖) 側臥ノ時ニ在リテハ、膝ノ間ニ枕ノ如キモノヲ挟ミ、膝ハ少シク屈セシム。産婦若シ左ヲ下ニスレハ、其後方ヨリ右手ノ手掌ヲ會陰ニ當テ、拇指ヲ小陰唇ノ一側ニ當テ、四指殊ニ示指ヲ小陰唇ノ他側ニ當テ、其指間ニ陰唇繫

肩胛娩出

圖六十四百一第



法護保陰會ルケ於ニ置位臥側

ハ放スベカラス。兒頭生ルレハ、先ツ口ヲ拭ヒ、且ツ漏泄スル羊水ヲ吸入セサル様勉メ、直ニ耻骨下ノ胎兒項部ニ指ヲ當テ、臍帶纏絡ノ有無ヲ檢シ、異常ナケレハ、次ノ陳痛ヲ俟ツヘシ、間歇長ケレハ、子宮底ヲ輕ク摩擦シ、陳痛ヲ促シ、之レヲ壓試スヘシ。尙ホ遲滯スレハ、胎兒ハ臍帶壓迫ノ爲メ、顔面「チアノーゼ」ヲ呈スルニ至ルヲ以テ、速ニ胎兒後方ノ肩胛ト異名ノ手ノ示指ヲ腔内ニ挿入シ、兒背ヨリ後方ノ腋窩ニ掛ケ、中指ヲ以テ、上膊ヲ己ノ示指ニ向ケテ、拇指ヲ肩胛部ニ當テ、他ノ手ヲ兒頭竝ニ前方肩

後頭位第二體
向ノ異常回轉

脚ニ當テ、左右ノ手間ニ兒頭及肩胛部ヲ挿ミ、誘導線ニ從テ、牽舉回轉スヘシ。若シ臍帶ノ纏絡ヲ認ムレハ、直ニ之レヲ示拇二指ニテ輕ク挾ミツツ、孰レノ端ニテモ緩ク出ツル方ヲ引緩メ、兒頭ヲ後方ヨリ越サシメ、腹部ニ來ラシムヘシ。肩胛ノ娩出速ニ續キ來ル時ハ、單ニ其臍帶ノ輪係ヲ後方肩胛下ニ垂下セシメ、胎兒ヲシテ其輪係内ヲ通過セシムヘシ。臍帶ヲ緩外スルコト能ハサルトキハ、之レヲ二箇所ニ結紮シ、切斷スヘシ。若シ事急ニシテ其餘時ナケレハ、助手ヲシテ兩指端ヲ以テ、壓迫ヲ加ヘシメ、或ハコッヘル氏鉗子ヲ以テ挾ミ、之レヲ切斷シ、直ニ胎兒ヲ娩出シ、而シテ後ニ是レヲ結紮スヘシ。

第一一體向ノ後頭位ニシテ異常回轉 ヲ取ル場合ニ於テハ、初メ後頭部ノ偏在スル體側ヲ下方ニ側臥セシムレハ、後頭部ハ骨盤内ノ抵抗減少スル爲メ、前方ニ回轉シ易キモノナリ。然レトモ兒頭ノ骨盤内ニ深く進ムニ拘ハラヌ、其回轉益、異常ノ度ヲ強ムレハ、寧ロ前頭部ヲシテ前方ニ回轉シ易カラシムヘシ。乃チ前頭ノ存スル側方ヲ下ニ側臥

前頭位

前頭位

セシムヘシ。

前頭位分娩 ハ後頭位ニ比シ、其最大周圍ノ大ナルヲ以テ、會陰ノ保護ヲ充分ニ注意セサルヘカラス。又是レト同一ノ理ニ原キ、分娩經過持長シ易ク、從テ手術ヲ要スルコト多シ。

顔面位 ハ第一期ニ於テハ、胎胞ノ早期破裂ヲ防ク爲メ、成ル可ク早時ニ安臥セシメ、顔部ノ偏在側ヲ下ニシテ、側臥位置ヲ取ラシメ、内診回數ヲ減スヘシ。破水後ニ於テ、内診スルトキハ、眼、口等ヲ毀傷セサル様注意スヘシ。此ノ第二期ニ於テハ、内診ニ依リ、常ニ顔部ノ回轉ヲ檢シ、又度度胎兒ノ心音ヲ聽診シ、撥露ニ際シテハ、其最大周圍ハ頭位分娩中最モ大ナルヲ以テ會陰ノ保護ヲ勉ムヘシ。然リト雖モ、是レカ爲メ、兒頭ノ前進ヲシテ過度ニ緩慢ナラシムヘカラス。又耻骨ニ向テ、強ク壓迫スヘカラス。是レ娩出ノ遲延スルニ從テ、胎兒ノ危害甚シク、尙ホ胎兒ノ頸部殊ニ喉頭部ノ緊張甚シキモノナレハ、之レニ壓迫ヲ加フルコト強キトキハ、喉頭氣管ヲ毀傷スルコトアレハナリ。故ニ此ノ位置ニ於テハ、會陰保

護法ハ最モ困難ナルモノナリ。尙ホ産出セル胎兒ニ付テハ、其顔面産瘤腫脹ノ爲メ、甚タ醜キヲ以テ、成ルヘク産婦ニ示ス可カラス。若シ止ムヲ得ス之レヲ示ストキハ、日ナラスシテ、治スヘキモノナルコトヲ説諭シ置クヘシ。

骨盤端位

骨盤端位ハ第一期ニ於テハ、早期破水ヲ防ク爲メ、成ル可ク早時ニ安臥セシメ、腹壓ヲ禁シ、内診ヲ屢々セズ、子宮口ヲシテ漸々ニ胎胞ニヨ

リ、全開大ニ近キマテニ開大セシムヘシ。

第二期ニ於テハ、分娩經過持長スレハ、臍帶壓迫ノ爲メ、胎兒ノ危険ヲ來シ易キヲ以テ、内診ニヨリ、臀部回轉ヲ檢シ、胎兒臀部尙ホ骨盤内ニ在ル間ハ、腹壓ヲ禁シ、心音ニ注意シ、成ルヘクハ、産婦ヲ横牀臀部背位トシ、臥臺ナケレハ、腰下ニ小形ノ枕ヲ挿入シ、胎兒ノ救急挽出手術ニ便ナラシムヘシ。然リト雖モ、必用ヲ認メサル内ハ、決シテ挽出手術ヲ試ムヘカラス。早時ニ挽出スルトキハ、反テ胎勢ヲ變シ、上肢ヲ上擧シ、後進頭部ノ分娩ヲシテ困難ナラシメ、胎兒ノ危険ヲ増加スルモノナレハナリ。臀部ノ撥露

ニ際シテハ、會陰ノ保護ヲ爲スヘシ。臍部マテ現出スレハ、後進部ノ挽出時臍帶牽引ノ恐アルヲ以テ、示拇ノ二指ヲ以テ、輕ク之レヲ挾ミ、充分ニ引キ弛ムヘシ。臍帶若シ兩脚間ニ挾マリ在レハ、之レヲ背部ヨリ弛メ、後方臀部ニ向テ潜ラシム。而シテ足ハ軀幹ト共ニ上方ニ在レハ、臍部ノ壓迫ヲ防キ得ルカ故ニ、決シテ挽キ出スヘカラス。軀幹ハ冷却ヲ防ク爲メ、豫テ温メ置キタル布片ヲ以テ之レヲ包ムヘシ。

臍部現出後臍帶ハ頭部ノ挽出ヲ終ルマテ、壓迫ヲ蒙ルヲ以テ、成ルヘク早ク挽出セシムヘシ。故ニ陳痛毎ニ腹壓ヲ加ヘシメ、子宮底ノ摩擦及陳痛時ニ於テハ、壓出ヲ試ムヘシ。上肢胸部ト共ニ出レハ、速カニ兒頭ノ産出ヲ促スヘシ。若シ此ノ胸部挽出ニ際シ、上肢出テサレハ、先キニ上肢ノミヲ挽出ス可シ。(上肢解出術ト云フ手術篇ニ詳ナリ)。

斯ノ如ク諸種ノ位置ニ於テ生レタル小兒ハ、異常ヲ認メサレハ、先ツ一時之ヲ産婦ノ股間ニ置キ、温メタル布片ヲ以テ之レヲ包ミ、直ニ子宮ノ收縮ヲ檢シ、收縮不良ナル時ハ、子宮底ヲ摩擦ス可ク、異常ナケレハ、時々

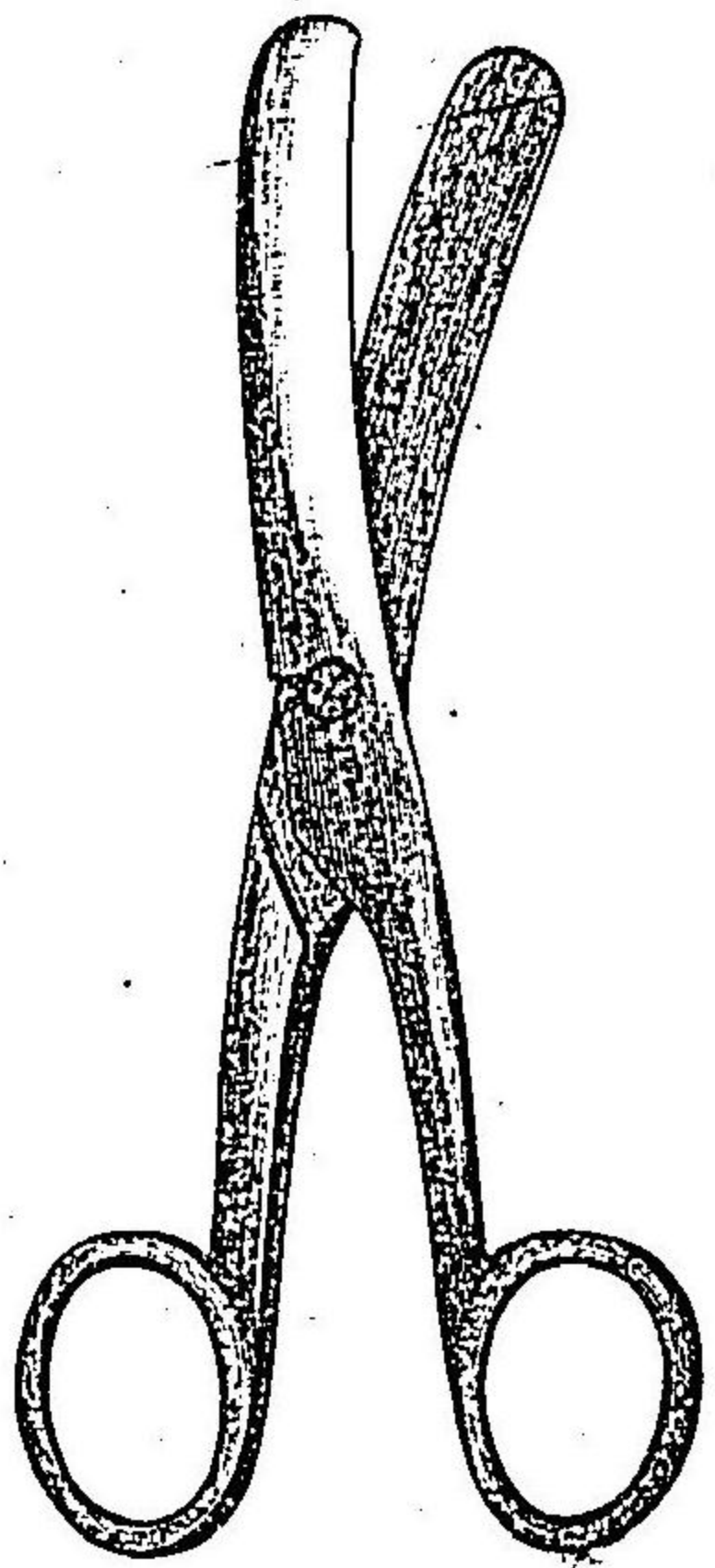
生兒ノ處置

是レニ注意シツ、生兒ヲ處置ス可シ。乃チ臍帶ハ搏動止ムヲ俟テ臍輪ヲ隔ル八仙迷許ノ處ニ於テ、二重ノ外科的結紮ヲナセル後チ、之レヲ切斷スヘシ。臍帶ノ胎盤端ヲ結紮シ、胎盤内ノ血液ヲ漏サシメサレハ、其娩出ヲシテ容易ナラシムト云フ。又臍帶ノ搏動止ムルヲ待テ結紮ヲ施セハ、胎兒ノ血量ニ約百瓦(九二〇)ノ增量アリト云フ。

臍帶結紮絲ハクレーデ氏ハ護謨紐ヲ用ユレトモ、多クハ絹絲、木綿絲或ハ麻ヲ用ユ。但シ絲ハ用ユルニ先チ、充分消毒スヘシ。切斷ニハ特別ノ剪刀即チ臍帶剪刀ヲ用ユ。

臍帶切斷後ハ生兒ヲ產婆ニ委テ再ヒ子宮ノ收縮ヲ檢ス可シ。是レ胎盤ノ尙ホ子宮内ニ存スルトキハ、此ノ子宮壁ノ緩弛ニヨリ、危険ナル出血

第一四百七十四圖



臍帶剪刀

ハ麻ヲ用ユ。但シ絲ハ用ユルニ先チ、充分消毒スヘシ。切斷ニハ特別ノ剪刀即チ臍帶剪刀ヲ用ユ。

分娩第三期取扱法

ヲ來スコトアレハナリ。是等分娩中異常ニ近キ顔面位或ハ骨盤端位ノ如キモノハ胎兒ノ窒息或ハ假死ノ状態ニテ生ル、コト多キカ故ニ、豫メ是レニ對スル蘇生法ノ準備ヲ爲スヘシ。

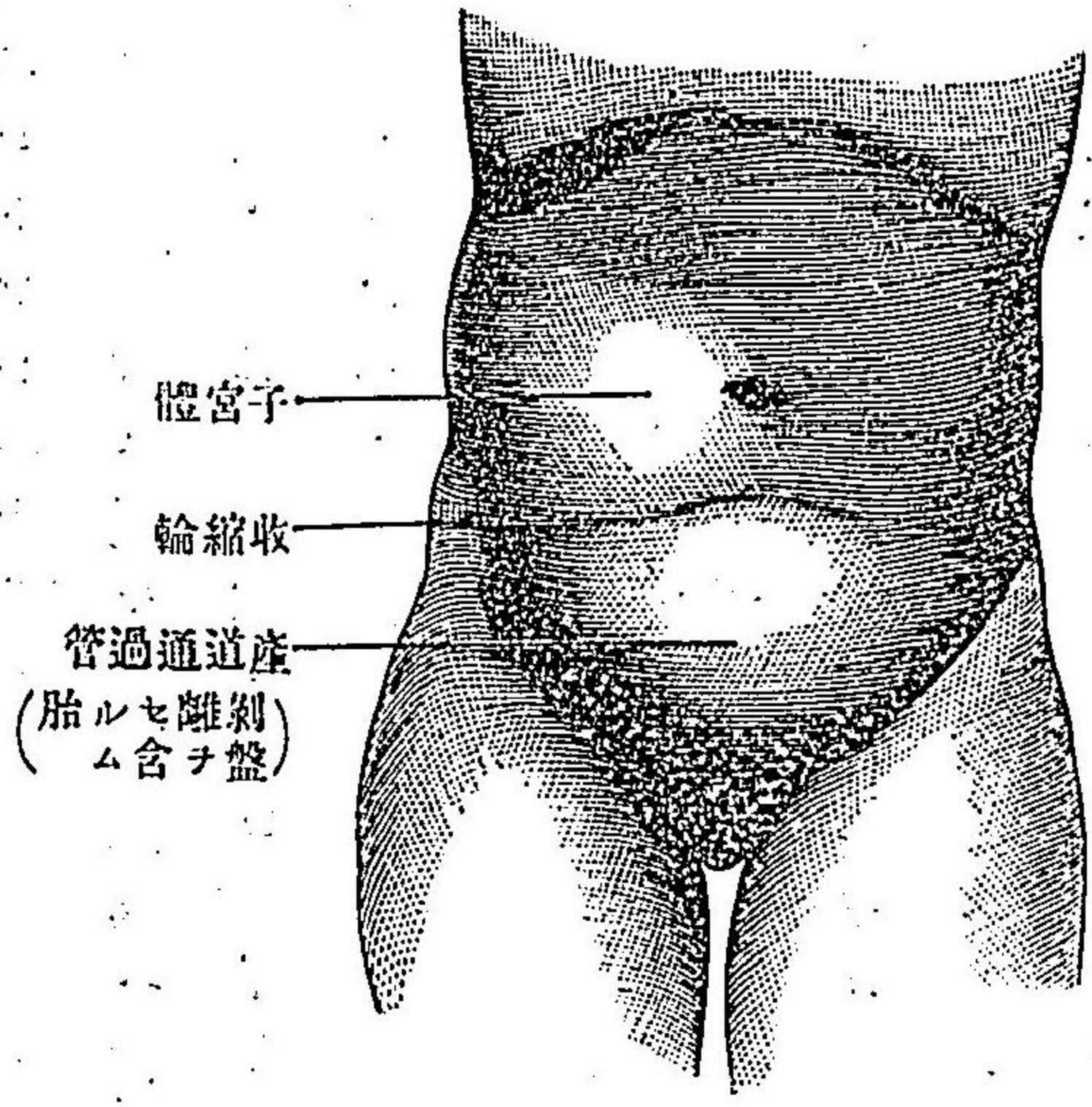
後産期ノ處置

後産期ニ於テハ、特ニ注意スヘキコトハ子宮ノ收縮ト出血トニ在リ。二者異常無レハ、自然ノ經過ニ任スルヲ宜シトス。産婦ハ胎兒娩出後胎盤ノ片時モ早く出テンコトヲ望ムモノナレトモ、前ノ二者ニ注意シ、異變ナケレハ、決シテ急クヘカラス。收縮ノ不全ハ出血ヲ來スモノナレハ、胎兒分娩後ハ絶ヘス子宮底部ニ手ヲ當テ、其收縮ヲ檢シ、時々外陰部ニ就テ出血ヲ檢スヘシ。若シ出血多量ナルカ、或ハ胎兒娩出後二時間ヲ越ユルモ、胎盤娩出セサレハ、クレーデ氏ノ壓出法ヲ試ム可シ。クレーデ氏ハ

分娩後直ニ試ミタレトモ、害多キヲ以テ、早クモ十五分ノ後トナス。然レトモ、アールフェルド氏ハ分娩後變化ナケレハ、一時間半トナス。早時ニ之レヲ試ミ、早時ニ子宮ヲ強ク摩擦スレハ、胎盤後血腫ヲ漏泄セシメ、異常ヲ來シ易シト云フ。然レトモ、出血甚シク、且ツ持續性ニ來ルトキハ、其出血ノ外陰部等ノ創傷

胎盤ノ子宮體
内ニアルト下
子宮部ニアル
トノ區別

第一四百四十八圖



分娩第三
期ニ於テ
胎盤ノ子
宮體ヨリ
排出セル
腹部ノ形
ニ因スルニアラサル
ヲ確ムル後、速ニ之レ
ヲ壓出スヘシ。時トシ
テ胎盤ハ既ニ下方ニ
下ルモ外部ニ現ハレ
サルヲ以テ、眞ニ剝離
セルヤ否ヲ區別スル
ノ必要アリ。シヨレデ
ル氏及コーン氏ニ據

レハ、胎盤ノ下子宮部ニ下降スルトキハ、子宮底上昇シ臍窩ヲ超ヘ、且ツ體部狭小トナリ、子宮少シク移動シ、耻骨縫際上ニ於テ、子宮體ニ明ニ小溝ヲ以テ區別セラレタル隆起ヲ認ムルコトアリト云フ。(第百四十八圖) 又アールフェルド氏ニ據レハ、胎兒娩出後外陰部ニ於テ、臍帶ノ長サヲ表示シ、其長サノ差ニ由リテ、之ヲ區別スルコトヲ得ヘシト云フ。胎盤娩出シ、少シモ出血ナケレハ、出タル胎盤ニ付テ、其缺損ノ有無ヲ檢スヘク、出血アレハ、收縮ヲ助クル爲メ、暫時子宮ヲ摩擦スヘシ。卵膜ノ小片殘留スルモ、多クハ十日内ニ自然ニ排出スルモノナレハ、子宮腔内マテ深ク卵膜ノ連リテ出血ナキトキハ、唯腔内ヨリ見ユル部分ノミヲ切除スヘシ。胎盤出タル後ハ、稀薄ナル石炭酸或ハ「リゾール」ニ濕シタル布片ヲ以テ外陰部ヲ拭ヒツ、會陰其他ノ裂傷ヲ檢スヘシ。此ノ際臀部ヲ高メ、或ハ陰唇ヲ強ク開クヘカラス。爲メニ空氣竄入シ、空氣「エンボリー」ヲ起スコトアレハナリ、而シテ會陰其他ノ創傷大ナラサレハ、唯外陰部ヲ淨拭シ

タル後其滋潤ヲ乾カシ消毒綿或ハ殺菌綿ヲ外陰部ニ當テ周圍ノ濕潤セル布片ヲ除キ去リ産婦ヲ安靜且ツ溫暖ニ保タシム可シ。

初生兒第一ノ處置

生兒ノ検査

生兒ノ臍帶ヲ截斷セル後ハ其頭形産瘤頭蓋骨重疊ノ模様眼耳鼻口陰部肛門四肢骨ノ脱臼及骨折ノ有無畸形ノ有無臍帶断面ヨリノ出血等ヲ檢ス可シ。

初生兒膿漏眼及豫防法

初生兒膿漏眼ハ母體生殖器ノ淋毒性分泌物ニ原因スルヲ以テ是レカ豫防トシテクレーデ氏ハ二%硝酸銀水ヲ角膜上ニ點滴ス此ノ點眼ヲ施スニ先チ清潔ナル布片或ハ綿ヲ以テ眼瞼ヲ拭フヘシ此ノ點眼ハ確實ノ功ヲ有スルモノナリ近時又プロタルゴルヲ稱用スル人アリ此ノ法ノ實施以來ハ初生兒ノ膿漏眼大ニ減シタリト云フ故ニ此ノ法ハ毎

出產時一般豫防法トシテ用ユヘキモノトナス。

硝酸銀ハ往々時ヲ經タルモノヲ用ユルカ爲メ其刺戟症ヲ來スコトアルニ依リ常ニ成ルベク新鮮ノモノヲ用ユヘシ。

點眼終レハ入浴セシムヘシ通例攝氏三十五度乃至三十六度列氏二十八度ノ溫浴ヲ良トス然レドモ四十度マテハ害ナシトス石鹼ハ刺戟多キニ依リコレヲ油卵黃ワセリンヲ用ヒテ皮膚ノ表面ニ附着セル脂肪ヲ拭キ去リ浴後豫メ暖メ置タル布片西洋手拭ヲ良トスヲ以テ股及腋下ヲ充分ニ拭ヒ乾スヘシ而シテ臍帶ハ尙ホ一度出血ノ有無ヲ確メ若シ臍帶太キトキハ結紮緩弛シ易キニ依テ殊ニ注意シ再ヒ其下部ニ結紮スヘシ而シテ臍帶ハ方三寸許ノ殺菌カーゼノ一端ヲ中央マテ截リタルモノニテ臍帶ヲ包ミ腹部ノ左方ニ曲ケ綿帶ニテ腹部ニ緩ク巻クヘシ右腹部ニハ大ナル肝臟アルヲ以テ之レヲ避ルナリ。
衣服ハ豫テ暖メタルモノヲ用ユヘシ其長サハ身長ヨリ長クシテ下部ヲ折返ス程ニ爲スヘシ寢牀ニ移ストキハ側臥ヲ宜シトス是レ小兒ハ

時々粘液等ヲ吐クコトアレハ其吐物ヲ喉頭内ニ吸入セサラシムル爲ナリ。
 頭部ハ寒冷ノ時ニ於テハ綿或ハ綿布ヲ以テ覆ヒ又臥牀中ニハ湯タンボヲ入レ穩靜ナル室ヲ選ミ日光ノ直射ハ避クヘシト雖モ殊更ニ暗黒ナラシムヘカラス。

産婦ノ麻醉

普通分娩時ニ於テ産婦ハ劇シキ陳痛薦骨及軟部開大時ノ疼痛ヲ輕減セシンメンコトヲ醫師ニ望ムモノ多シ實ニ此ノ疼痛ヲシテ他ノ障礙ナクシテ之レヲ除キ得レハ自他ノ幸ヒ之レニ過サルヘシ若シ此ノ疼痛ヲ輕減セント欲セハクロ、ホルム或ハエーテルヲ用ヒテ麻醉セシムルノ外他ニ確效ヲ奏スルモノナシ然レトモ兩者共ニ未タ全ク無害

ト云フヲ得スコロ、ホルムノ母體ニ關スル影響ハ輕度ノ麻醉時ニアリテハ陳痛ノ痛ミヲ減シ陳痛ヲ正フシ腹壓ハ殆ント變ルコトナシト雖モ産婦ハ常時ニ比シ深麻醉ニ陥リ易キモノナリ此ノ深麻醉時ニ於テハ陳痛ハ微弱ニ傾キ間歇ハ永ク腹壓ヲ減スルニ至ルヲ以テ第二期ニ於テハ分娩ヲ遲滞セシムルモノナリ尙ホ麻醉深キトキハ平滑筋モ緩弛シ後産期ニ於テハ子宮ヲ緩弛セシメ大出血ヲ來スコトアリ然レトモ止ヲ得ス深麻醉ヲ施シ出血ヲ來ス場合ニ於テハ麥角ノ注射ヲ以テ是レヲ防クコトヲ得ヘシ而シテ尙ホクロ、ホルムハ腎臟ニ影響ヲ有スルモノナレハ腎臟病アル者ニ對シテハ最モ慎ムヘキモノナリ斯ル場合ニ於テハ比較的危險少キエーテルヲ用ユヘシ然レトモエーテルハ點火シ易キヲ以テ亦其危險少カラス深麻醉ノ胎兒ニ關スル影響ハ時ニ胎兒ノ死亡ヲ招クコトアリルンダ氏ハ之レヲ母體血壓下降ニ原クモノトナシツワイフェル、ホーフマイエルノ二氏ハ是レカ爲メニ黄胆ヲ來スヲ見ルコト多シト云フ而シテ是レニ用ユル麻醉器ハエンケ

ル」ヨリハ「エスマルヒ」ヲ良トス。其他抱水クロラール、莫兒比涅、阿片「プロ
 ームエチール」亞酸化窒素、酸素混合物ヲ用ユルコトアリ。クロ、ホルム」
 モ單ニ其物ヲ用ユルノ外「アルコール」又「エーテル」ノ混和液ヲ用ユル人
 アリ。
 近時脊髓古加乙涅麻痺ニヨリ、觸覺ヲ變スルコト無ク、單ニ痛覺ヲ鈍麻
 セシメ得ルト云フ。然レトモ「コカイン」ハ中毒ノ恐アルヲ以テ「オイカイ
 ン」ヲ代用セシ人アレトモ、皆ナ全ク危險ナシト云フヲ得ス。

複胎以上ノ分娩及其處置

雙胎胎兒ノ位
置

雙胎分娩時ニ於ケル子宮内胎兒ノ位置ハ單胎ニ異ナラス。兩者共ニ頭
 位ナルハ最も多ク、四九、一%、一兒頭位一兒臀位ヲ取ルモノハ三一、七%、
 第一第二共ニ臀位ナルハ八、六%、一兒頭位ニシテ一兒斜位ナルハ六、一

雙胎分娩經過

八%、一兒臀位ニシテ一兒斜位ナルハ四、〇四%、二兒共ニ斜位ナルハ〇、
 三五%ナリ。クラインウエヒテル及ロイス氏第一及第二胎兒中殊ニ第二
 兒ニ異常多シ。而シテ又單胎ニ比シ、殆ント其三分ノ二ハ早期ニ分娩ヲ
 營ムモノナリ。
 分娩經過ニ付テハ、第一兒ノ分娩經過ハ遲延シ易シ。是レ一ハ早期ナル
 ト子宮過度ノ擴張ニ依リ、菲薄ナル爲メ、陳痛微弱ヲ來スニ關シ、一ハ胎
 兒ノ位置ト母體トノ關係單胎ト同一ナラサルヲ以テ、其力ノ方向胎兒
 ノ長軸ト共ニ適セサルカ爲メト、回轉異狀等多キト、ニ關スルモノナリ。
 第二兒ノ分娩經過ハ速カナルコト多シ。平均第一兒分娩後晚クモ一時
 間以内ニ生ル、モノナリ。然レトモ稀ニハ二十四時或ハ數十時ヲ要ス
 ルコトアリ。第二兒ハ第一兒分娩ニ續キ、急ニ下降スルガ故ニ、其位置ハ
 屢々異常ニシテ、尙ホ出血、小部分及臍帶ノ下垂、脱出ヲ併發スルコト多
 シ。稀ニハ雙胎同時ニ骨盤ニ入り、爲メニ非常ナル分娩困難ヲ來スコト
 アリ。

複胎以上ノ分娩及其處置

雙胎胎兒死亡數

分娩時胎兒ノ死亡數ハ七、二% (ガイスレル氏)ニシテ、男兒ヨリハ女兒ニ少シ。男女共ニアル時ハ最モ少ク、初妊婦ニハ最モ多シト云フ。是レ第一兒ノ分娩遲滯ト早期分娩トニ關スルモノナリ。

胎盤ハ二兒生レタル後ニ出ルコト多シ、然レトモ稀ニハ第一兒ノ胎盤第一兒分娩ニ續キ、又ハ第二兒分娩ニ先チ第二ノ胎盤娩出セラル、コトアリ。尙ホ此ノ期ニ於テハ子宮ノ收縮不全ニ依リ、八、五%ハ後出血ヲ來シ、産褥疾患亦多シ。總テ單胎分娩ニ比シ、補助ヲ要スルコト多キモノナリ。

雙胎分娩時處置

處置 雙胎以上ノ妊婦ヲ確診スルコトハ至難ノ業ナリ。故ニ分娩時第一兒娩出スルマテハ單胎トシテ處置スル場合少カラス。第一兒ト第二兒ト其血管胎盤部ニ於テ吻合スルコト多キカ故ニ第一兒分娩後其臍帶切斷端ノ胎盤部ハ必ス結紮スヘキモノトナス。第一兒分娩後子宮ヲ按シテ、第二兒在ルコトヲ確ムレハ、速ニ其位置ヲ檢シ、尙ホ陳痛及第二兒ニ屬スル胎胞ノ有無ヲ檢スヘシ。第一兒ノ胎盤娩出セサルモ第二兒

娩出スルマテハ決シテ人工ニ胎盤ノ娩出ヲ試ムヘカラス。是レ兩者ノ胎盤ハ互ニ密接スルカ、或ハ全ク同一ナルコトアル故ニ、若シ人工ニ之レヲ娩出セシムレハ、第二兒ノ危險ヲ招クモノナレハナリ。其他第二兒ノ分娩ハ人工補助ヲ要スルコト多キニ依リ、能ク心音ト出血トニ注意スヘシ。而シテ後出血ノ豫防トシテハ、麥角越幾斯ノ注射ヲ宜シトス。

産後ハ單胎ニ比シ、後出血ヲ來シ易キカ故ニ、少クモ三時間ハ産婆ヲシテ子宮ノ收縮ヲ注意セシムヘシ。

産褥生理論

Physiologie des Wochenbettes.

産褥トハ分娩後其創傷ノ全癒シ、生殖器及其周圍組織ノ妊娠及分娩ニ由テ來レル變化ノ恢復ニ至ルマテノ時期ヲ云フ。即チ胎盤ノ娩出後ニ始マリ、六週乃至八週間ヲ以テ終ルモノナリ。又授乳セサル婦人ハ月經ノ再潮ヲ以テ終ルモノトナス。而シテ亦子宮及周圍臟器ハ再ヒ舊形ニ恢復ス、ト云フト雖モ、創傷ハ癍痕トナリ、子宮モ亦長大ニシテ厚ク、腔ハ其壁ノ皺襞消滅シ且ツ廣濶トナルモノナリ。

生殖器ノ恢復

Rückbildung der Genitalien.

胎盤娩出後ニ於ケル子宮ハ持続性收縮、血管ノ壓迫及其栓塞ノ爲メ、又ハ産後七日乃至八日間ニ時々來ル所ノ子宮ノ收縮即チ後陳痛ノ爲メニ、貧血トナリ、筋肉細胞ノ「プロトプラスマ」原形質ハ脂肪分解ヲ起シ、細胞甚シク萎縮スルモノナリ。分娩直後ノ子宮ノ重量ハ一基瓦、第二日ニ七百五十瓦、第七日ニ五百瓦、第十四日ニ三百五十瓦乃至三百瓦、第五週ニ至レハ二百瓦、二箇月ノ末ニ於テ、五十瓦乃至七十瓦ニシテ、大サノ最モ著シク減退スルハ、九日乃至十四日マテノ間ニアリ。未産婦ノ子宮ハ約六十瓦ナリ。

子宮底部ノ耻骨縫際ヨリノ高サハアールフェルド氏ノ說ニ據レハ左ノ如シ。

子宮底ノ高サ	子宮體ノ幅
分娩後 一一〇仙迷	一〇〇仙迷

産褥初期ニ於ケル子宮底ノ高サ

生殖器ノ恢復

第一日	一〇、八仙迷	九、六仙迷
第二日	一〇、〇仙迷	八、九仙迷
第三日	九、〇仙迷	八、六仙迷
第四日	八、四仙迷	八、〇仙迷
第五日	七、七仙迷	七、四仙迷
第六日	七、〇仙迷	六、九仙迷
第七日	六、六仙迷	六、六仙迷
第八日	六、二仙迷	六、六仙迷
第九日	五、八仙迷	
第十日	五、五仙迷	

子宮底ハ其高サ分娩直後ニ於テハ、耻骨縫際上四指横徑許ニシテ、且ツ往々右方ニ偏在スルコトアリ。經産婦ニ於テハ尙ホ是ヨリ少シク高シ。而シテ分娩後十二時間ニ漸々上昇シ、臍部ニ達ス。是レ其若干ハ膀胱ノ速ナル充盈ニ關スルモノナリ。此膀胱ノ充盈ノ爲メニ、子宮ノ前面ハ腹

壁ヨリ遠ルヲ以テ、觸診困難トナル。産褥子宮ハ強ク前屈シ、第二日乃至三日ニ至レハ、子宮底部ハ漸々下降シ、第五日ニ至リ、臍ト耻骨縫際トノ中央ニアリ。第八日乃至第十日ニ至レハ、耻骨縫際ノ高サニ相當シ、第十二日頃ニシテ、小骨盤内ニ入ルモノナリ。産褥子宮ハ斯ノ如クニシテ、約六週日ヲ以テ、舊形状ニ復スルモノナリ。然レトモ出血、雙胎早産、産褥ノ疾病等ハ大ニ此恢復ヲ妨クルモノナリ。

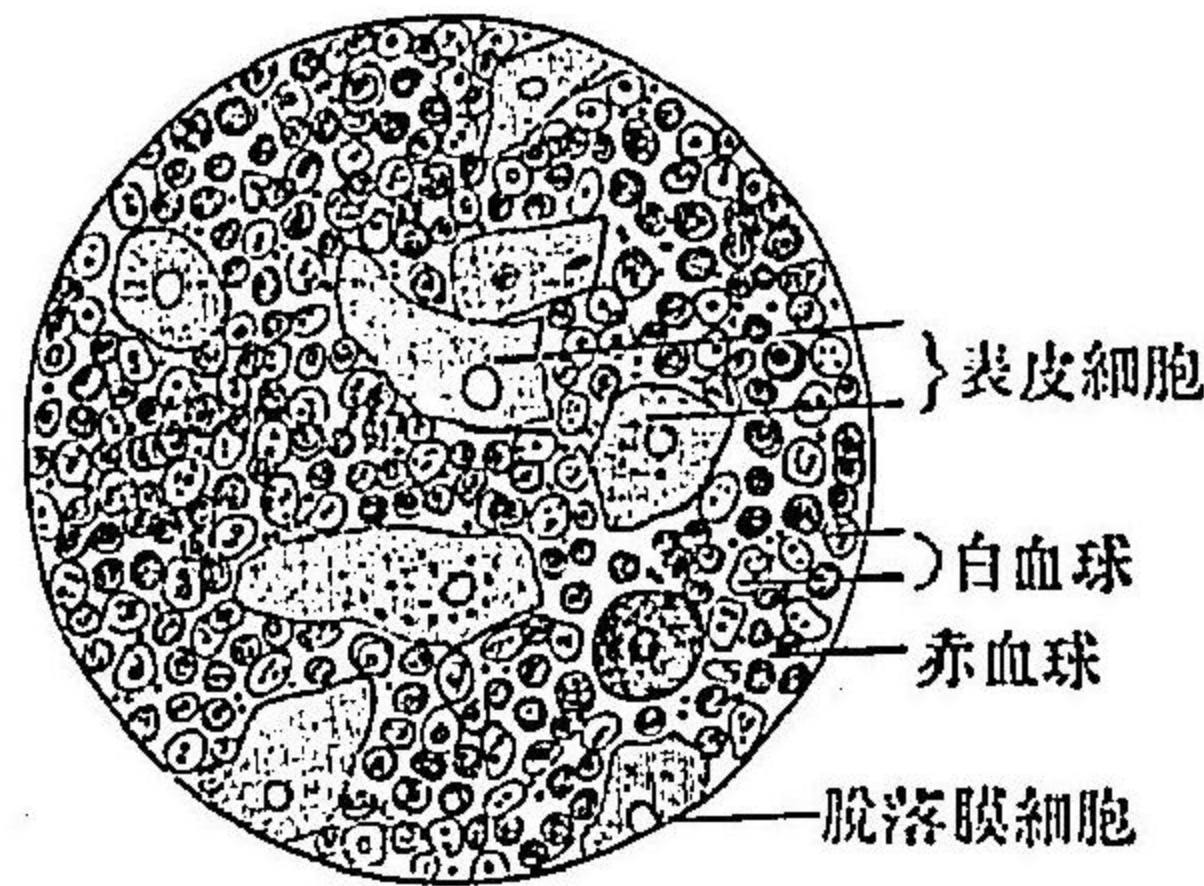
此ノ子宮ノ縮小ニ伴ヒ、漿膜ハ皺襞ヲ生シ、血管、淋尿管、神經モ亦縮小シ、廣韌帶退縮シ、喇叭管卵巢モ腫脹減退シテ、普通ノ位置ニ復スルモノナリ。

子宮内面ニ於ケル胎盤ノ剝離シタル創面ハ初メハ手掌大ナレトモ、一週日ヲ經レハ、三乃至四仙迷トナリ、四週ヲ經レハ、創面全癒シテ、平滑トナル。創面ニ在ル血管ノ斷端ハ血塞ノ組織變化ニ由リ萎縮ス。脱落膜ノ細片ハ創面ノ出血ト共ニ排泄セラレ、脱落膜細胞ハ脂肪變性ニ由リ分解シ、血液ト混シテ、排泄セラル、モノナリ。産褥ニ於テ陰部ヨリ排出

タル液ヲ惡露 (Lochia) ト云フ。脱落膜ハ其表層排出セララル、ト雖モ、深部ニ殘存セル腺及其間質ノ細胞増殖ニヨリ、全内面ヲ被ヒ、全ク平生ニ復スルモノナリ。

産褥ノ初メニ於テハ外陰及腔壁頸管、子宮口縁等ハ大小無數ノ創面ヲ有スルヲ以テ、傳染毒ニ感染シ易キモノナリ。

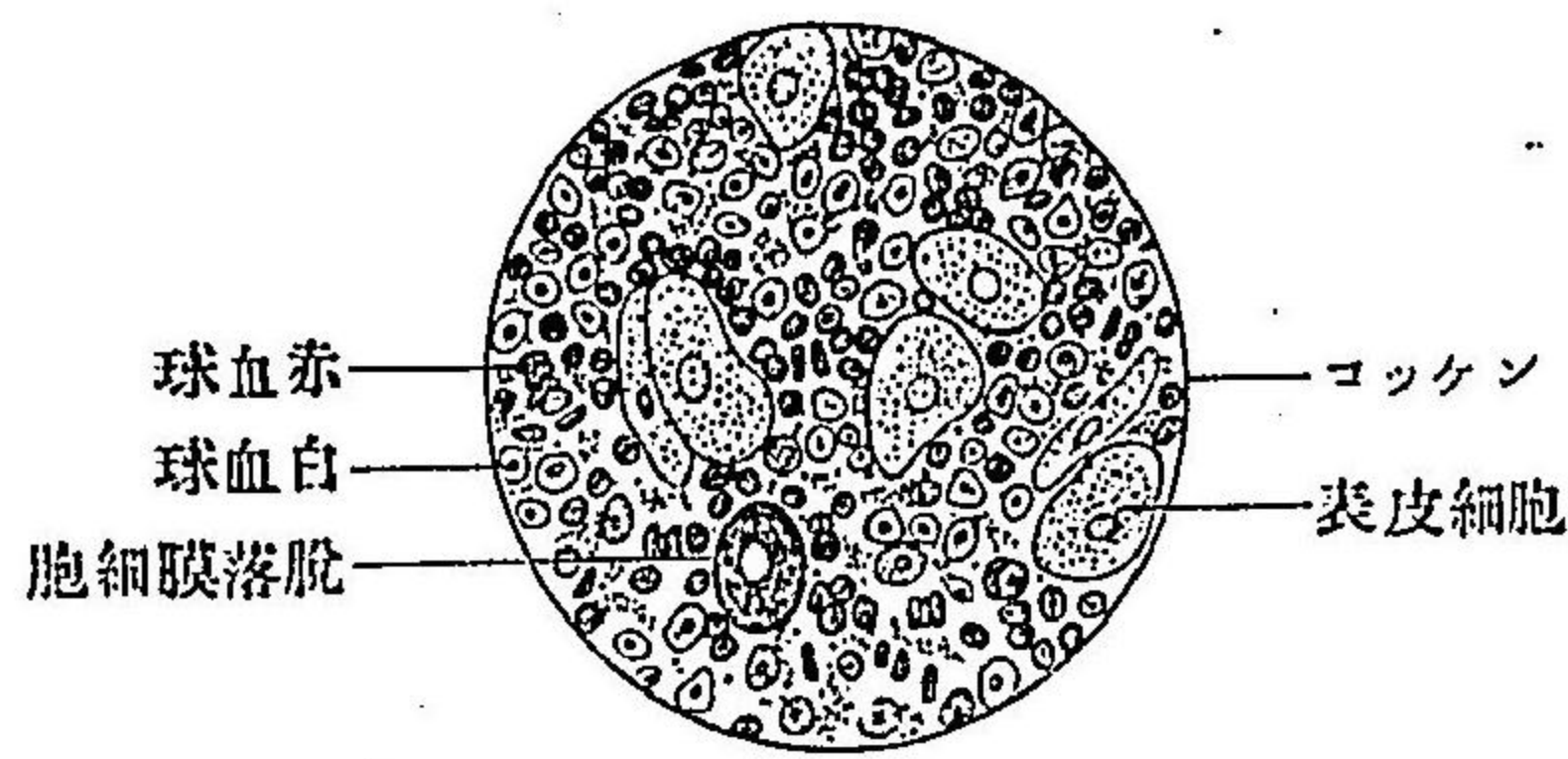
圖九十四百一第



露惡ノ日二第褥産

惡露即チ産褥ノ排泄液ハ主ニ子宮ノ創傷分泌液ニシテ、之レニ加フルニ、頸管腔及外陰部ノ分泌液ト血液、脱落膜細胞ノ殘片、膿球、腔粘膜細胞、脂肪球、ヒヨレスターリン結晶トヲ混ス。初メハアルカリ性或ハ中性ナレトモ、後ニハ酸性トナル。而シテ初メ一二日ハ血液ノ混スルコト多キニ由リ、暗赤色ヲ帶レトモ、三四日ヲ經レハ淡紅色トナリ、八日乃至十日ニ至リテ

圖十五百一第



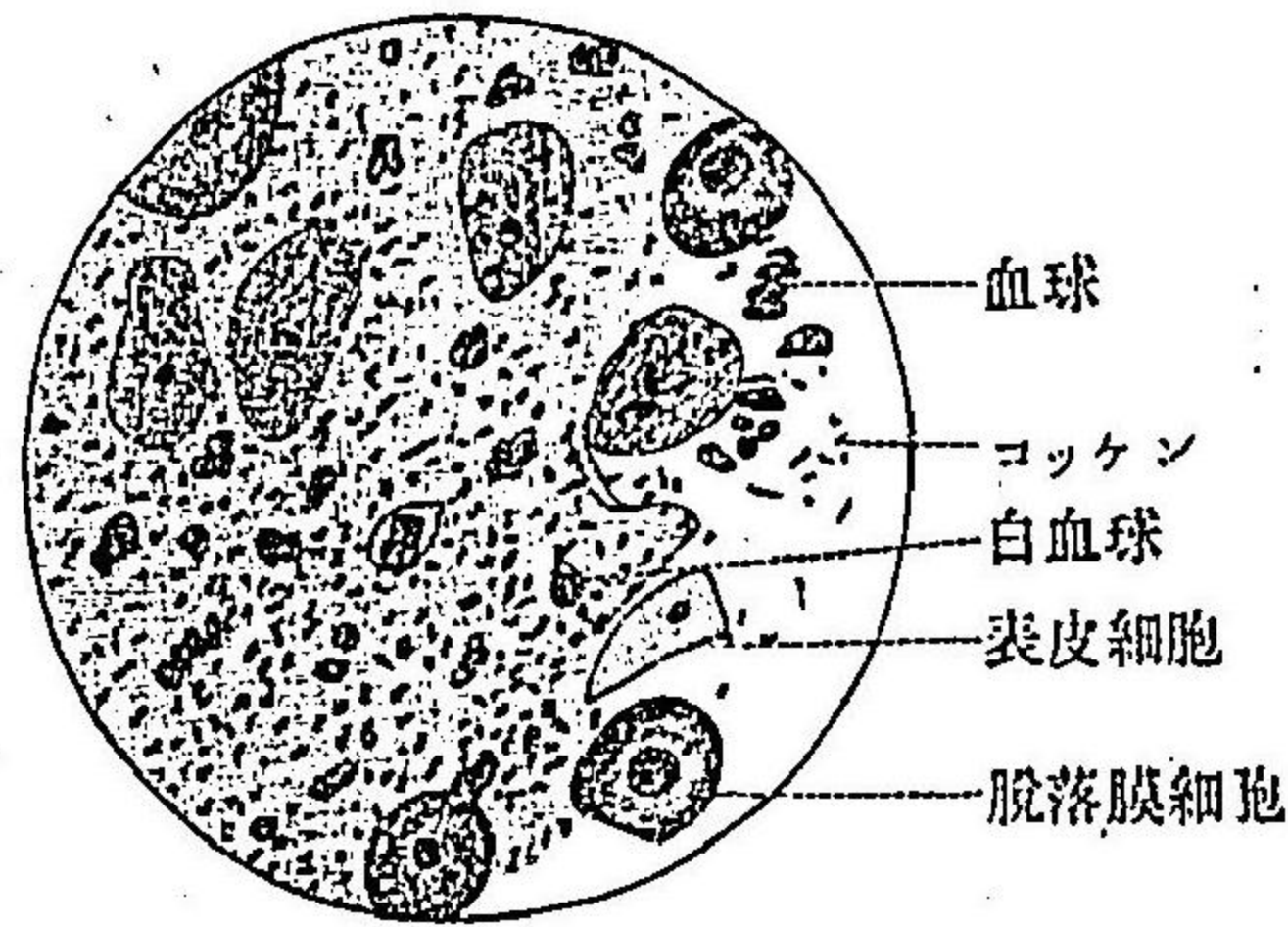
露惡ノ日四第褥産

ルモノナリ。而シテ三週日ニシテ、其量甚シク減少シ、四週日乃至六週日ニシテ、全ク停止スルモノナリ。斯ノ如ク十日乃至二週日ニシテ、惡露ノ血色ハ退

黄色ニ變シ、其量モ漸々退色ニ準シテ減少ス。授乳婦人ニ於テハ惡露ノ分泌ハ早時ニ減少シ、其量亦少ナシ。而シテ分娩後約八日間マテノ全量ハ平均一乃至一、五基瓦ナリ。授乳セサル婦人ハ其量多ク、殆ント倍數ナリト云フ。

劇シキ下痢、發汗ハ惡露ノ量ヲ減少ス

圖一十五百一第



露惡ノ日七第褥産

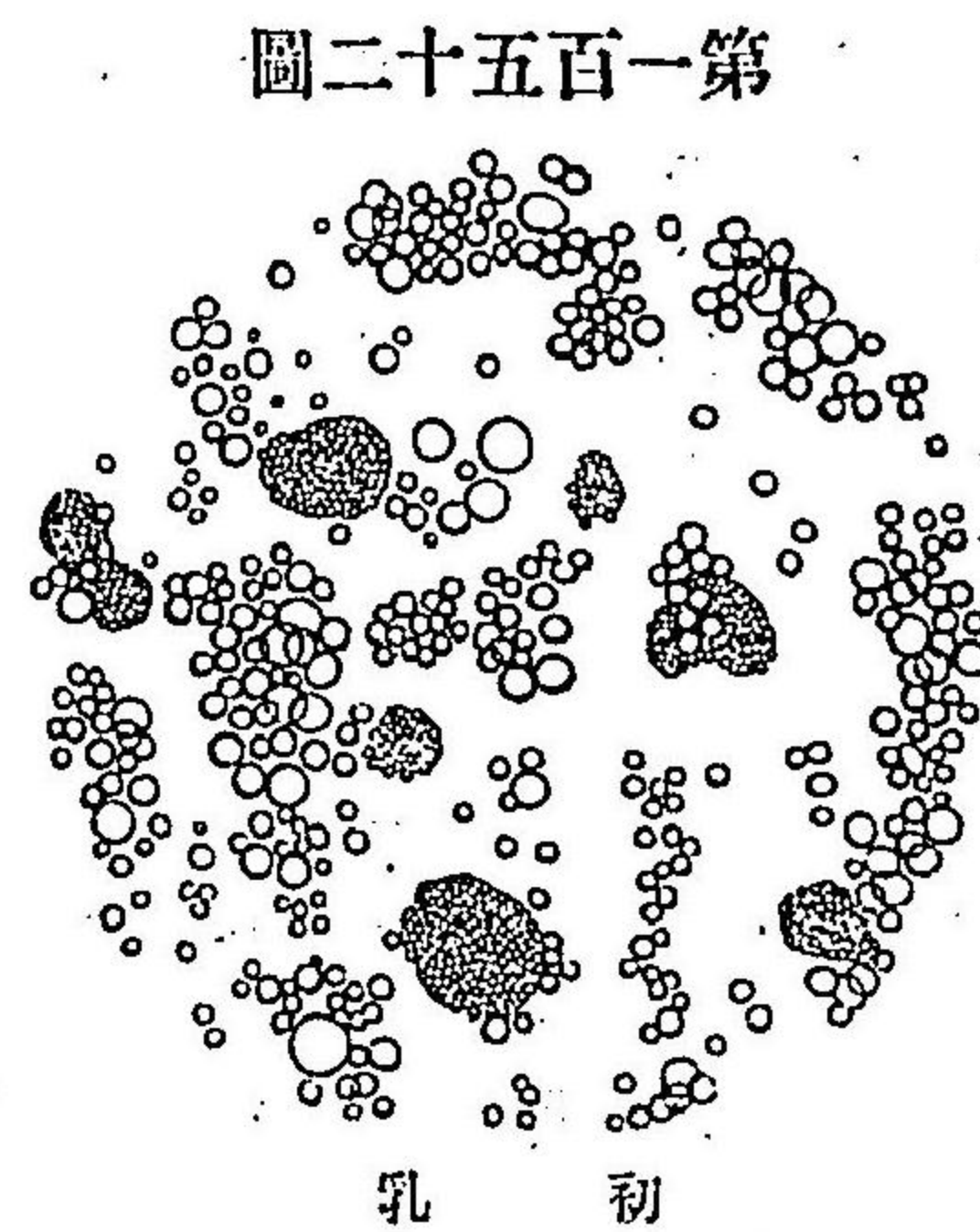
キ去ルモノナレトモ、烈シク身體ヲ動カシ、又早時ニ離床等ヲ爲ストキハ再ヒ血色ヲ帶フルコトアリ、子宮口唇ハ分娩直後ハ全ク緩弛シ、膜狀ニ下垂スレトモ、十二時乃至二十四時ヲ經レハ、子宮口狭小トナリ、口唇モ亦厚ク、腔部ノ形狀ヲ具フ。而シテ第十日ニ至レハ、子宮内口ハ指ヲ通ス可カラサルニ至ル。此ノ時既ニ子宮腔部ハ殆ント舊形ニ復スト雖モ、子宮外口ハ尙ホ廣クシテ、口唇ニハ數多ノ裂傷ニ起因スル癍痕ヲ有ス、此ノ癍痕ト腔部ノ大ナルコト、及大ナル子宮外口トハ經産婦ノ兆トシテ永ク存在スルモノナリ。腔及外陰部ハ其腫脹去リ、創傷モ亦之レト同シク、速ニ治癒シ、癍痕トナリ、分娩時延長セル會陰縮小シ、陰唇繫帶破裂ノ爲メ陰門ハ哆開ス。

乳ノ分泌 *Die Lactation.*

初乳ト通常乳トノ區別

産時ニ於テハ、生殖器ノ全部ハ盛ニ進行的ニ恢復機能ヲ營ムモノナレトモ、乳腺ハ之レニ反シ、此ノ時ニ盛ニ發育スルモノナリ。乳腺ハ妊娠中既ニ少量ノ乳汁ヲ分泌スルモノナレトモ、分娩後第二日乃至第四日ニ至レハ、其量大ニ増加シ、爲メニ乳房ハ腫脹シ、硬固緊張ス。然レトモ、此ノ初メニ出ル處ノ乳汁ハ稀薄ニシテ、水様透明ナリ。而シテ處々黄色點ヲ見ル。此ノ乳汁ヲ「コロストルム」(初乳) *(Colostrum)* ト云フ。且ツ此ノ初乳ハ通常ノ乳汁ト異ナルモノニアラサレトモ、其稀薄ナルコトト化學的ニ磷酸石灰、マグネシヤ、鹽酸「ナトリウム」、鹽素酸加里等ヲ含有スルコトニ由テ、少シク下痢ノ作用ヲ有スルモノナリ。尙ホ之レヲ通常ノ乳汁ニ比較スレハ、「カゼイン」ヨリハ「アルブミン」多キモノナリ。初乳ハ顯微鏡的ニハ初乳球ヲ有ス、其球ノ内容ハ多數ノ脂肪滴ニシテ、互ニ透明ナル物質ニヨリ結合シ、塊ヲナス。此ノ球ハ後ニ離レテ通常乳トナルモノナリ。乳腺ノ腫脹スルニ從テ、乳房内ニ於テ、數多ノ結節或ハ索狀物ニ觸ル。此

乳汁ノ構成

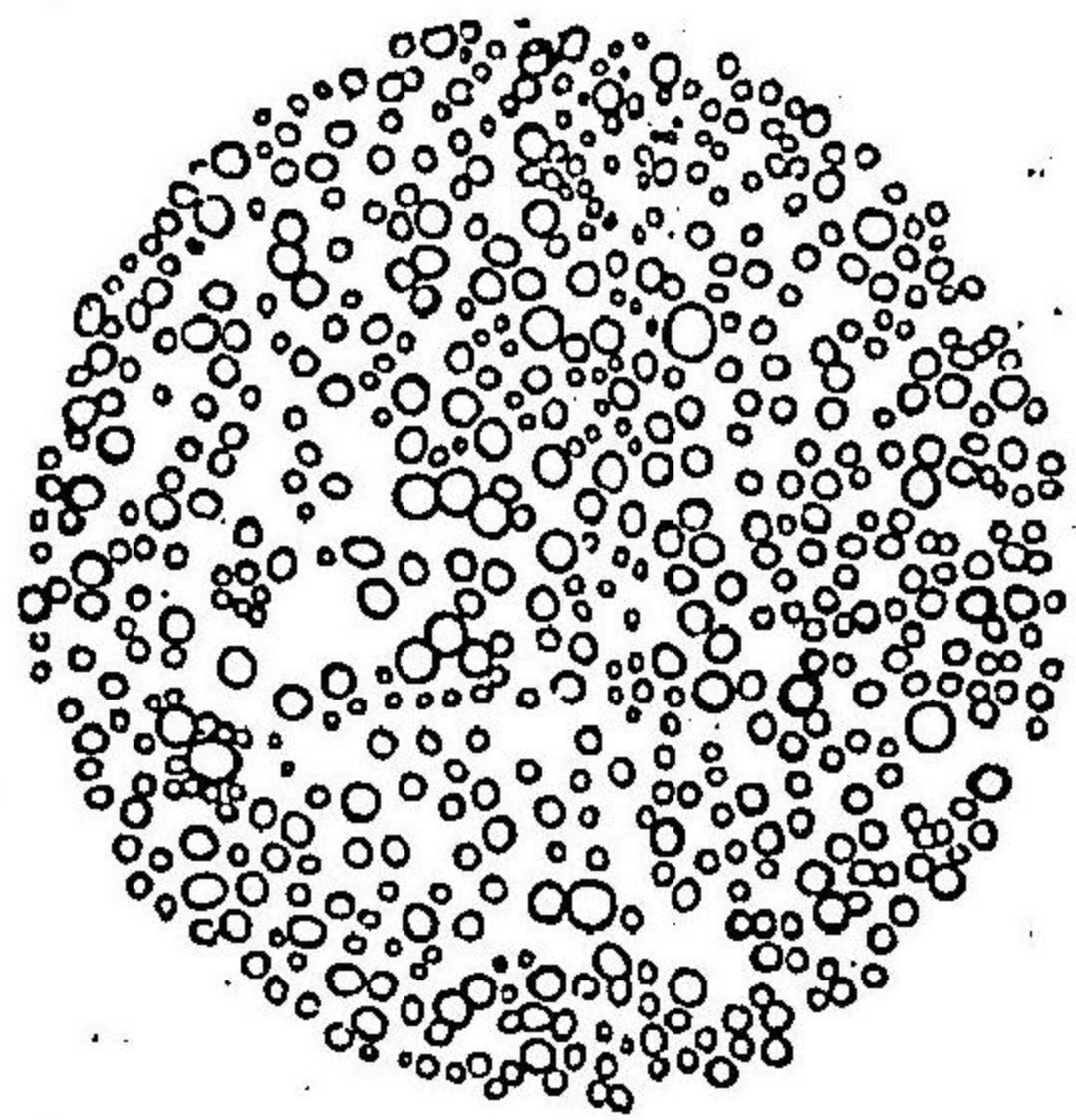


乳腺ノ腫脹ハ、疼痛ヲ來スコトアリ。殊ニ上肢運動或ハ乳房ノ壓迫ニヨリ甚シ。第四日ニ至レハ、乳汁ノ分泌ハ盛ニ増加ス。且ツ初生兒ノ吸引刺戟及定期性排出ノ爲メ、持續性ニ其量益増加ス。爾後此ノ機能ハ永ク保續スルモノナリ。

乳汁ハ白色不透明ニシテ、甘味アル液ナリ。而シテ此ノ乳汁ハ乳球ト水液トヨリ成ル。乳球ハ脂肪滴ニシテ、 0.002 乃至 0.005 密迷ノ大サナリ。而シテ其乳球ハ大小一樣ニシテ、中等大ナルヲ良トス。初期ニ於テハ通常尙ホ少許ノ「コロストルム」球アリ。比重ハ 1.026 乃至 1.036 ニシテ、弱アルカリ性稀ニハ中性ナリ。化學的成分ハ水分 88.9% 固形成分 11.1% ガゼイン 3.9% 脂肪 2.6% 乳糖 4.3% 鹽類 0.14% ナリ。而シテ此ノ乳汁ハ多クノ「カゼイン」ヲ有シ「アルブミン」少キヲ以テ、コ

産後月經ヲ見ズシテ妊娠スルコトアリ

第一五三圖



産後十日ノ乳汁

ロストルム」ノ如ク、煮沸スルモ凝固セス。而シテ人工胃液ニ遇ヘハ、細微ナル沈澱ヲ生シ、更ニ多量ヲ加レハ、再ヒ溶解スレトモ、他ノ酸ニハ沈澱ヲ生セス。是レ牛乳ト異ル處ナリ。乳ノ水分ハ血液ノ滲出液ニシテ、乳球ハ腺細胞ヨリ來ル。此ノ脂肪ハ蛋白質ヨリ來リ、「カゼイン」「アルブミン」ヨリ變ス。此ノ乳汁分泌ハ初メ八箇月間ハ盛ナレトモ、其後ハ漸々ニ減少シ、一箇年以上ニ至ルモノナリ。婦人ノ授乳間ハ月經閉止スルモノナリ。時トシテ五箇月許ニシテ、來潮スルコトアリ。然レトモ排卵ハ月經閉止ニ關セスシテ、來ルモノナルカ故ニ、産後一回タモ月經ヲ見認ルコト無シト雖モ、妊娠スルノ實例モ亦少ナシトセス。

産婦若シ哺乳セシメサレハ、一時ハ乳腺ノ腫脹劇シケレトモ、二日乃至

乳汁ノ性質ナ
トモセシムルコ

三日ヲ經レハ、吸收シテ乳房ハ緩弛シ、分泌全ク止ムモノナリ、
乳汁ノ性質及分泌ノ量ハ母體體質ノ營養ニ關スルコトハ論ヲ埃サレ
トモ、其量ノ多寡ニ至リテハ、遺傳ニ由ルコト少カラス。兩側乳腺ノ分泌
力及乳ノ性質ハ同様ナラサルコトアリ。母體ノ疾病ハ大ニ乳汁ノ性質
ヲ變シ、又強キ下痢及持續性ノ高熱ハ其量ヲ減スルモノナリ。殊ニ脚氣
ニ罹リシ婦人ノ乳汁ハ小兒ヲ害スルコト多シ。其他藥液ハ乳汁ト共ニ
分泌シ、微菌モ亦乳汁中ニ移行スルモノナリト云フ。殊ニ結核ハ移行ス
ルト云フ說多シ。然レトモ其微菌ハ乳汁中ニ證明セラレス。マラリヤハ
乳ニ因リ感染スト云フ。微毒性毒素ハ移行セス。產褥性敗血症ニハ時ト
シテ乳汁中ニ病的微菌ヲ發見スルコトアリ。然レトモ此ノ敗血症產婦
ノ乳ニ因リ、乳兒ノ疾患ヲ來セシ例ナシ。故ニ此ノ微菌ハ乳嘴分泌口ヨ
リ入リシモノトナス。母體ノ食物中ニ含有スルモノ、乳汁中ニ出ルコ
トハ證明セラル。色素、揮發油、醫藥モ乳中ニ出ルモノナリ。殊ニ醫藥トシ
テハ沃剝撒酸、ヨードホルム、砒素、アルコール、水銀、鉛、銻、鉛、アンチモン、亞

月經及精神感
助ト乳汁ノ關
係

體溫

鉛、鐵、アトロピン等ナリ。麻醉藥モ亦同シト雖モ、移行スルハ極メテ少量
ナルヲ以テ、小兒ヲ害スルコト少シ。故ニ授乳婦人ニ麻醉藥ヲ投スルト
キハ、長時ノ連用及大量ヲ避クヘシ。
月經潮來ノ爲メ、乳汁ノ變性ヲ來スト云フ說アレトモ、尙ホ爭論アリ。然
レトモ小兒ハ消化不良ヲ來スト云フ說多シ。精神感動ハ乳汁ノ量及性
質ヲ變スト云フ說多ケレトモ、未タ確乎タル事實ヲ證明シ能ハス。

產褥ニ於ケル臨牀的症狀

生理的產褥ニ於テ、其過經ハ全ク無熱ノモノニシテ、三十八度以上ハ病
的徵候ト見做スヘシ。然レトモ產後十二時間ニ〇五度或ハ一度許ハ昇
騰シ、其後十二時間ニ於テ下降シ、分娩直後ト同一ニ復スルモノナリ。而
シテ後ハ又少許ノ昇騰ヲ來スコトアレトモ、決シテ生理的境域ヲ超ユ

乳熱

ルコトナシ。而シテ分娩後十四日間ハ平素ヨリ〇、二乃至〇、三度攝氏高ク、一日ノ變化ハ〇、五度以内ナリ。又分娩後第三日乃至第四日ニ於テ發熱スルコトアリ。之レヲ乳熱 (Milkfever) ト云フ。是ハ第三日或ハ第四日ニ於ケル旺盛ナル乳腺ノ作用ニヨリ、其乳汁ノ吸收ニ原クモノニシテ全く無害ノモノナリト云フ。然レトモ亦生殖器内ニ於ケル細微ナル創傷面ニ關スル吸收熱ニシテ、消毒法ヲ嚴密ニ施行スレハ、此ノ發熱少シトモ云フ。乳汁ノ滯滯セシトキハ、頭痛及乳房内ニ刺戟様疼痛ヲ起シ、上肢ノ運動ニ際シ、苦痛ヲ感セシムルコト尠カラス。然レモ局部ニ變化ナキ以上ハ、決シテ發熱スルモノニアラス。

脈搏

脈搏ハ分娩直後ニ於テハ、少シク増加スト雖モ、體溫下降ト共ニ減少ス。第三日頃ニ至リ、僅ニ増加スルコトアリト雖モ、漸々減少シテ、六十乃至ハ七八許トナルモノナリ。時ニ健全ナル產婦ニシテ、脈搏四十以下ニ減少スルコト稀ナラスト云フ。尙ホマイブルク氏ハ一分間三十六ノ脈搏ヲ報告シ、プロット氏ハ三十五、ワールスハウゼン氏ハ三十四ノ報告

脈搏ト體溫トノ關係

アリ。然レトモ產褥時ニ於テハ、脈搏興奮シ易ク、些少ノ誘因ニ依リテ、其數ヲ増加スルモノナリ。此ノ遲脈ノ原因トシテハ、分娩後心臓ノ働ヲ要スルコト尠キニ由リ、尙ホ身體ノ安靜、安眠、流動食物、精神ノ安靜等モ亦大ニ之レニ關與スルモノナリ。ワールスハウゼン氏ニ據レハ、子宮組織ハ退行的變化ニ由テ、生スル脂肪ノ血液中ニ吸收セラル、ニ原クト云ヒ、ノイマン氏ハ迷走神經ノ刺戟ナリト云ヒ、マイブルク氏ハ又下腹動脈ノ鬱血ヲ以テ其原因ナラントセリ、時々脈搏ノ結代スルコトアレトモ是レ遲脈ニ往々來ルコトアルモノナリ。

脈搏ト體溫トノ關係ハ豫後ニ關シ、產褥敗血症等ハ體溫ニ先ツテ、脈搏ノ變化ヲ來スモノナリ。然レトモ大出血、褥婦ハ脈搏既ニ増加スルヲ以テ、前陳ノ豫後ヲ前知スルコト能ハス。

コッペール氏ノ說ニ據レハ

熱三十六度五分ニ對シ脈搏六十五

熱三十七度ニ對シ脈搏六十七

熱三十七度五分ニ對シ脈搏七十二
熱三十七度九分ニ對シ脈搏七十七

アールフェルド氏ハ妊娠末期ニ比較シテ左ノ如シト云フ、

三十六度五分 分娩前一週 六七 産褥

三十七度 分娩前一週 八一 産褥

三十七度五分 八八 産褥

三十八度 八二 産褥

呼吸

産婦ノ呼吸ハ亦緩慢ニシテ、十四乃至二十ヲ數フ。肺臟ハ其幅減シ、深サヲ増加スト云フ。然レトモ亦平常ニ異ナラストナス人アリ。

兩便通利

便通ハ秘結スルコト多シ。是レ分娩時ニ於テ、充分ナル排出ヲ爲シタル後尙ホ産褥中ニ於テハ、食量少ク、且ツ流動食物ナルカ故ニ、尿量ニハ關係アレトモ、其便トナル部分ノ少ナキニ由ル、尙ホ腹壓減少モ亦多少之レニ與カルモノナラン。

尿閉ノ原因

産褥ノ初ニ於テハ尿閉ヲ來スコト多シ。其原因種々アリ。

第一膀胱充盈スルモ、腹腔内ノ壓迫遽ニ減少シタル爲メ、其充盈ヲ感セサルコト。

第二腹壁ノ刺戟ノ缺如スルカ爲メ、膀胱ノ收縮適當時ニ來ラサルコト。

第三産褥時ハ仰臥ヲ以テ、排尿セシムルニ依リ、其位置ニ熟慣セサルカ爲メニ、意ノ如ク出テサルナリ。故ニ平常ノ位置ヲ以テ、放尿セシムレハ、容易ナルコトアリ。

第四分娩經過長キモノハ尿道挫傷シ、又ハ周圍創傷ノ腫脹ニ由リ、尿道周圍ニ腫脹疼痛ヲ來スニ由ル。

第五ヲールスハウゼン氏ハ尿道ノ屈曲ニ關スト云フ。

尿量ハ初メ一週日ハ増加ス。シヤツツ氏ハ腹壓減退ニ由リ、腎臟ノ壓迫減少スル爲メナラント云フ。又食物殊ニ飲料ヲ取ルコト多量ナルニモ關ス。尿素ノ量ハ或ハ増加スルコトナシトスルモ、定説ナシ、尙ホ尿中ニ乳糖アリ。此ノ乳糖ハ乳腺ノ分泌盛ナルニ從テ多量ナリ、乳汁分泌止ムニ

發汗

至レハ消滅ス。又尿中百弗頓ヲ含ム。是レ子宮筋肉中ノ蛋白質ノ變化セ
ルモノナリト云フ。

產褥婦ハ初一週間ハ發汗シ易ク、殊ニ睡眠時ニ多キモノナリ。是レ多量
ノ飲料ト身體ヲ溫暖ニ保持スルト、尙ホ授乳ノ疲勞等トニ關スルモノ
ナラン。

食慾ハ初二三日ハ減スルコトアリ。

體量モ減スレトモ、五日乃至七日ニシテ復スルモノナリ。

自覺的症狀

自覺的症狀トシテハ、分娩後ハ直ニ飲料ヲ渴望シ、其慾滿レハ、安眠ス。其

睡眠充分ナルトキハ、氣力大ニ恢復シ、其後ハ何事モ訴フルコトナキモ
ノナリ。唯僅ニ外陰部ニ灼熱ノ感アルノミ。又分娩後褥婦ハ惡寒ヲ來ス
コトアリ。是レ多クハ外陰部ノ淨拭中、曝露スル時間ノ長キニ失スル爲
メナラン。尿道近傍ニ創傷ヲ被ムルモノニ在テハ、放尿時疼痛ヲ訴フル
コトアリ。此ノ他褥婦ハ分娩後二三日間後陳痛ニ苦ムコトアリ。後陳痛
ハ子宮ノ發作性收縮ニシテ、初産婦經産婦共ニ畧ホ同一ナリ。然レトモ

後陳痛

初産婦ハ之レニ感スルコト尠ク、經産婦ハ甚シキコト多シ。此ノ後陳痛
ナルモノハ分娩經過ト反比例ヲナシテ來ルモノナリ。乃チ分娩時間ノ
早ク終リシモノハ後陳痛強ク、初産婦ノ如ク、分娩經過ノ長キモノハ後
陳痛ヲ感スルコト少シ。又授乳婦ハ其授乳時ニ於テ、子宮收縮シ、強キ疼
痛ヲ感スルモノナリ。

產褥ノ診斷

Diagnose des Wochenbetts.

產褥ノ診斷ハ既往症ニ依リ、明瞭ナルモノナレトモ、既往症ノ缺如セル
トキ、又ハ虛偽ノ陳述アリシトキハ、他覺的検査ノ必要ヲ來スモノナリ。
此ノ變化ハ產褥ノ分娩ニ近キ程、明瞭ニシテ、從テ診斷モ亦容易ナルモ
ノナリ。

產褥徵候ヲ分テ、不確徵、疑徵、確徵ノ三トナス。

不確徵

第一不確徵 腹壁ハ緩弛シ、皺壁多ク、著シキ着色ヲ有セルコト、皮膚ノ浮腫、靜脈瘤、及發汗等ナリ。

疑徵

第二疑徵 乳房ハ大ニ腫脹シ、皮下大靜脈ヲ透見ス可ク、壓搾ニ由リ乳汁ヲ分泌ス。陰部ハ腔口哆開シ、會陰及陰核ノ周圍ニ裂傷ヲ有シ、腔ハ廣潤ニ、粘膜面ハ平滑ニシテ、處女膜痕ハ消失シ、腔穹窿部ハ裂傷ヲ有シ、子宮頸管部長クシテ裂傷アリ。内外子宮口ハ大ニシテ子宮肥大前屈シ、產褥第七日乃至第八日ニ於テハ、子宮内面ニ胎盤ノ附着セシ創面ニ觸知スルコトアリ。且ツ惡露ノ排出アリ。是レ等徵候ハ產褥時以外ニ來ルコト無キニアラスト雖モ、此ノ徵候ノ多數並存スルトキハ、產褥ヲ確診スルコトヲ得ヘシ。其疑シキトキハ經過ニ由テ、比較スレハ明ナリ。

確徵

第三確徵 卵ニ屬スヘキ部分ノ子宮内ニ殘留スルコトナリ。脈絡膜及脫落膜ノ細胞惡露中ニ發見スルコトアレハ、確徵トナスヲ得ヘシ。分娩ヲ距ルノ日ヲ定ムルハ困難ナリト雖モ、乳房子宮ノ大サ、乳腺分泌

液ノ性質、創傷ノ模様ニヨリ、知ルヲ得ヘシ。

初生兒ノ狀況

初生兒ハ其第一官能トシテ、肺臟呼吸ノ開始及血液循環ノ變更ヲナス。然レトモ其他尙ホ一二ノ必要ナル變化ヲ來スモノナリ。

臍帶脫落

臍帶脫落 臍帶ハ血管ノ血行止ミタル後ハ乾燥シ、木乃伊變性ヲナシ、臍窩ノ周圍ニ反應的炎症ヲ來シ、分界線ヲ造ル。而シテ平均五日ニシテ、全ク分界線ニヨリ脫離ス。其後臍部ハ肉芽面トナリ、十二日乃至十五日ニシテ、内方ニ萎縮凹陷シテ、臍窩ヲ形成ス。而シテ太キ臍帶ハ細キモノヨリモ脫落スルコト早シ。然レトモ若シ其處置宜シキヲ得サレハ、膿化或ハ壞疽ニ陥リ、惡臭ヲ放ツコトアリ。消毒不完全ナリシ時代ニ於テハ、此ノ創傷ノ變化ニ由リ死ヲ致セシコト尠カラス。

上皮ノ剝落

上皮ノ剝落 分娩後三日乃至四日ヲ經レハ、上皮ハ糠樣或ハ膜狀トナリテ、剝離スルコトアリ。通常五日乃至六日ニシテ、終ルモノナリ。

黄胆

黄胆 (Icterus neonatorum) 初生兒ノ皮膚ハ初メ紅色ヲ呈スレトモ、其七

五乃至八〇%ハ二三日ニシテ、黄胆樣ノ着色ヲ來ス。着色ハ胸部、前額、鼻尖ニ最モ明ニシテ、其度ハ一定セス。其他眼球結膜及内臟諸器モ着色ス。平均三日乃至四日ニシテ、退色スレトモ、長キハ二週間許持續スルコトアリ。早熟胎兒或ハ臀位分娩ノ小兒ニ於テハ、黄胆ヲ發スルコト著シキモノナリ。然レトモ小兒ノ多數ハ是レカ爲メ身體ニ變狀ヲ來スコト無シ。

黄胆ノ原因

此ノ原因ニ付テハ、諸家ノ說一致セサレトモ、ホーフマイエル氏ハ多數ノ破潰セル赤血球色素ヨリ胆汁ヲ生シ、吸收セラル、ニ由ルト云フ。フレイリヒ氏ハ臍靜脈ノ血壓下降ノ爲メ、肝臟ノ毛細管内ニ胆汁ノ出ツルニ由ルト爲シ、ウィルヒョー氏ハ十二支腸炎ト云ヒ、ケール氏ハ先天性輸胆管ノ狹窄ト爲シ、ビルヒル、ルシフェルド氏及ハルベルスダム氏ハ肝臟性黄胆ト爲シ、且ツハルベルスダム氏ハ心臓内又ハ尿中ニ胆汁酸及胆汁色素ヲ檢出セリト。其他胎發中ニ在ル胆汁ノ吸收ト爲シ、又アランナー氏管ノ

初生兒乳腺腫脹

開放ニヨリ、胆汁成分ヲ有スル血液ノ肝臟ニ入ラスシテ、直接ニ心臓ニ來ルニ由ルト爲ス。
初生兒分娩後二三日ニシテ、乳腺ノ腫脹ヲ來スコトアリ。男女ニ關セス、常ニ兩側ニ來リ、壓搾ニ依リ、少量ノ乳樣物ヲ排出シ、一週ノ末頃ニハ盛ニ出テ、後漸々減少スルモノナリ。

胎尿

初生兒ノ大便ハ成人ト異リ、初メ二三日間ハ帶綠褐色ノ粘液樣物ナリ。之レヲ胎糞(胎尿)ト云フ。通常三四日ニシテ、色漸々變シテ、鮮黄色トナリ、恰モ煮沸卵黃ノ挫碎セルモノ、如シ。然レトモ糞臭ニアラスシテ、唯僅カニ酸性臭ヲ有ス。

尿

尿ハ淡黄色弱酸性ニシテ、比重輕ク一〇〇六ナリ。通常ノ尿成分ナル尿素、尿酸、磷酸鹽ノ外、尙ホ時トシテハ、少量ノ粘液ト、少許ノ蛋白ト、少許ノ糖分トヲ有スルコトアリ。又時ニ龜頭或ハ襠襪ニ黄褐色ノ細粉ヲ見ルコトアリ。殊ニ一週ノ末ニ多シ。是レ初生兒ノ尿酸、インフアルクト即チ直細尿管ヲ充セル尿酸ノ排出セラレタルモノナリ。

體重

體重ハ多數ノ初生兒ニ於テハ、三日乃至四日マテハ減退ス。其量平均二百二十瓦許ナリ。而シテ八日乃至十日ニシテ、再ヒ分娩時ノ重量ニ復スルモノナリ。未熟兒或ハ人工營養ノ小兒ハ此ノ減退最モ著シ。此ノ減少ハ體溫ノ散失ニ由リ、尙ホ胎糞尿ノ排泄ト、食物攝取ノ量僅少ナルトニ關ス。故ニ動物ニシテ乳ノ分泌初ヨリ多量ナルモノハ體重ノ減量少ナシト云フ。而シテ約五六箇月間ハ一日平均二十乃至三十瓦ノ增量ヲナスモノナリ。

產褥攝生法 *Dietetik des Wochenbettes.*

產褥婦ノ看護 *Pflege der Wöchnerin.*

產褥婦ハ分娩ニ依リ、身體ニ蒙ル變化殊ニ著大ナルヲ以テ、特別ノ看護

褥婦ハ初メ一週間離牀セシムヘカラス

ヲ要スルモノナリ。其保護ノ主要ナルモノハ身體及精神ヲ安靜ニ護ラシムルニ在リ。而シテ此ノ攝生法ヲ充分ニ施行スルトキハ、生殖器ニ於ケル創傷治療ノ經過良好ナリ。若シ之ニ反シテ、看護攝生ヲ忽ニスルトキハ、病的變狀ヲ起ス可シ。殊ニ精神ノ感激最モ害アリ。產褥ノ疾病ハ多クハ婦人科的疾病ノ原因トナルモノナレハ、大ニ注意セサルヘカラス。產褥婦ノ消毒防腐ノ忽ニスヘカラスナルコトハ爰ニ喋々ヲ要セサレトモ、畢竟スルニ創傷ハ分娩時ニ來ルモノナルカ故ニ、其分娩ニ臨ミ、諸般ノ處置ニ對シ、充分ニ消毒法ヲ勵行スルニアラサレハ、其效ナカルヘシ。而シテ產褥婦ニ對スル醫師ノ義務ハ、其看護ヲ監督シ、障礙ノ初發ヲ早時ニ檢出スルニ有リ。

產褥婦ハ分娩後少クトモ、九日乃至十四日間ハ、就褥セシムヘシ。而シテ其初二日間ハ、仰臥位置ヲ採ラシメ、其後ハ隨意ニ側臥ヲナサシムヘシ。然レトモ五六日間ハ、喫飯時授乳時放尿時ト雖モ、決シテ牀上ニ座セシムヘカラス。又褥婦ノ居室ハ成可ク廣クシ、空氣ノ流通ニ注意シ、溫度ハ

便通ヲ正シク
スベシ

列氏十四度許トナシ特ニ幽暗ナラシムルハ宜シカラス。新鮮ナル空氣ヲ多量ニ流通セシムルハ、創傷ノ治癒及身體ノ恢復ニ向テ偉大ノ效力ヲ有スルモノナリ。

分娩時汚染セル下敷等ハ産後速ニ撤去セシムヘシ。褥婦ハ被覆ハ其適意ニ任スヘシト雖モ、特ニ發汗ヲナサシムルノ必要ナキノミナラス、甚タ厚キ被覆ハ反テ害アリ。而シテ産褥時ニ於テハ、腰部以下ハ分娩時ノ如ク、液ノ浸透セサル様ニ注意セシムヘシ。

食物ハ牛乳、ソツ、粥、鶏卵等ノ消化シ易キ滋養品ヲ選ミ、適宜ニ之レヲ與ヘ、飽食セシムヘカラス。時々清良ナル水、湯ヲ與フ可シ。新鮮ノ魚、カルキ魚類或ハ軟カキ肉ヲ用ユルモ可ナリ。第四日頃ヨリ漸々食物ヲ硬クシ、三週乃至三週ニシテ通常食物ニ復セシムヘシ。授乳セシムルトキハ殊ニ食物ニ注意セサルヘカラス。

便通ハ分娩後二三日ナキハ害ナシト雖モ、三日ヲ經テ尙ホ無キトキハ、浣腸或ハ「カチ子」油又ハ鹽性下劑ヲ與フヘシ。其後尙ホ便秘スルトキハ、

尿ハ蓄積セシ
ムベカラズ
排尿法ノ注意

「カテーテル」
排尿時ノ注意

毎日又ハ隔日ニ前法ヲ施スヘシ。浣腸ハ「リスリン」石鹼水或ハ石鹼水ニ「アレーフ」油ヲ加ヘ、又「リスチ子」油ヲ用ユヘシ。峻下劑ヲ用ユ可カラス。

褥婦ノ衣服ハ緩カニ着用セシメ、且ツ溫暖ナルヲ良トス。而シテ乳房及腹部ヲ冷却セサラシムヘシ。然レトモ溫暖ニ過ルモ亦宜シカラス。腹帯ハ特ニ必要ヲ感セスト雖モ、腹壁ノ緩弛セル者ハ分娩後腹内空虚ノ感覺アルニ依リ、之レヲ施スモ可ナリ。然レトモ緊縛スヘカラス。

尿モ過度ニ充盈スルトキハ、子宮ノ收縮ヲ妨クルモノナレハ、度々排尿セシムヘシ。然レトモ「カテーテル」使用前膀胱部ノ摩擦、溫卷法、上體ノ高舉、又ハ尿道口ノ溫湯或ハ冷水ノ灌溉法等ヲ試ミ、子宮收縮佳良ニシテ、身體ニ變狀無キ褥婦ニ於テハ、靜ニ床上ニ踞セシメ、使用ヲ試シシムルモ宜シ。其效ヲ奏セサルトキハ、「カテーテル」ヲ用ユヘシ。而シテ尙尿ノ排出セサルニ於テハ、六時乃至八時間毎ニ、排尿ヲ試ムヘシ。「カテーテル」ハ、每使用前ニ煮沸シテ、消毒ヲ施スヘシ。「カテーテル」排尿時ハ先ツ外陰部ハ消毒ヲナシ、小陰唇ヲ開キ、尿道口ヲ視ツ、徐カニ「カテーテル」ヲ挿入

外陰部ノ處置

スヘシ尿道ノ兩側或ハ其周圍ニ二箇或ハ三四箇ノ小窩在リ(スケチイ氏腺痕跡ノ排出口ナリ)多少深キモノアレトモ皆盲狀管ナリ。時ニ之レヲ尿道ト誤認スルコト無キニ非ス。而シテ其管口ノ周圍ハ外陰部ノ洗滌ニ際シ汚物洗去セラルレトモ管ノ内部ニ附着セル不潔物ハ除ク能ハサルニヨリ若シ誤テ此ノ窩ニ「カテーテル」ヲ挿入セルトキハ「カテーテル」ハ再ヒ消毒スルニアラサレハ使用スヘカラス。惡露若シ膀胱内ニ送入セラル、トキハ劇烈ナル膀胱加答兒ヲ起シ其症極メテ頑固ナルモノナレハ「カテーテル」使用ノ際ハ殊ニ注意セサルヘカラス。

外陰部ノ處置 外陰部ハ惡露排出ノ爲メ汚染セラル、ヲ以テ分娩後九日間ハ毎日二回ツ、温ナル五十倍石炭酸ヲ浸シタル綿ヲ以テ淨拭スヘシ。然レトモ腔ハ經過尋常ナル褥婦ニ在リテハ洗滌スルノ要ナキノミナラス洗滌ハ反テ害ヲ招クコトナキニ非ス。尙ホ兩便ノ通利毎ニ能ク外陰部ヲ淨拭シ、撒酸綿花或ハ殺菌脫脂綿ヲ當テ置キ、惡露ノ量多カラサレハ、毎三時ニ交換スヘシ。而シテ此ノ際毎ニ其色、量及臭氣

健全ナル婦
ハ内診スベカ
ラズ

ヲ檢スヘシ。而シテ毎二十四時間ノ全量ヲ比較スヘシ。產褥婦人ニ對スル醫師ノ注意スヘキ要點ハ朝夕二回ノ體温、脈搏、子宮底ノ高サ、收縮、惡露ノ量、色及性質、尿及大便ノ排出ナリ。内診ハ特ニ必要ヲ認メサルトキハ、分娩後九日間ハ決シテ施スヘカラス。是レカ爲メニ創傷ノ殆ント治癒ニ傾ケルモノヲ剝離シ、肉芽發生ヲ妨クルコトアレハナリ。然レトモ亦產褥ノ終リニ於テハ、子宮ノ大サ、位置等双合診ニ依リ、之レヲ確定スルノ必要アリ。若シ内診セント欲セハ、腔ハ充分ニ消毒スヘシ。

初生兒ノ看護法 Die Pflege des Neugeborenen.

清潔ニナスコ
ト
臍帶ノ處置

初生兒ノ發育ニ就テハ、最大ノ關係ヲ有スルモノハ清潔法ナリ。故ニ毎日一回殊ニ朝時列氏二十八度許、攝氏三十七度乃至四十度ノ温湯ニ浴セシメ、眼及口ハ各自別器ノ湯ヲ以テ洗拭スヘシ。臍帶ヲ包ミタル繻帶

ハ入浴後必ス新シキモノト交換シ、尚ホ尿管等ニ汚染スルトキハ、速ニ之レヲ更ムヘシ。臍ノ綳帶ハ殺菌セルモノヲ用ユヘシ。アルコールニテ能ク洗ヒ、新シキ綳帶ヲ施スヘシト云フ。尚ホ膿化、壞疽等ノ豫防トシテ、初ヨリ臍帶ニ等分ノ撒酸澱粉ヲ散布スルモ可ナリ。乾燥惡キ時ハ撒酸又ハアイロールヲ散布スヘシ。臍帶若シ惡露ニ汚染セラレ、コトアラハ、劇烈ナル創傷傳染ヲ來シ、是レカ爲メ小兒ノ死ヲ致スコトアリ。故ニ若シ一人ニテ褥婦及小兒ヲ取扱フ場合ニハ、必ス先キニ小兒ヲ處置ス可シ。臍帶脱落後ニ於テモ皮窩ニハ尚ホ肉芽面アルヲ以テ、前同様ノ處置ヲ爲サ、ルヘカラス。

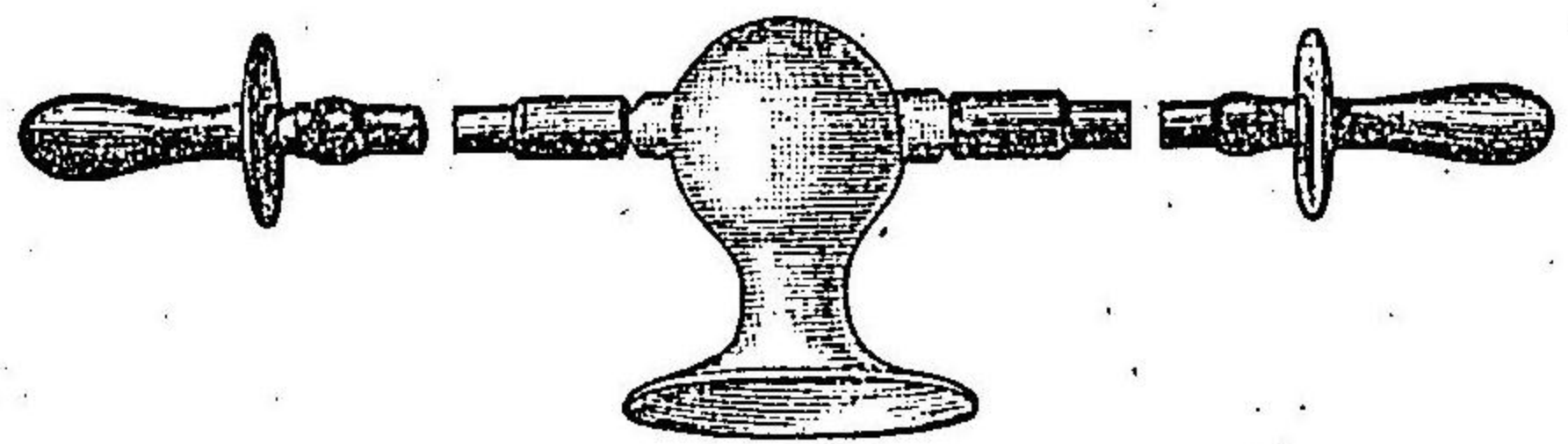
黄胆ハ特ニ療法ヲ要セス。乳腺腫脹モ亦同シトス。乳腺ヲ壓搾シ、分泌液ヲ排出セシムル等ノ處置ハ炎症ヲ來スコトアリ。宜シク注意スヘシ。生殖器及臀部ハ創傷ヲ蒙リ易キヲ以テ、能ク注意スヘシ。襁褓ノ汚染セルトキハ、速ニ之レヲ取り換ユヘシ。然ラサレハ其濕潤ノ爲メ、創傷ヲ蒙

早熟兒看護法

リ易ケレハナリ。故ニ數々洗滌シ、能ク乾シ置キ(擦拭スヘカラス)時トシテハ「ラノリン」「アゼリン」等ヲ塗布ス可シ。

早熟兒ニ於ケル看護ハ至難ノ業ナレトモ、其宜シキヲ得レバ、發育スルコトヲ得ヘシ。早熟兒ハ自己ニ温ヲ造ルコト少クシテ、却テ其發散ハ甚タ多大ナルカ故ニ、看護法ノ第一要務ハ外部ヨリ温ヲ與フルニ在リ。乃チ二重ノ湯槽内ニ嬰兒ヲ入レ、或ハ直接ニ温湯ニ浸シ置クヘシ(アールフェルド氏)。但シ直接温湯ニ入ルルコト長ケレバ、皮膚ノ剝離等ヲ起シ易キヲ以テ、〇、六%ノ食鹽水ヲ用ユ可シ。湯槽ノ裝置ナケレバ、綿ヲ以テ厚ク全身ヲ包ミ、湯婆ヲ以テ、暖ムヘシ。而シテ尚ホ毎日數回長時ノ温浴ヲ爲サシムヘシ。

第一五百四十四圖



兩端ニ吸子ヲ附シタル吸乳器

嬰兒ノ吸引作用未タ充分ナラサルトキハ、須ラク搾取セル母乳ヲ茶匙ヲ以テ與ヘ、尙ホ時々乳頭ノ吸引ヲ慣レシムヘシ。務メテ睡眠ノ爲メニ、哺乳時ヲ怠過セサラシムヘシ。若シ醒覺セサルトキハ、鼻ヲ撮ミ、之レヲ促スヘシ。既ニ乳頭吸引ニ慣ルレハ、第百五十四圖ノ如キ器ヲ乳頭ニ附シ、母先ツ自ラ乳ヲ吸ヒ出シ、嬰兒ヲシテ吸引ヲ容易ナラシムヘシ。

小兒ノ營養法 *Die Ernährung des Kindes.*

褥婦分娩後ノ疲勞恢復シ、乳腺少シク腫脹スルニ至レハ、初乳ノ量僅少ナリト雖モ、直ニ之レヲ少兒ニ與フヘシ。授乳ニ先チ乳頭ハ清潔ナル水ニ浸シタル片布ヲ以テ、丁寧ニ拭フヘシ。輕微ノ創傷モ乳腺炎ヲ來スコトアルヲ以テ、傷ノ生セサル様、徐カニ拭フヘシ。小兒ハ哺乳前後ニ口内ヲ淨拭スヘシ。然レトモ、アールフェルド氏ハ哺乳後ノ淨拭ハ吐乳ヲ起シ易キヲ以テ、宜シカラスト云フ。

母乳營養法

初乳ヲ小兒ニ與フ可シ

哺乳時清潔法

哺乳時間

授乳ニ就テ、最モ必要ナルコトハ時間ヲ一定スルコトナリ。アールフェルド氏ハ初一週間ニ於ケル小兒ノ看護ハ後年教育ノ基礎ヲ造ルモノナリト、即チ授乳ハ雷ニ小兒ノ胃慾ヲ滿サシムルノミナラス、又習慣ヲ造ル教育ナリ。故ニ養育ニ於ケル嚴正ナル規律ハ身體及精神ノ發育ニ大ナル關係ヲ有スルモノナリト云フ。

初ハ授乳ヲ二時間乃至三時間ニ一回トシ、晝間ハ假令睡眠スト雖モ、授乳スヘキ時間ニ至レバ、必ス哺乳セシムヘシ。之レニ反シテ、夜間ハ小兒ノ號泣シテ、乳ヲ需ムルニ至ルマテ、與ヘサルヲ良シトス。斯ノ如クスレハ、小兒ノ發育整然トナリ、母乳不足ニアラサレハ、出産後二箇月ニシテ一晝夜四回乃至六回ノ哺乳ヲ以テ、不足ヲ告ケサルニ至ル。此ノ方法ヲ實行センニハ、第一哺乳量ヲ定ムルコト大切ナリ。一回ノ量充分ナラサレハ、之レニ從フコト能ハサルモノナリ。アールフェルド氏ハ母乳哺乳時一回ノ量ヲ精査セントセバ、小兒ノ體重ヲ細密ナル權衡ヲ以テ哺乳前後ニ秤ルヘシト云フ。依テ同氏ノ製表アリ。左ニ掲ク。

	一日ノ 回数	平均 量		一日ノ 回数	平均 量
第一日	二回	二、五	第十二日	六回	九三、〇
第二日	五回	二九、〇	第十三日	七回	八六、〇
第三日	六回	二一、〇	第十四日	七回	九一、〇
第四日	七回	五八、八	第十五日	六回	九三、〇
第五日	六回	六七、五	第十六日	七回	九〇、〇
第六日	七回	七三、〇	第十七日	七回	九二、〇
第七日	六回	九二、二	第十八日	六回	九六、〇
第八日	七回	九七、〇	第十九日	七回	一〇五、〇
第九日	六回	九三、〇	第二十日	六回	一一二、〇
第十日	七回	八六、〇	第二十一日	七回	一〇二、〇
第十一日	六回	九六、〇			

哺乳量

小兒滿腹ノ兆候

一回ノ哺乳時間ハ豊富ナル母乳ニシテ授乳中小兒ノ眠ルコトナケレハ十分乃至二十分間ト爲シ授乳後腺ノ腫脹甚シキトキハ直ニ搾リ捨ツヘシ尙ホ秤量ニヨルノ外滿腹ノ兆候トシテハ乳頭ヲ引放スモ叫フコト無ク或ハ自ラ乳頭ヲ放チ四肢ヲ動かサスシテ静ニ腕ヲ兩側ニ伸シ授乳前ノ如ク指ヲ吸フコトナク又頭ヲ左右ニ掉ラス總テノ運動緩慢トナルモノナリ。

哺乳セル後チ時トシテハ身體ヲ安臥セシムルニ拘ラス乳ヲ吐クコトアリ是レ哺乳ノ多量ナルニ由リ又便意ノ爲メ腹壓ヲ加フルニモ由ルコトナリ然レトモ此ノ吐乳ハ普通ノ嘔吐ト大ニ異リ嘔吐運動ヲ伴フコトナシ故ニ授乳後ハ必ス側臥ヲ取ラシムヘシ假令吐乳スルコトアルモ側臥位置ニ於テハ吐乳ノ喉頭ニ流入スルコトナケレハナリ小兒往々哺乳ヲ欲スル爲メニ號泣スルヲ以テ護謨製ノ乳頭ヲ口ニ哺乳シムルコトアリ然レトモ口内ヲ不潔ニシ易キニ依リ宜シク禁スヘシ而シテ是レ等ハ前述ノ慣習ニ依レハ自然ニ防クコトヲ得ヘシ斯ノ

如クニシテ小兒ヲ養育スレハ、其發育ノ状態及疾病ノ有無等ヲ明ニスルヲ得ヘシ。總テ小兒ハ哺乳後睡眠シ、哺乳時來レハ號泣シ或ハ身體ノ不安状態ヲ以テ之ヲ告知ス。若シ哺乳時以外ニ於テ、前述ノ状態ヲ示スコトアレハ、兩便排出ノ催シ來ルニアラサレハ、異常アルノ徴ト見認ムヘシ。尙ホ發育状態トシテハ、尿ノ排泄多量ニシテ、且ツ規則正シキコト、大便ノ性質、色、關節部ノ皮膚緊張シ丸ミヲ生シ、全身皮膚モ緊張シ皺襞無ク、體重ノ増加スルコトヲ以テ證スヘシ。體重ハ初メ四箇月間ハ一日平均二十瓦乃至三十瓦ヲ增量スルモノナリ。

小兒ノ營養ハ母乳ヲ以テ最良トナス。獨リ小兒ノ爲メノミナラス、母體ニ於テモ亦利益アルモノナリ。

產褥經過中授乳婦ハ授乳セサルモノニ比シテ、佳良ノ經過ヲ取ルヲ得ヘシ。然レトモ結核骨軟化症、癩癩、精神病者、發熱患者ニ於テハ、授乳ハ兩者ノ利益ニアラサルヲ以テ、與フヘカラス。而シテ之レニ代用スヘキ最良ノモノハ人乳即チ乳母ニ如クモノナシ。

乳母ノ選擇

乳母 (Amme) ノ選擇ニ就テハ父母兄弟ノ健否本人ノ體格、既往ノ疾病、初産或ハ經産及分娩ノ日等ヲ尋問スルヲ要ス。然レトモ是レ等ハ虛偽ノ陳述多ク、容易ニ信スヘカラサルヲ以テ、他覺的ニ診査ヲ要スルトアリ。

乳母ニ就テ最モ必要ナル條件ハ乳汁ノ分泌量及其性質、遺傳病ノ有無即チ梅毒、結核、精神病、癩癩等ヲ診問スルニアリ。

乳母ハ經産婦ヲ宜シトス。之レ小兒取扱等ニ慣ル、ヲ以テナリ。又都會ノ者ヨリハ田舎ノ者ヲ宜シトス。年齡ハ二十歳乃至三十五歳ノ間ヲ宜シトス。分娩後十四日間ハ生殖器恢復充分ナラサルカ故ニ宜シカラス。又分娩後八週日ヲ過キタル者ノ乳汁ハ初生兒ニ對シカゼインノ量多キニ過キ、消化不良ヲ起シ易シ。

乳房ニ就テハ、腺ノ大サ、皮下靜脈ノ多寡、乳嘴ノ形狀、其大サノ授乳ニ適スルヤ否ヤ、若シ同時ニ其乳母ノ小兒ヲ視ルヲ得ハ、其發育状態ニヨリ、其乳汁ノ性質ヲ推知シ得ヘシ。然レトモ是レモ亦實子ニアラサルモノ

ヲ伴ヒ來ルノ弊習アレハ、又之レヲ注意セサルヘカラス。
 乳汁ニ就テ最モ大切ナルハ其分泌量ニシテ、次テ其性質ナリ。量ヲ檢スルニハ、アールフェルド氏ハ小兒ノ授乳前後ニ體重ヲ秤リ、而シテ二十四時間ノ平均ヲ探ルヘシト云フ。是レニ用ユル權衡ハ精密ナルヲ要ス。
 乳汁ノ色ニ就テハ、白色ナル程脂肪多ク、青色ハ稀薄ナリ。乳汁ノ性ヲ乳酪ノ量ニ依リ、檢定スルノ法アリ。即チ乳汁ヲ試験管ニ取り、十二時乃至二十四時間其儘ニ放置シ、乳酪全乳量ノ十分一ヲ超ユルハ良シカラス。又指爪上ニ點下セル乳滴ハ指ノ輕微ノ振顛ニモ關セス、其點下セル形状ヲ保ツモノヲ良乳ト云フ。稀薄ノモノハ乍チ流ル、モノナリ。
 顯微鏡的ニハ乳球ノ密度、其大サ、大小不同ノ有無ヲ檢スヘク、脂肪量ヲ計ラント欲セハ試験管内ニ五立方仙迷ノ乳ニ對シ、十二半%ノ苛性曹達一滴ヲ容レ、エーテル五立方仙迷及九十%アルコール五立方仙迷ヲ入レ、能ク振盪シ、其脂肪三乃至四%ナルヲ良トス、又ラクトスコープヲ用ユ。

人工營養法

乳母ノ食物ハ脂肪過多ナルモノハ禁スヘシト雖モ、獨リ食物ノミニニ限ラス、總テ從前ノ習慣ヲ遵ニ變更セシムルハ宜シカラス。習慣遵變ノ結果ハ乳汁分泌ヲ制止スルコトアリト云フ。

人乳ヲ得能ハサル場合ニ於テハ、獸乳ヲ用ユ。此ノ中最モ適當ナルハ山羊、馬、驢、馬牛ナレトモ。牛乳ハ何地ニ於テモ得易キモノナレハ、多ク之レヲ使用ス。

牛乳ト人乳トノ構成分ヲ比較スレハ、左ノ如シ。(ビーデルト氏ノ調査ニ據ル)。

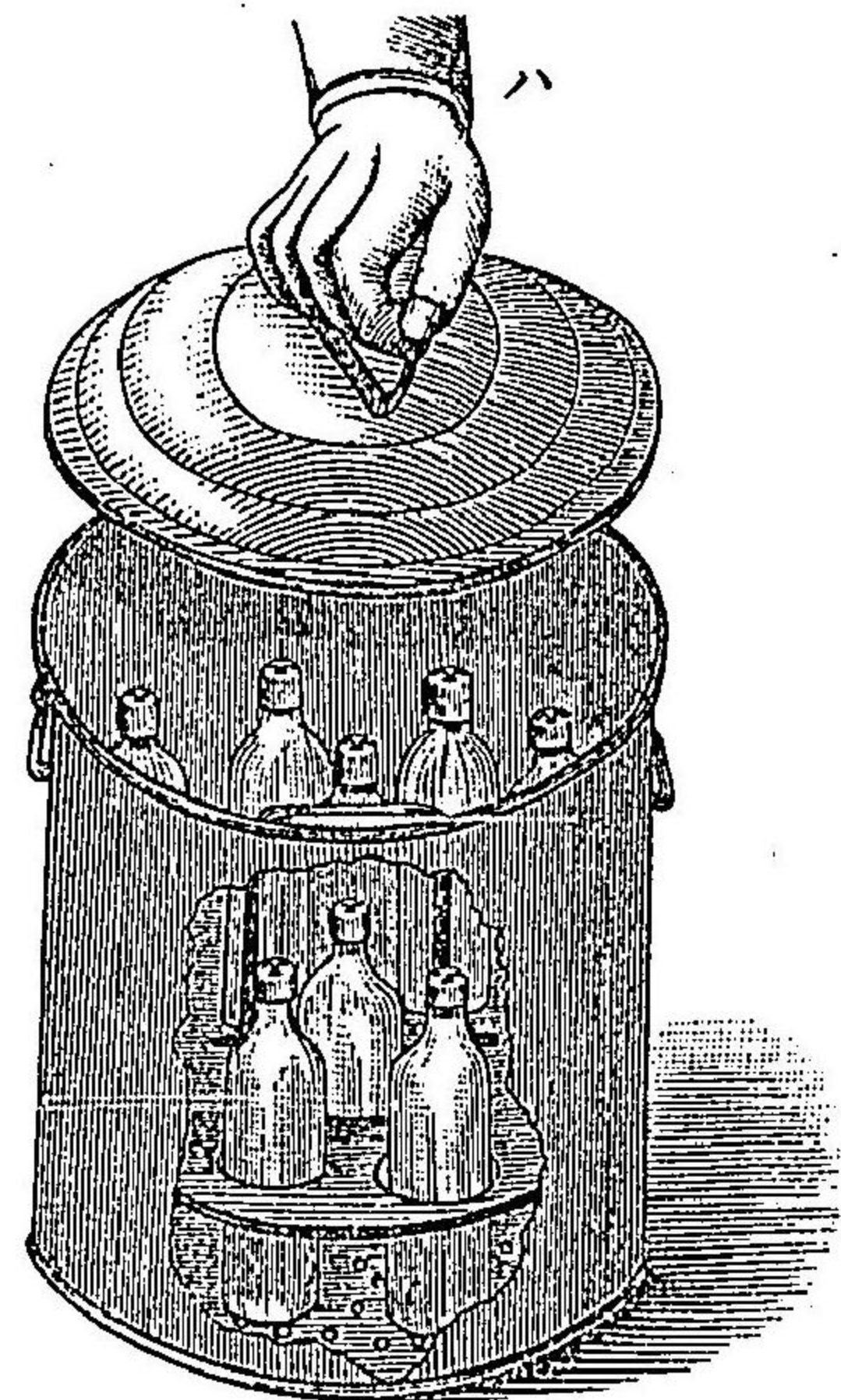
牛 乳		人 乳	
蛋白質(カゼイン)	四、〇(三―五)%	一、九(一、一―二、七)%	
脂肪 質	三、五―四、〇%	三、二(二―七)	
乳 糖	五、〇%	五、〇(三、二―六、二)%	
鹽 分	〇、一七%	〇、一七%	

牛乳 ハ初生兒ニ對シ、濃厚ナルカ故ニ煮沸水ヲ以テ稀薄ニナスヘシ。乃チ左表ノ如シ。

初メ三週間ハ	牛乳	一	水	三
二箇月	牛乳	一	水	二
三箇月—五箇月	牛乳	一	水	一
六箇月—七箇月	牛乳	二	水	一
以後ハ	純乳トナス			

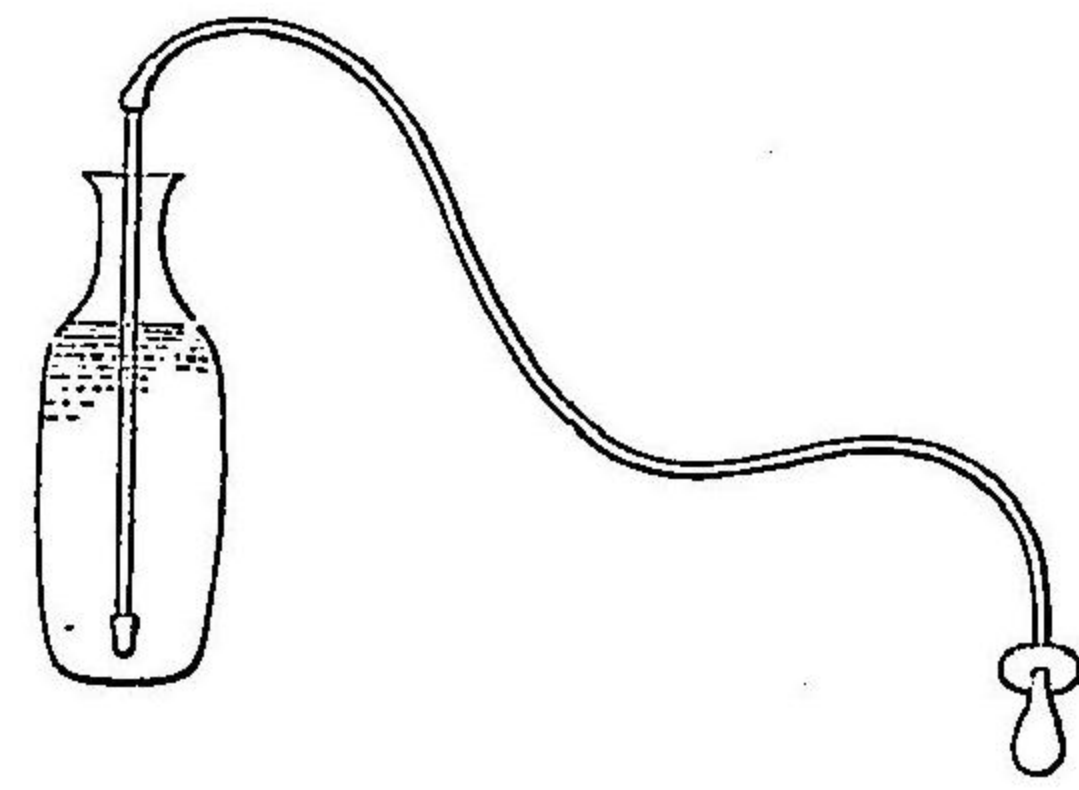
牛乳ハ其稀薄ニナセルモノハ糖分ノ減少ヲ來スカ故ニ牛乳一〇〇〇ニ對シ、四〇ノ糖ヲ加フヘシ。初生兒便秘スルトキハ、煮沸水ニ代フルニ、大麥若クハ燕麥ノ煎汁ヲ濾過シタルモノヲ用ユルコトアリ。牛乳ノ使用ニ就テハ、殺菌セサルモノハ危險ノ恐アリ。此ノ殺菌法ヲ簡

第一五五五圖



牛乳殺菌罐

第一五五六圖



殺菌セル牛乳瓶ニ硝子管及護膜管ヲ入レタルノ圖

便ニ施シ得ヘキ器ハソクスレット氏ノ裝置ナリ。乃チ先ツ一回ニ使用スヘキ乳量ヲ一瓶毎ニ容レ、半日或ハ一日分ヲ罐ニ入レ、少クモ三十分時百度ノ蒸氣ニ曝シタル後、之ヲ冷キ所ニ貯ヘ置キ、使用ニ先チ其密閉ヲ開キ、硝子管、護膜管、吸引用護膜乳頭ヲ以テ、哺乳セシムヘシ。人工營養時ニ於テ特ニ注意スヘキハ器物ノ清潔法ニシテ、護膜管、硝子管、乳頭等

ハ使用ノ後、毎回熱湯ニテ洗ヒ、又ハ煮沸スルニアラサレハ、再度使用スヘカラス。

牛乳無キ時ハ、コンデンスミルク〔煉乳〕ヲ用ユ可シ。其他尙ホ夥多ノ代用品アレトモ、主ニ副食料ニシテ、小兒營養ノ代用品トナスコト能ハサルモノナリ。

産科學講義上卷終

明治三十六年七月廿八日印刷
 明治三十六年八月一日發行

正價金壹圓參拾錢

著者 中島襄



發行者 小立鉦四郎

東京市本郷區湯島切通坂町八番地

印刷者 野村宗十郎

東京市京橋區築地三丁目十五番地

印刷所 東京築地活版製造所



發兌元 南江堂書店

東京市本郷區湯島(下谷電話)切通坂町八番地(二三三〇番)

關西大賣捌書肆 松村九兵衛

大阪市中心齋橋筋一丁目
 大阪市中心齋橋筋博勞町
 丸善株式會社支社書店

肆書捌賣

東京市日本橋區通三丁目	丸善書店
東京市神田區鍛冶町	朝香屋書店
東京市本郷區春木町	半田屋書店
東京市本郷區龍岡町	吐鳳堂書店
東京市本郷區春木町	南江堂支店
名古屋市本町三丁目	丸善書店
岡山市中之町	渡邊宗次郎
熊本市新町二丁目	長崎次郎
長崎市引地町	安中集英堂
福岡市博多中島町	積善館支店
廣島市鹽屋町	積善館支店
仙臺市大町五丁目	藤崎祐之助
京都市寺町通二條下ル	若林茂一郎
京都市河原町通	大黒屋書店

新刊發兌書目錄

東京帝國大學醫科大學助教醫學士 橋本節齋補

愛氏新內科書

全七册 第二版

●卷一傳染病編上下二册各册正價金壹圓貳拾錢郵稅金八錢
 ●卷二血行及呼吸器病編正價金壹圓貳拾錢郵稅金八錢
 ●卷三消化器病編正價金壹圓貳拾錢郵稅金八錢
 ●卷四神經病編正價金壹圓貳拾錢郵稅金八錢
 ●卷五全身病編正價金壹圓貳拾錢郵稅金八錢
 ●卷六泌尿生殖器病編正價金壹圓貳拾錢郵稅金八錢
 ●卷七皮膚病編正價金壹圓貳拾錢郵稅金八錢
 今茲ニアイヒホルスト氏ノ新ナル新內科書世ニ現ハレ弊舖其譯述ヲ橋本先生ニ懇請セシニ先生幸ニ之ヲ諾セラレ簡ヲ補ヒ繁ヲ刪リ記事段落ノ區別ヲ明カニシテ一目了然ノ下要點ヲ撰ルニ易カラシメ加フルニ自家ノ經驗及本邦特有ノ事實ヲ以テセラレ安ニ增訂第一版發行全部完成ス請フ一讀ノ榮ヲ賜ハランコトナ

東京帝國大學醫科大學助教醫學士 橋本節齋著

增訂近世內科全書

全一册

本書再版ハ未ダ一星霜ヲ閱セズシテ汎ク諸君ノ歡迎愛讀シ盡シ賜フ所トナリ茲ニ第三版ヲ編成スルノ盛運ニ會セリ是レ豈ニ獨リ弊堂ノ幸福ノミナランヤ此際著者ハ斯學ノ風潮ニ準センコトヲ期シ再版ニ於テ贅冗ニ流ル、モノハ之ヲ省畧シ又不足ニ終ルモノハ之ヲ補充シ「テング」熱ノ一項ヲ編入シ處方例ノ數十種ヲ増補シタリ加之陳舊ナル圖譜ヲ撤去シ斬新適切ナル自驗ノモノヲ増補シ就中美麗鮮明ナル別紙圖ヲ挿加シ茲ニ愈々大ニ見ル可キノ一頁書トナレリ

醫學士 谷口吉太郎纂著

小成內科各論

全一册 第二版

所載新新、文辭明晰ニシテ粗ナラズ實ニシテ華ナクズ能ク內科學ノ真相ヲ記述セルモノ實ニ此書ノ眞價ナリ殊ニ受験講習用トシテハ世間多ク其比ヲ見サルナリ

四六判洋裝本綴
 正價 金壹圓貳拾錢
 郵稅 金八錢

菊判洋裝假綴
 正價 金八圓五拾五錢
 郵稅 金七圓五拾五錢

菊判洋裝本綴
 正價 金參圓參拾錢
 小包料 四圓

陸軍々醫監 足立 寛校閱 陸軍二等軍醫 齋藤芳三郎編著

詳約内科各論

全一册

菊判洋裝假綴
正價 金壹圓七拾錢
郵稅 金拾六錢

本書ハ「アイヒホルスト」氏「ストリユムメル」氏「ベルツ」氏等ノ内科書其他方今世ニ稱揚セラレ、所ノモノ數種ヲ參照編述セシモノニシテ實地家ノ參考ニ供シテ裨益アルノミナラス醫術開業受驗ノ資料ニハ最モ適切ノ頁書ナリ

内科診斷學

全一册 第二版

菊判洋裝假綴
正價 金貳圓參拾錢
郵稅 金拾六錢

此ノ第二版ハ前版ニ改訂ヲ施シ多クノ精圖ヲ增加シタバカリテナク特ニ顯微鏡用法ノ一編ヲ加ヘテ其構造、使用法ヨリ染色液製法、標本製造法ニ至ルマテ荷クモ臨牀上必要ノ事項ハ細大漏レナク詳ニ記載シテアリマスカラ初心ノ方デモ此編ヲ一讀ナサレハ直チニ顯微鏡的検査ヲ行フ事ガテマス何卒細ク御購讀ヲ願ヒマス

醫學士 佐藤佐枝校閱 寺尾國平纂著

内科類症鑑別

全一册 第十一版

菊判洋裝本綴
正價 金貳圓五拾錢
小包 料四角五分

創刊以來杏林界ニ非常ノ好評ヲ博シタル本書ハ今復タ第十一版ヲ刊行スルニ當リ昔ニ新版ノ「メーリン」氏ノ「氏内科學」ロイ「氏内科學」ロイ「氏内科診斷各論」キ「エーネマン」氏ノ「氏實用内科診斷學」等ヲ參照シテ通編悉ク改作シタルノミナラス就中消化器病、編神經系病編ニ至リテハ最新版ノ「ホアース」氏ノ「氏胃腸病論」オツ「ハイム」氏ノ「氏神經系病論」等ヲ引出シタルニバ其記事ノ豐富ニシテ詳密ナル恐ラク他ニ比類ナクシ加フルニ數多ノ斬新ナル精圖ハ錦上更ニ花ヲ添フルノ趣アリ

醫學士 伊勢錠五郎譯述

費氏診斷學

全四册

菊判洋裝假綴
各册正價 金六拾五錢
各册郵稅 金六錢

有名ナル「ファイル」博士ノ最新出版診斷法ヲ譯述セルモノニシテ插圖ノ精緻文章ノ流暢ナル能ク其真意ヲ了解シ遺憾ナカラシム原書ト共ニ近年無比ノ好册子ナリ

ドクトル 小島浦三郎 一江錠太郎共譯

顯微鏡的臨牀診斷學

全一册

菊判洋裝本綴
正價 金壹圓八拾錢
郵稅 金拾四錢

獨逸國萊佛大學教授レンハルト博士ノ原書ヲ譯述セラレタルモノ其聲價名聞當世ニ籍甚ナリ其實地醫家ヲ裨益スル近刊書中多ク其比ヲ見ザルベシ

醫學士 平原元義纂譯

内科臨牀錦囊

全一册

袖珍洋裝本綴
正價 金壹圓拾錢
郵稅 金六錢

本書ハ獨逸國「ドクトル」氏ノ著作ニ基ツキ纂譯セルモノナリ、重要ナル各病ノ原因、症候、診斷、豫後、療法ヲ簡明平易ニ説述シ、殊ニ診察法及ヒ治療法ノ如キハ轉近彼國醫海ニ行ナル、所ノ新法ヲ網羅シ、且ツ療法ノ下ニ斬新ナル處方例ヲ列舉シタルハ一目ノ下ニ藥方ヲ處スルニ便ナリ

醫學博士 佐々木政吉 俶校閱 醫學士 舟岡英之助纂著

新撰電氣療法

全一册 第二版

菊判洋裝本綴
正價 金壹圓參拾錢
郵稅 金八錢

初メニ各種ノ電氣器械、次ニハ電氣診斷學終リニハ電氣療法ノ總論及之ヲ百般ノ疾患ニ應用スル各論ヲ記述シ凡ソ醫學上電氣應用ノ新成績ヲ網羅セルノミナラス加フルニ著者先生ガ集鴨院病其他ニ於テ得ラレタル經驗ヲ以テシ此科目ニ於ケル空前ノ好著ナリ

醫學士 賀屋隆吉譯

脚氣論

全一册 第二版

菊判洋裝假綴
正價 金九拾錢
郵稅 金六錢

久シク我國ニアリ我國ノ風土習俗ヲ詳カニセル「シヨイベ」氏ノ原著ニシテ賀屋學士ノ意譯セラレタルモノ其原因ヲ搜リ治療ヲ施スニ尤モ適切ナリトノ評ナリ

寺尾國平譯述

袖珍治療寶函

全五册

菊中截洋裝假綴
各册正價 金參拾錢
各册郵稅 金四錢

先生ノ治術ニ巧ミナル其實驗スル處ヲ以テ之ヲ其ニ書著ス内科類症鑑別ト共ニ世ニ行ハル其原書ニ依ルモノハ一々參考ニ資スルニアリ亦々治療家ノ好伴ナリ

醫學博士 北里柴三郎口述 ドクトル 中川愛咲編纂
傳染病研究講義 卷ノ一
菊判洋裝假綴 正價金壹圓八拾錢 郵稅金拾貳錢

陸軍々醫總監男爵 石黒忠憲題辭 陸軍一軍軍醫 岡隆太郎纂著
陸軍々醫監正五位 足立 寛序文
菊判洋裝假綴 正價金六拾錢 郵稅金八拾錢

通俗看病学 全一册 第二版
菊判洋裝假綴 正價金壹圓四拾錢 郵稅金拾貳錢

傳染病療法大全 全三册
菊判洋裝假綴 正價金壹圓四拾錢 郵稅金拾貳錢

新纂兒科學 全一册
菊判洋裝假綴 正價金壹圓四拾錢 郵稅金拾貳錢

本書ハ著者ガ汎ク歐洲諸大家ノ著書ヲ涉臘シ取捨折衷シテ作成シタル好著ニシテ其載スル所繁ニ失セス簡ニ編セス能ク小兒科學ノ要領ヲ盡クシタルコト未タ多ク其比ヲ見サル處ナリ乞フ江湖ノ諸彦幸ニ一本ヲ購ヒ以テ幣堂ノ言ノ誣ナラサルコトヲ知リ賜ハラントナ

陸軍三軍軍醫正 荒井多門 陸軍一軍軍醫 岡 隆太郎纂譯
外科 衆 技 全一册
菊判洋裝假綴 正價金壹圓四拾錢 郵稅金拾貳錢

醫學士 田代義德譯述
智兒曼斯氏外科各論 全七册 第四版
菊判洋裝假綴 正價金壹圓四拾錢 郵稅金拾貳錢

醫學士 田代義德譯述
智兒曼斯氏外科總論 全三册
菊判洋裝假綴 正價金壹圓四拾錢 郵稅金拾貳錢

醫學士 田代義德譯述
外科 手術 篇 全一册 第四版
菊判洋裝假綴 正價金壹圓四拾錢 郵稅金拾貳錢

發行以來非常ノ好評ヲ博シタル本書ハ已ニ第三版ヲ販了シ久シク品切ノ所今般更ニ又先生ノ實驗ト精密ナル圖畫トヲ增加シ茲ニ改訂第四版ヲ發行シ讀者諸君ノ渴望ニ應セントス請フ陸續購讀ノ榮ヲ賜ハラントナ

醫學士 岡田和一郎 醫學士 田代義德譯

外科手術關鍵

此書ハ外科専門ノ兩先生ガ有名ナル「エスマルヒ」氏外科手術書ヲ譯セラレシモノニシテ、現今進歩ノ時ニ當リ、實地家諸君ノ應用ニ適シ、醫學者諸君ノ好資料タルニ背カザルナリ

醫學士 岡田和一郎 醫學士 田代義德譯

外科手術關鍵續篇

此書ハ前編ニ續ケタルヲ補ヒ、手術治療ヲ蒐集網羅シ、圖畫五百數十箇ヲ挿入シ、説明簡潔、前編ト相須テ、軍醫諸君ハ勿論、一般治療家ニ欲ク可カラザル頁書ナリ

陸軍々醫監 足立寛譯

柴氏軍陣外科學

學才共ニ豐富殊ニ實驗ニ富メル足立先生ガ「カザイテル」氏ノ新著ヲ譯述セラレシモノニシテ、其軍人療法ニ親切懇到ニシテ、衛生ニ意ヲ用ヒラル、ノ周密ナルヲ窺フニ足ルベク、軍醫諸君ニ必要ナルノミナラズ、軍人ノ一讀スベキ好著書ナリ

陸軍二等軍醫正醫學博士 保利真直譯

小眼科學

此書ハ博士在獨ノ際親交セラレタル柏林大學教授「シレッタス」氏ノ原著ニシテ、簡潔明瞭、眼科全般ノ大綱ヲ學ケテ其細目悉ク張リ、斯學無比ノ其諸君本タリ、博士特ニ原著者ノ依拠ニ由リ、之ヲ譯補シテ、所期ノ小眼科學ニ充テラレ、今ヤ發刊ノ幸運ニ逢ヘリ、亦我醫學ノ分野ニ一明星ヲ添ヘタルモノト云フベキナリ

醫學博士 柳順治郎譯

產科精義

菊判洋裝本 假綴 正價金壹圓參拾錢 郵稅金八錢

有名ナル獨逸國「ギョッテンゲン」大學產科教授「ルンゲ」氏ニ親交セラレタル柳先生ノ譯述セラル、者ナレバ、原著ノ真味捕ス可ク、所說明確ニシテ、實地應用ニ資スル誠ニ鮮妙ラザルナリ

東京帝國大學醫科大學教授醫學博士 下山順一郎 校閱
海軍藥劑學士 鹿野猪太郎譯述

藥品製鍊法

藥學ノ最新備ハレリト雖モ、實際上最重要ナル藥品製鍊ヲ指導スル成書ニ至テハ、未ダ嘗テ世ニ現ハレズ、今ヤ此書ハ重要藥品ノ製鍊法及其化學的機轉、製出品ノ性状、試驗、貯法、實地製鍊上ノ例タル算法ヲ詳説シテ、遺憾ナク、始メテ藥學界積年ノ缺乏ヲ補ヒ得タル無比ノ良書ナリ

東京帝國大學教授藥學博士 下山順一郎 校閱
藥學士 大島太郎纂譯

化學新藥篇

近世新藥ノ世ニ出ツルモノ、日ニ月ニ駁々已マズ、下山博士ノ名著製藥化學ノ一書ハ、藥學教授課ノ正本タルヲ以テ、應用未ダ久シカラザル多數ノ新藥ヲ收載シ、盡クスコト能ハズ、依テ大島先生ハ、下山博士ノ勳獎ニ基キ、別ニ新藥百數十品ヲ網羅シ、製藥化學ノ體例ニ倣テ、其來歴製法、性状、檢査法ヲ細論シ、加フルニ各藥ノ醫治效用及處方例ヲ以テシ、新藥研究ノ津筏トナセリ、今般刊成リ、發行ス

醫學士 伊勢錠五郎譯補

集成藥物學

●卷一、二、三、四各冊正價金七拾錢、各冊郵稅金六錢 ●卷五正價金九拾錢、郵稅金八錢
本書刊行以來好評ヲ博シ、版ヲ重メ、ルコト四回、畢竟本書ノ體裁簡宜シキヲ得、購讀者ニ満足ヲ與フルノ致ス所ナリ

海軍大藥劑官藥學士 小山哉 醫學士 柴田長道譯述

毒物學

菊判洋裝本 假綴 正價金九拾錢 郵稅金六錢

醫學上化學上醫學上ニ尤モ必要ニシテ世間其書ニ乏キナ概シテ譯述セラレシ者斯學講究上ニ有益ナルハ購讀諸彦ノ普ク了知セラ
ル所ナリ

陸軍軍醫監醫學博士 小池正直 醫學博士 森林太郎合撰

衛生新編

全一册 第二版

菊判洋裝本綴
正價 金貳圓九拾錢
郵稅 金貳拾錢

人生ノ最大必要ハ衛生ノ法ニアリ幸福之ニ因テ得ベク富貴之ニ由テ得ベク國家ノ富強亦タ之ニ因ラズンバアラズ此書ノ衛生學ニ於
ケル詳密精緻亦タ餘蘊ナシ志學ノ士購フ然讀詠味セヨ

全一册

衛生教育論

全一册

菊判洋裝假綴
正價 金五拾錢
郵稅 金六拾錢

本書ハ教育者カ衛生思想ノ喚起ニ冷淡ナルヲ慨シ學校衛生ノ普及發達センコトヲ切望スルノ餘瀝ニ出テタル著述ナレハ學事關係者
ハ勿論師範學校生徒、小學校教員市町村長諸君ハ幸ニ一讀ノ榮ヲ賜ハラントナ

胎生學

全一册 第二版

菊判洋裝假綴
正價 金八拾錢
郵稅 金六拾錢

抑モ胎生學ハ解剖生理病理及産科諸學ノ共同基礎ニシテ醫科ト理科トヲ聯結スル至大ノ連鎖タリ醫家醫學生諸彦ハ勿論理科諸學ノ
講授研習ニ從事スル諸君或ハ産科産婆ヲ業トセラルト人々ハ速ニ此新書ヲ購ヒ學者多年ノ遺憾タリシ非架ノ空位ヲ補ハンコトヲ冀
フ

醫學士 寺田織尾校閱 文部省檢定師範學校教員醫學士 佐藤信直編纂

普通學校衛生學

全一册

菊判洋裝假綴
正價 金五拾錢
郵稅 金六拾錢

本書ハ教育及衛生ノ原則ニ基キ文部現行ノ法令ニ遵ヒ學校衛生ノ原理及施行法ヲ論シ加フルニ法令ノ明文及解釋ヲ以テシテ讀直チ
ニ學校衛生法ノ大意ヲ知ラシムノ好著ナリ教育家諸彦ハ勿論官公吏員ヲ始メ尙モ教育ノ重任ヲ分擔セララル、諸君ハ速ニ講讀ノ榮ヲ
賜ハラントナセヨ

醫學士 筒井八百珠編纂

臨牀醫學

全一册 第十四版

珍袖洋裝本綴
正價 金壹圓六拾錢
郵稅 金六拾錢

本書ハ先生歸朝後未タ二歳ナラザルニ再度改版セラレシモノニシテ其道同改正ノ主ナル點ハ獨逸國柏林大學ノ處方及醫事衛生ニ關
スル法令ノ追加並ニ現今世上ニ噴々タル彼「マラリヤ」原蟲ノ彩色畫數葉ヲ増添セル等ニシテ各項ノ下ニ於ケル加除ノ如キハ茲ニ煩
弊スル克ハズ先ツ速ニ一本ヲ購フテ高覽ヲ垂レ賜ヘト云爾

解剖生理及衛生

全一册 第三版

菊判洋裝本綴
正價 金壹圓五拾錢
郵稅 金拾錢

本書ハ醫學士ガ中級程度ノ其學校ニ於テ講讀セララル、所ノ講本ヲ骨子トシ之ニ増補改訂ヲ加ヘテ發行セラレタルモノニシテ
中收ムル所ハ解剖生理學ノ大要及衣食住其他學校衛生ニ關スル事項法令等ヲ蒐集シ各箇器官ニ就テ論述シ更ニ大澤博士ノ校閱ヲ
經テ發兌シタルモノナリ

血液病理學

全一册

菊判洋裝本綴
正價 金壹圓廿五錢
郵稅 金八錢

本書ハ獨逸下クトル、リッカード、シマルツ近著血液病理學及血液諸病ト題スル小冊子ヲ全譯セルモノニシテ所說新該博且彼邦諸
大家ノ實驗若クハ意見ヲ細大悉ク網羅セリ故ニ本書ハ血液病理ニ通曉シ且血液諸病ノ本體並治療法ヲ研究セントスルニ喫緊至要
ノ一大良書ナルノミナラス實ニ本邦未曾有ノ一書ト云フヘシ

耳科新書

全一册 第三版

菊判洋裝本綴
正價 金壹圓六拾錢
郵稅 金拾錢

譯文平易ニシテ編纂該博能ク耳科一般ノ治術ヲ網羅シテ亦タ遺憾ナシ耳科書中三版ニ及ブモノ獨リ此書アルノミ

吃匡正法

全一册 第二版

袖珍洋裝假綴
正價 金貳拾錢
郵稅 金拾錢

簡ニシテ意通ストハ此書ノ謂ナリとしリテ患フル者ノ宜シク一讀スベキ價值アルヲ疑ハズ

醫學博士 三浦守治述

脚氣治療法

博士ノ脚氣之病理ト相須テ近來亦々得易カラザルノ好著書ナリ

醫學博士 三浦守治述

脚氣之病理 第一

全一册

菊判洋裝假綴
正價金五拾錢
郵稅金八拾錢

醫學博士 三浦守治述

脚氣之病理 第二

全一册

菊判洋裝假綴
正價金六拾錢
郵稅金八拾錢

醫學博士 三浦守治述

脚氣之病理 第三

全一册

菊判洋裝假綴
正價金六拾錢
郵稅金八拾錢

胃病新治療編

全一册

菊判洋裝假綴
正價金六拾錢
郵稅金八拾錢

獨逸國ウエルツブルク大學教授ドクトル ストール 著
東京帝國大學醫科大學教授醫學博士 大澤岳太郎 譯述

組織學講本

全二册

菊判洋裝假綴
正價金壹圓四拾錢
郵稅金八拾錢

此書ヤ始メニ組織學講究ノ基本タル顯微鏡ノ使用、標品ノ調製保存等最モ實際ニ適切ナル諸項ヲ以テ其端ヲ開キ次ニハ身體各器官ノ組織ヲ逐條論述シ最後ニミクロトームノ使用法、バラフヒーンノ包埋法等必須ノ研究方法ヲ詳説シ其記載親切簡明實地ノ指導ト講習ノ記憶トニ併テ適スル無上ノ良編ナリ

醫學博士 村田光顯 陸軍一等軍醫 岡隆太郎纂著

外科醫典

全二册

菊判洋裝假綴
正價金壹圓四拾錢
郵稅金八拾錢

本書之特色(一)各册紙數八百餘頁圖畫六百餘幅有スル新外科書ナリ(二)空前ノ袖珍書ニシテ優ニ机上ヲ裝飾スルニ足ルノ美裝也(三)諸多ノ成書ト著者平素ノ實驗トヲ參照セル實地ノ著書ナリ(四)各册悉ク六號活字ヲ以テ印刷ス故ニ他書十卷ノ内容アリ(五)圖畫ハ皆鮮明以テ事項ヲ説明ス故ニ實地ノ著書ナリ(六)紙質堅緻ニシテ非薄ナレトモ攜帶ノ便ヲ願慮シ二卷ニ製本セリ(七)綴帶器機學手術學ハ勿論水産貼用等ノ小技ヲモ網羅セリ(八)内容中コトニ日新的ノ内臟外科ノ如キハ最モ精細ニ記述セリ(九)覆願ニ供スルガ爲メ卷末ニ新舊醫藥主治用度量要覽ヲ附セリ(十)購讀者殊ニ便ナラシメンガ爲メ極テ其價ヲ廉ニセリ

新處方一萬集

全一册 第二版

菊判洋裝假綴
正價金壹圓參拾錢
郵稅金八拾錢

本書ハ總紙數(四六半載)二千二百數十頁、處方ノ數ハ一萬一千方、病類ハ十五編ニ分チ諸病ノ數實ニ二千項ニ及ヒ殊ニ和漢ノ病名ヲ附記シ搜索ニ便ナラシメタル至便ノ秘書ニシテ皇漢醫家、藥劑家ノ座右ニ缺ク可ラザル者ト信ス今更ニ新舊醫藥主治用度量要覽ヲ添加シ第二版ヲ發行セリ

醫學士 山田董 醫學士 谷口吉太郎譯述

生理學粹

全壹册

菊判洋裝假綴
正價金壹圓八拾錢
郵稅金拾貳錢

講習備忘ノ書篇ニ貴ム所ハ成ルヘク簡潔ノ文字ヲ以テ成ルヘク多數ノ要項ヲ網羅スルニ在リ、本書ハ最モ此點ニ於テ成功セル最新トキハ其生理學ニシテ其原書(先克氏著)ハ既ニ我醫科大學ノ參考書タリ、從合他ノ生理學書ヲ講究スルノ士ト雖モ併セテ本書ヲ讀ムクニ欲セラル、諸君ハ幸ニ購讀ノ榮ヲ賜ハラシテコトナシ

陸軍一等藥劑官 恩田重信編

日本藥局方全集

全一册

菊判洋裝假綴
正價金六拾錢
郵稅金八拾錢

本書ハ改正日本藥局方ト追加日本藥局方トヲ集メテ本文トナシ各條ニ於テ藥品ノ醫治効用、用法、禁忌、處方、服量、極量等ヲ精密ニ註記セルモノナルガ故ニ下山博士ノ日本藥局方註解ト相俟テ家醫臨牀ノ好伴侶タルモノナリ

獨逸國ハイツマン原圖 市瀬忠次郎輯

內臟壓片解剖圖

此ノ圖ハ總テ著色ヨリ成リテ全身動脈神經ノ大體ヲ顯ハシ内臟ニ附シテ紙片ヲ以テ各部位ヲ開キ見得ル様巧ニ製セラレシモノナレバ研究用トシテ必要ナルハ勿論論飾用トシテ亦美麗ナル故醫學ニ志アル者一帙ヲ備ヘラレバ其便益實ニ多大ナルベシ本圖暫ク品切ノ處今同出來ス陸續御購來アラフコトヲ

醫學士 田村化三郎述

組織學講義

全一册

菊判洋裝假綴 正價金八拾錢

著述ノ要ハ讀者チシテ了解シ易ラシムルニ在リ、然レニ過クハ其要ヲ得ス簡ニ失スレバ其意ヲ逸ス、況ヤ難解ノ科學書ニ於テオヤ、著者茲ニ見ル所アリテ本書ヲ著シ、諸君ノ體裁ニ則リテ説明ヲ平易ニシ、且ニ足ラサル所ハ鮮明ノ圖畫ヲ以テ之ヲ補フ、故ニ一タビ此書ヲ讀カバ坦途ヲ行クノ思ヒ起シテ組織學ハ難學科ニアラサルヲ知ルニ至ルベシ

醫學士 佐藤佐枝補 平野治譯述

臨牀診斷法

全五册

菊判洋裝假綴 正價金四拾五拾錢

●卷ノ一金八拾錢郵稅金八錢 ●卷ノ二金九拾五錢郵稅金八錢 ●卷ノ三金壹圓拾錢郵稅金八錢 ●卷ノ四金九拾五錢郵稅金八錢 ●卷ノ五金七拾錢郵稅金八錢

東京帝國大學醫科大學教授藥學博士 下山順一郎著

訂正日本藥局方註解

全二册

菊判洋裝假綴 正價金四拾錢

●明治三十四年日本藥局方追加註解合綴 ●此書ハ斯學ノ大家下山博士ガ藥局方本文ノ下各箇ノ藥品ニ就キ每條其基原、製法、性狀、成分、反應、試驗、應用、貯法ヲ分項註述シ、本文ノ意義ハ一々其理由ヲ舉ゲテ明白ニ解釋シ、各項ノ下精密ノ圖畫ヲ加ヘテ其說明ヲ補助セラレタル其書ニシテ、特トリ藥局方ノ註解タルノミナラス、製藥學全書ノ用ヲナス

藥學博士 下山順一郎校閱 藥學士 慶松勝左衛門譯述

分析實驗指導

全一册

菊判洋裝假綴 正價金四拾錢

辻岡精輔校補 村井純之助編纂

最新藥譜

全一册

袖珍洋裝本 正價金六拾錢

藥學博士 下山順一郎編纂

生藥學

全二册

菊判洋裝假綴 各册正價金壹圓貳拾五錢 各册郵稅金八錢

藥學博士 下山順一郎編纂

製藥化學

全三册

菊判洋裝假綴 正價金四拾五錢 郵稅金貳拾四錢

上卷正價金壹圓貳拾錢 ●中卷正價金壹圓參拾五錢各册郵稅金八錢 ●下卷正價金壹圓五拾錢郵稅金拾錢

藥學博士 下山順一郎編纂

藥用植物學

全一册

菊判洋裝假綴 正價金壹圓參拾錢 郵稅金八錢

樞密顧問官子爵 野村靖題 軍醫總監男爵 石黑忠惠序 宮中顧問官男爵 池田謙齋序 ドクトル 岡本敏行著

心臟病論

全一册

菊判洋裝假綴 正價金壹圓五拾錢 郵稅金不

本書ハ獨逸瑞各國ノ大學ニ於テ心臟病學ヲ專攻シ歸朝以來該病ノ專門治療ニ從事シ、アル「ドクトル」岡本先生ガ自家多年ノ實驗ニ基キ近時心臟病學ノ大家タル獨逸「フレンツェル」ローゼンバハ、ハ、ロムベ、ヒ、佛國「セー」ウシヤ、博士等ノ新說ヲ參照シテ著述セラレシモノニシテ、最モ精細ニ心臟病學ノ歴史、診斷法、預防法等ヲ說明セルノミナラス、併セテ近代學者ノ注意スル心筋ノ疾患ヲモ詳叙シ、レバ諸病治療ノ際豫後ヲトスルニ明確ナル判斷ヲ下スニ足ラシ

醫學士 丸茂文良校閱 河內龍若纂著

臨牀考 內科全書

全一册

菊判洋裝假綴 正價金壹圓七拾錢 郵稅金拾貳錢

本書著者之趣旨(一)著者若苦學ノ經驗ト其記録トヨリ成レル備忘書ナリ(二)内容ハ病理、診斷、鑑別等内科各病ニ就キ網羅シ盡セリ(三)病名ハ對稱體トナシ殊ニ搜索ノ便易ヲ以テ主トス(四)價廉價便トハ勿論臨牀ト復習トニ缺ク可ラザル良書ナリ(五)内科學ニ關スル有名ナル諸書ヲ悉ク參考シ記憶ノ便ヲ盡セリ(六)實地ノ指導ト受驗ノ準備トニ最良ノ好指南車ナリ
醫學博士 栗本東明纂著

最新治療法

全一册

袖珍本 綴裝美
正價 金壹圓貳拾錢
郵稅 金六錢

附屬器療法及血清療法

本書著者ガ多年歐洲ニ在リテ實驗セラレタル新治療法及「ヘトール」注射療法、狂犬病豫防注射法ヨリ最新藥ノ用量及ヒ應用實驗等ヲ網羅シ殆ト剩ス處ナキ最新ノ良書ナリ

埃國維也納大學外科學教授 Dr. Otto Zuckerkandl 原著
日本醫學士 成宮禮一 譯述

外科手術圖譜

全一册

四六判 洋裝美本
正價 金拾六錢
郵稅 金四錢

本書ハ埃國ノ外科學家ツツケルカンドル氏ノ原選、我成宮先生ノ譯述ニ成リ、全書ノ結構ハ簡易明瞭ナル外科手術ノ記述ヲ以テ骨子トナシ、首メニ總論トシテ組織ノ離斷ト接合トヲ概説シ、次ニ四肢頭部頸部軀幹及骨盤ノ三編ニ大別シテ各區域ニ於ケル手術式ヲ網羅シ、本文中貳百七十八箇ノ精圖著色圖表四十葉トヲ挿入シ、其局部ノ現象、其術手ノ活動、殆ト本文ノ説明ヲ無用ナラシメ神往キ手隨フノ想アラシム、外科手術ノ學タル文章晦澁ナル實地上殆ト手ヲ下ガスニ由ナク、甚ダシキハ一曳一刺ノ誤リ不測ノ危害ヲ願スニ至ル、豈僅レテ戒シメザル可ケンヤ、此ノ書行文ノ明瞭ニ伴フニ圖畫ノ精妙ヲ以テ殊ニ初心者ヲ指導スルニ於テ周到ノ用意ヲ悉セリ

東京帝國大學醫學科大學助教授醫學士 今村保 共著
東京帝國大學醫學科大學助學士 北豐吉 共著

微生物學講義

全二册

菊判 洋裝假綴
各册正價 金壹圓四拾錢
各册郵稅 金拾錢

其記述ノ秩序ノナル其所說ノ斬新ナル其挿圖ノ巧緻ニシテ鮮明ナル皆本書ノ特色トスル所初學者ニハ最モ適切ナル講習書タルベク既ニ斯學ヲ親ヘルモノニハ其最近ノ學說ト技術トヲ領スルニ於テ又無二ノ好同伴タルベシ

東京帝國大學醫學科大學助教授醫學博士 木下正中著

產婆學講義

全二册

菊判 洋裝本綴
各册正價 金壹圓六拾錢
各册郵稅 金拾錢

本書ハ能ク此學科ノ性質ニ應ジテ言々句々實際ニ適切ナラザルモノナキヲ期シ、臨牀ノ處置、救急ノ手段、皆嚴正ノ學理ニ根據シテ爾カモ單簡行ヒ易キ方法ヲ述べ、文章平易、字句流暢、稍々難解ノ點ニハ音訓解釋併セ施シ、拾モ口ヲ以テ授ケテ以テ導クニ異ナラザルノ良書ナリ、此書一トシテ世ニ行ハル、ヤ助産ノ術復タ醫學進歩ノ大潮流ニ後ル、ハ恐ナキヤ必セリ、敝館之レヲ發兌スルノ光榮ヲ荷フニ謹テ助産婦諸姉刀圭諸大家ニ拜告ス

有終會翻譯及編纂

對照武氏婦人科學

全一册

菊判 洋裝假綴
各册正價 金五拾五錢
各册郵稅 金四錢

本書ハ醫館獨得ノ出版物ニシテ其目的トスル所ハ獨逸原文ノ醫學書ヲ譯讀シテ斯學ノ研究ニ從事セントスルノ士ニ便セントスルニアリテ毎頁上段ニ原文ヲ記載シ下段ニ之レガ譯文ヲ掲ゲ毎頁必ス之ヲ譯了シ其餘白ニハ原文中ノ難句ヲ周到綿密ニ解釋シテ文法上ノ誤リヲ加ヘタルガ如キ其編纂趣向ノ斬新ニシテ叮嚀親切ナル多ク、他ニ類例ヲ見ザル所ナリ、醫學ノ士ハ一木ヲ座右ニ備フレバ裨益スル所蓋シ鮮少ナラザルベシ今ヤ刻成ルヲ告グ幸ニ諸賢ノ閱讀ヲ玉ハランコトヲ伏シテ希フ所ナリ

醫學士 平山松治編纂

日本藥局方追加註釋

全一册

菊判 洋裝假綴
正價 金參拾錢
郵稅 金四錢

醫學士 長谷川順治郎 醫學士 馬島永徳校閱 村山熊次編纂

醫術問題後期答案全集

全一册

四六判 洋裝假綴
正價 金九拾錢
郵稅 金貳錢

本書ハ明治十七年ヨリ三十六年第一回ニ至ルマデノ試驗問題ヲ蒐集シ悉ク懇切ナル答案ヲ附シタルモノニシテ版ヲ改ムルト共ニ益々江湖ノ歡迎スル所トナリ今ヤ第六版ヲ刊行スルニ至レリ、編者ガ最モ苦心參酌セシハ試驗時間ト答案ノ程度トニアリ、若シ夫レ本書ヲ執過ノ友トナサバ受驗ノ際其便益ヲ感スルコト從來ノ答案集ト同一ノ比ニ非ザル可シ

醫學科大學助教授醫學士 今村保校閱 醫師 池田鐵之助著

最近學校衛生學

全一册

四六判 洋裝本綴
正價 金五拾錢
郵稅 金四錢

本書ハ内外諸家最近ノ學說ヲ參酌シテ彼ニ偏セズ是ニ類セズ專ラ我國ノ狀態ニ適切ナラシメン爲メ簡要チ旨トシテ編述シ醫科大學衛生學助教今村學士ノ周到ナル校閱ヲ經タルモノナルヲ以テ其瑕癈ナキヲ期スベシ故ニ一タビ之ヲ繕クノ士ハ健全ナル第二ノ吾人ヲ養成スルニ於テ毫モ間然スル所ナカルベシ幸ニ購讀ノ榮ヲ得バ獨リ弊舖ノ満足ノミナラザルナリ

農科大學教授 獸醫學博士 勝島仙之助校訂
石川縣立農學校校長心得 獸醫學士 山下 盛治編纂
元石川縣立農學校教諭農商務省農務局技手 宇野 家治編纂

家畜寄生動物學

全二册 上 卷

菊判 洋裝本
正價 金壹圓參拾五錢
郵稅 金拾

本書ハ各府縣立農學校獸醫科及講習所ニ於テ教科用トナスノ側ラ醫師、警察獸醫、開業獸醫、並ニ牧畜家諸士ノ參考ニ供センガ爲メ著者多年ノ苦心ニヨリ編纂セラレ斯學ノ泰斗勝島博士ノ嚴密ナル校訂ヲ經タルモノニシテ之ヲ總論及各論ニ分チ總論ニアリテハ一般寄生動物ニ關スル組織、特性、發育法、症候、診斷法、傳播ニ關スル條件、豫後、治療法、豫防法等ヲ細論シ各論ニ於テハ先ツ內寄生及外寄生ノ二編ニ大別シ各編更ニ門、綱、目、小目ヲ設ケテ以テ諸種ノ寄生蟲ニ就キ其分類法ヲ明ラカニシタルノミナラズ形狀、發見史、宿主發育法、患畜、症候、剖檢、經過、鑑別、治療及豫防法等概テ順序ヲ踐テ歷載ス而シテ所說ノ斬新ナルハ勿論行文平易一ノ澁滯ナク頗ル誦讀記憶ニ便ナリ

醫學士 筒井八百珠纂著

皮膚病學

全一册 第三版

菊判 洋裝本
正價 金壹圓八拾錢
郵稅 金拾四錢

先生多年皮膚病學ヲ專攻セラレ夙ニ斯界ニ盛名アリ本書ハ其歐遊後改訂ノ筆ヲ採ラレシモノニシテ幾多斬新ノ學說ヲ加ヘ幾箇ノ稀有ナル疾病及療法並ニ鮮麗ナル色彩畫ヲ添加セラレタルヲ以テ殆ント第二版ノ面目ヲ更新セリ

醫學士 筒井八百珠纂著

花柳病學

全一册 第二版

菊判 洋裝本
正價 金壹圓七拾錢
郵稅 金拾貳錢

皮膚病學ト相須テ世評噴々タルモノ必竟先生多年ノ研究實驗ニ因リ此著アルヲ以テナリ其行文流暢所說明確ニシテ挿圖ノ鮮麗ナル所謂錦上添花ノ觀アリ今再版發行セリ

醫科大學教授醫學博士 緒方正規校閱
海軍大藥劑官藥學士 小山 哉譯補
醫學士 柴田長道譯補

衛生學講本

全二册 第二版

菊判 洋裝本
各册正價 金壹圓廿五錢
各册郵稅 金拾

此書原ト獨國「エナ」大學衛生學教授「ゲルト」氏ノ衛生大要ヲ譯述セラレシナンド我國ノ風土人情ニ適應センガ爲メニ本邦衛生上ノ狀況ヲ編述記入セラレシヲ以テ其便益一層ヲ加ヘタリ
內務省醫術開業試驗委員 長 足立 寬校閱
內務省醫術開業試驗委員 醫學士 牧山健吉編

生理學小識

全一册

菊判 洋裝本
正價 金壹圓五拾五錢
郵稅 金拾貳錢

生理ノ書其數少ナキニ非ズ然レトモ或ハ浩濶通讀ニ便ナラズ或ハ粗雜全豹ヲ知ルニ足ラズ此書繁簡宜シキヲ得テ世ニ益スル少カラズ生理學ニ志アルノ士ハ座右一本ヲ備フベキノ眞價アリ

實氏內科各論

全四册 卷一、三

菊判 洋裝本
各册正價 金五拾五錢
各册郵稅 金四錢

原譯對照ノ價値ハ有終會ト共ニ世間已ニ之ヲ了知セリ此書所載ノ條項簡潔精到能ク其實ヲ得タリ彼我斯學ノ講習書トシテ机邊亦タ缺クベカラザルノ一頁書ナリ

克氏外科各論

全五册 卷一、二

菊判 洋裝本
各册正價 金五拾五錢
各册郵稅 金四錢

原書ハ簡約ナル「グレイ」氏ノ外科學ニシテ之ヲ對照譯述シ以テ原書ト譯文ヲ併セ學ブノ便ヲ與ヘ且ツ「クレ」氏ノ所說ヲ我刀圭社會ニ紹介スルモノ本書ノ特得ナリトス

威氏診斷學

全一册 第三版

四六二倍大假綴
正價 金壹圓八拾錢
郵稅 金拾

此レウエルネル「學士」ノ診斷書ヲ原譯對照セルモノニシテ簡明ナル實用及ビ復習用ニ適切ナルハ言テ俟タザル處ナリ
有終會翻譯及編纂

原譯 武氏細菌學

全二册

菊判洋裝假綴
各册正價 金五拾五錢
各册郵稅 金六錢

講習用トシテ尤モ便益ノ方法ヲ取り原文譯文ヲ併セ學ブニ必用ナルト最新ノ學說ヲ紹介スルニ於テ有終會特得ノ好評ヲ得タルハ識者ノ已ニ認識スル所ナリ此細菌學ニ於ケルモ亦然リ
有終會翻譯及編纂

原譯 武氏局所解剖學

全二册

菊判洋裝假綴
各册正價 金五拾五錢
各册郵稅 金六錢

粹ヲ拔キ英ヲ集メタル局所解剖學ヲ原譯對照セルモノニシテ其便益實利未ダ替テ其匹アルヲ見ザルナリ其原譯對照ニ成レルヲ以テ講習用自講用トシテ其便亦タ尠カラザルヲ見ル
有終會翻譯及編纂

原譯 武氏產科學

全二册

菊判洋裝假綴
各册正價 金五拾五錢
各册郵稅 金六錢

粹ヲ拔キ英ヲ集メタル產科學ヲ原譯對照セルモノニシテ原譯講習用ニハ最モ適當良書ナリ
有終會翻譯及編纂

原譯 武氏病理解剖學

全二册

菊判洋裝假綴
各册正價 金五拾五錢
各册郵稅 金六錢

簡約新ナル病理解剖學ヲ原譯對照セルモノニシテ局所解剖學ト共ニ缺クベカラザルノ良書ナリ今同下卷發行全部完成ス
醫學士 山崎元修校補 醫學士 三瀨鎌三郎三編纂

袖珍海浴示導

全一册

洋裝假綴
定價 金廿假錢
郵稅 金貳假錢

此書ハ主トシテ獨逸ドクトル「ヒルレル」氏著海浴ノ作用ト題スル冊子ニ基キ編纂セラレシモノニシテ海水浴及ビ海氣浴ニ關シ之ガ作用ヲ詳述セラレタリ

醫學士 田代義德校閱 木村銀太郎編纂

摘要外全書

全一册

菊判洋裝假綴
正價 金貳拾八錢
郵稅 金拾八錢

本書ハ簡明チ旨トシ外科學全般ノ要領ヲ知ルニ於テ缺ク可カラザルノ好著書ニシテ受験者坐右ノ好備忘錄ニ適スト云フ
醫學博士 片山國嘉譯

法醫學大成

全六册

菊判洋裝假綴
各册正價 金壹圓拾錢
各册郵稅 金六錢

奧國「ウインナ」府大學教授醫學博士「ホフマン」氏ノ原書ヲ全譯スルニ我法醫學ノ泰斗片山博士ノ手腕ヲ以テテス其遺憾ナキ知ルベキナリ其醫家法律家諸君ノ參考ニ裨益スル點少ナラザルベシ之ヲ發行スルノ榮ヲ得タルハ獨リ弊店ノ幸ノミニ非ルナリ
醫學博士 片山國嘉 醫學士 江口襄 醫學博士 榎 醫學士 吳秀三 編纂

法醫學提綱

全三册

上卷正價 金貳圓八錢
下卷正價 金貳圓
各册郵稅 金拾錢

醫學博士 片山國嘉著

精神狀態檢診錄

六册入 壹包

菊判洋裝假綴
正價 金六拾錢
郵稅 金六錢

右ハ精神狀態ノ臨床及ヒ鑑定上檢診ノ好模範ノ用本ニシテ諸病院及ヒ開業醫諸君ノ座右每ニ之ヲ存セハ臨事得益抄カラサルベシ
大阪衛生試驗所 辻岡 精輔 東京衛生試驗所 元技師 試補 村井 鍾之助 編纂
橫濱衛生試驗所 長藥學士 島田 耕一 校閱 東京衛生試驗所 技手 丸山 長四郎 編纂

驗乳法

全一册 第三版

菊判洋裝假綴
正價 金六拾錢
郵稅 金六錢

●中卷印刷中

此書ハ著者多年ノ經驗ニ基キ牛乳及乳製品ノ性質成分殊ニ検査法ヲ簡明ニ論述シ最モ實用ニ適スル良書ニシテ今回改正ノ上飲食物
取締及牛乳検査ニ關スル新法令ヲ附シテ發行セリ
醫學博士 丹波敬三編纂

新編 裁判化學

全二冊 上卷
菊判洋裝假綴
正價 金九拾五錢
郵稅 金六錢

向キニ丹波先生ノ裁判化學アリ好評當時ニ籍々タリ然レトモ其一卷ニ止リ講學者ノ懇望ヲ充タス能ハズ今ヤ新ニ此著アリ之ガ完成
チ期スルノ日ハ相待テ其便益益シ多カラシ
東京帝國大學醫科大學教授藥學博士 丹波敬三校閱
海軍大藥劑士 藥學士 和氣達清譯述

生理病實用醫化學

全一冊
菊判洋裝假綴
正價 金壹圓貳拾錢
郵稅 金六錢

右ハ一般分析法概畧ヲ始メ醫學上關係アル諸般ノ化學的検査法ヲ網羅シ試驗管ヲ把リ試藥ヲ注キ實地上直チニ之ヲ實行シ得ベキ様
直截明白ニ論述セル空前ノ良書ニシテ醫藥藥劑家ノ好津筏タルモノナリ
醫學士 川村正治 宮地良治纂譯

羅獨和譯醫學字典

全一冊 第五版
四六裝洋裝本綴
定價 金貳圓五拾錢
郵稅 金拾錢

醫學字典ノ巨冊ニシテ需用者ノ多キ此書ノ右ニ出ルモノナシ以テ此書ノ價值如何ヲトスヘキ也
醫學博士 坪井次郎著

微菌學新書

全二冊 上卷
菊版洋裝假綴
正價 金七拾五錢
郵稅 金六錢

本書ハ坪井先生カ深遠ノ學識ヲ以テ積年ノ實驗ニ徴シ著述セラレタル者ニシテ所說斬新精確ヲ極メ然カモ最モ實修ニ適切スルノ點
ニ就テハ敢テ喋々ヲ要セス又本邦諸家ノ業績發見等ヲ網羅シテ餘スコトナキカ故ニ眞ニ日本固有ノ微菌學ナリ
須田勝三郎校閱 鈴木彦馬編纂

化學工藝寶鑒

全一冊 第三版
四六判洋裝本綴
正價 金六拾五錢
郵稅 金拾錢

天地間ノ森羅萬象大抵化學的作用ニ成ラザルナシ唯人々個々其志趣ニ乏シク之ガ研究ヲ加ヘザルノミ鈴木氏茲ニ慨スル處アリ此書
ヲ著シ以テ工藝上ニ關スル化學應用ヲ指導セラントス世ノ製作事業ニ志アル諸士宜數一讀スベキ價値アルモノナリ
小貫邦義編纂

試驗問題前期答案集

全二冊 第十版
四六判洋裝假綴
正價 金拾四錢
郵稅 金拾錢

本書ハ明治十七年ヨリ明治三十五年第二回ニ至ルマテノ試驗問題ヲ蒐集シ一々之ガ答案ヲ附シ受験者ノ津筏タラシメント期圖スル
モノナリ
醫學博士 青山胤通校閱 醫學士 保利聯 醫學士 舟岡英之助譯述

斯氏內科全書

全六冊
菊判洋裝假綴
五冊 出版

●卷一傳染病及呼吸機病論正價金壹圓拾五錢郵稅金六錢 ●卷二呼吸器病論正價金壹圓拾五錢郵稅金拾錢 ●卷三消化器疾
●患論正價金壹圓拾五錢郵稅金八錢 ●卷四神經系統疾患論正價金壹圓拾五錢郵稅金拾錢 ●卷五泌尿器病運動機病 血液及
代謝機病論重要ナル中毒症ノ通覽正價金壹圓五拾錢郵稅金八錢

日本產科叢書

全一冊
菊版洋裝本綴
正價 金貳圓五拾錢
最目 三百七十文

醫學士 增田知正 富士川游 醫學士 吳秀三選集校定

產婆學講本

全一冊 第四版
菊判洋裝假綴
正價 金拾四錢
郵稅 金拾四錢

醫學士 千葉稔次郎校訂 高橋辰五郎著述

傍訓產婆學講本

全二冊
菊判洋裝假綴
各册正價 金壹圓廿錢
各册郵稅 金八錢

高橋先生著第四版新訂產婆學講本全部及ヒ傍訓產婆學講本全部ノ刻成ル。蓋高橋先生ノ產婆學講本ハ我國最良ノ產婆學教科書ニシテ其學說其技術共ニ全ク日本化セルモノナリ。彼ノ本ヲ以テ竹ニ接ケル直譯的書籍ト同日ニ論ズヘカラス。而シテ其文辭ノ流暢ナル說明ノ豐富ナル章句ノ體裁排列ノ極メテ整然タル讀者ヲシテ一覽既ニ其意ヲ了解セシムルニ足ル。殊ニ傍訓產婆學講本ニ至リテハ先生獨得ノ新意匠ヲ以テ章句ノ要點ヲ指示シ、實地上緊要ノ事項ト、參考ニ供ス可キ說明トハ、全然之レヲ區別シ初學者者ヲシテ之レヲ讀テ、誠ニ喜ビニ耐ヘザラシム。試驗ニ應ズルモノ、如キ、本書ヲ講學スレバ、恰モ問題答案集ヲ携ヘテ場ニ上ルガ如クナルモノアリ。世ノ產婆學生及ヒ開業產婆諸氏ハ固ヨリ論ナク、醫師諸君ヨリ一般衛生家諸氏ニ至ルマテ本書ヲ閱讀セバ、大ニ益スル所アル可キハ、本邦ノ固ク保證シ得ル所ナリ。大方ノ君子、幸ニ本書ヲ手ニシ、本書ノ妄ナラザルヲ證明セラレムコトヲ冀フ。

埃國維也納大學教授ドクトル、フランツ、ムラツエツク氏原著
日本醫學士 山田 弘倫 醫學士 旭 憲 吉共譯

毒 圖 譜 全一冊
正價 四六判 洋裝本 銀四錢
郵稅 金拾六錢

本書ハ簡明瞭潔ナル分類法ニ隨テ微毒病ノ定義、療法ヲ論述シテ新ナル微毒病學ノ梗概ヲ序述シテ眞チ奪ヒ實ニ追ルノ石版彩圖七拾餘幅ヲ拾六箇ヲ以テ各種微毒病ノ寫實的現形ヲ羅列シ各之ニ詳細ナル說明ヲ添附セルモノニシテ其標本ハ殆ト皆原著者ノ實驗採圖ニ出テ實地上無比ノ好模範タルコト論ヲ待タズ請フ一本ヲ購フテ座右ノ典トセラレンコトナリ

瑞西國チユーロヒ大學教授ドクトル、オー、ハーブ氏原著
日本醫學士 大 槻 順譯述

外眼疾患圖譜 全一冊
正價 四六判 洋裝本 銀四錢
郵稅 金拾四錢

本書ハ開卷先ツ實地醫案ニ最モ必要ナル各種ノ眼科診察法ヲ詳述シテ各病症ニ就テ逐次原因、症候、經過、豫後、鑑別、及療法ヲ特ニ實地ニ抽出シテ說明シ毎症挿ムニ自家經驗ニ係レル材料ノ圖畫ヲ以テシテ附スルニ簡單ナル病歴ヲ以テセルカ故ニ管ニ圖譜トシテ著者ノ臨床講義ニ倍スルノ感アルノミナラズ實ニ一部ノ眼科書トシテ之ヲ見ルモ敢テ他書ニ比シ遜色アラサルナリ

高橋辰五郎著

產婆學講本備忘錄 全一冊
袖珍洋裝假銀
正價 金參拾五錢
郵稅 金四錢

產婆學講本講習ニ必要ナル字解ニシテ考證嚴正理義明晰ナリ蓋シ著者ノ自ラ編纂セラル、ヲ以テ講本ト併用スベキハ言ヲ待タサルナリ

醫學士 柴田耕一 平出謙吉譯

婦人科準繩 全一冊 第三版
本級 正價 金壹圓四拾錢
假級 正價 金壹圓廿五錢
郵稅 金拾錢

婦人科學ノ泰斗、ジュールセン博士ノ著書ヲ譯シテ之ヲ我國ニ紹介セラル功驗少ナカラズ暫時ニシテ第二版ヲ販了シ増訂補正ヲ加ヘ第三版ヲ發行セリ

獨逸ニルランゲン大學 內科醫院一等醫
ドクトル、クリストフ、リット、ヤーコフ氏原著
醫學士 伊勢 錠五郎譯述

內科及診斷圖譜 全一冊 第二版
正價 四六判 洋裝本 銀四錢
郵稅 金拾四錢

本書ハ其所載狹キ專門局部ニ限ラズシテ內科全般及診斷學ノ廣範圍ニ涉リ圖表ノ精緻ヲ極メ說明ノ要領ヲ盡セルハ論ヲ俟タズ內科諸病癆診打診ノ實例圖解ニ至テハ從前曾テ其類ヲ見サル新趣向ニシテ實地醫案及後期受驗諸症ニハ頗ル有益ノ好模範タルコト疑ナクズ第一版ハ發行早々直ニ之ヲ販了シ今ヤ第二版發兌ノ幸運ニ遭セリ請フ購讀ノ榮ヲ賜ハラントナ

瑞西國チユーロヒ大學教授「ドクトル」オー、ハーブ氏原著
日本陸軍三等軍醫正 醫學博士 保利 眞直譯述

眼底圖譜 全一冊 第二版
正價 四六判 洋裝本 銀四錢
郵稅 金拾四錢

附檢眼鏡用法及檢眼鏡の診斷法摘要
本書ハ原級者「レ」氏ト持約ヲ結ビ其圖表ノ副本ヲ輸入シ斷學ノ泰斗保利博士ニ請フニ其解說ノ邦譯ト全書ノ訂正トヲ以テシテ二印刷製綴ノ功ヲ竣リ此所新壯麗ナル新書ハ刀圭家諸彦ノ案頭ニ燦然タリ書中ノ價值ハ贅飾ニ喋々セズ謹テ醫家ノ鑑精ニ任セシム

埃國維也納大學教授ドクトル「フランツ、ムラツエツク」氏原著
日本醫學士 筒井 八百珠 譯述

皮膚病圖譜 全一冊 第三版 近刻

法醫學圖譜 全一册
 明瞭簡潔ナル分類法ニ隨テ皮膚諸病ノ定義徵候法ヲ論述シテ斬新ナル皮膚病學ノ梗概ヲ序述シ而シテ其標本ハ殆ト皆原著者ノ實
 六十三木版精圖三十九ヲ以テ各種皮膚病ノ寫實的現形ヲ羅列シ各之ニ詳細ナル說明ヲ添附セル者ニシテ其標本ハ殆ト皆原著者ノ實
 驗採圖ニ出テ實地上無比ノ好模範タルコト論テ俟タザルナリ
 埃國維也納大學法醫學教授博士、片山國嘉譯述
 東京帝國大學醫科大學教授醫學博士、ホフマン原著

法醫學圖 全一册
 本編收載スル所、生殖器異常、強姦及墮胎ノ形蹟、胎兒死因ノ徵候、暴力的創傷及致命ノ實例、自殺ノ狀態、腐朽屍體ノ奇觀等寫真石版
 下着色圖表トニ論テ各々實物ヲ見ルニ異ラナラスニ血液ニ汚レントシ近ケハ奇臭ヲ嗅クカ如キノ想アリ
 獨逸グライフスワルド大學教授、ドクトル、ハ、ヘルフェリヒ氏原著
 日本 陸軍 醫學 監立 寬譯述

整骨圖說 全一册
 四六判 洋裝本綴
 正價 金拾六錢
 郵稅 金六錢

工科大学教授醫學博士 高松豐吉
醫學大學教授醫學博士 丹波敬三編纂
東京衛生試驗所長 藥學博士 田原良純

化學工業全書
 第一册再版 正價 金七拾錢 郵稅 金六錢
 第二册再版 正價 金九拾五錢 郵稅 金六錢
 第三册再版 正價 金壹圓拾錢 郵稅 金六錢
 第四册再版 正價 金壹圓拾錢 郵稅 金六錢
 第五册再版 正價 金壹圓拾錢 郵稅 金六錢
 第六册再版 正價 金壹圓拾錢 郵稅 金六錢
 第七册再版 正價 金壹圓拾錢 郵稅 金六錢
 第八册再版 正價 金壹圓拾錢 郵稅 金六錢
 第九册再版 正價 金壹圓拾錢 郵稅 金六錢
 第十册再版 正價 金壹圓拾錢 郵稅 金六錢

檢眼表彙及解說

全一帙
 正價 金壹圓參拾錢
 郵稅 金拾錢

平野治編纂
 (一) 「スチルレン」氏洋字試視力表
 (二) 「スチルレン」氏山字形試視力表
 (三) 「スチルレン」氏方角形試視力表
 (四) 「スチルレン」氏和珍形試視力表
 (五) 「スチルレン」氏和珍形試視力表
 (六) 「スチルレン」氏和珍形試視力表
 (七) 最小試視力表則チ近點試驗表

新撰視力試驗表 全一帙
 表 四枚 解 一
 郵稅 金 四拾 錢

平野治編纂
新式視力試驗法 全一帙
 定價 金貳拾五錢
 郵稅 金 貳 錢

平野治著
昆氏視力試驗表 全一帙
 正價 金貳拾五錢
 郵稅 金 貳 錢

岩波美篤編輯
醫師會法案反對始末 全一册
 菊判 洋裝 假綴
 正價 金參拾五錢
 郵稅 金 六 錢

醫學士 高橋金一郎著

ナームセシ醫則 全一册 第二版
 菊判 洋裝 假綴
 正價 金參拾錢
 郵稅 金 四 錢

本書ハ明治三十一年冬ヨリ明治三十三年春ニ互リ本邦ノ醫學ニ於テ大紛擾ヲ極メタル醫師會法案事件ノ顛末ヲ記述シタル者ナリ
 度方修正セシ法案、意見書、議會ノ速記録及新聞等ヲ悉ク採録セリ、當時ノ贊否兩派ハ勿論尙モ名ヲ帝國醫籍ニ列スル士ハ座右ニ
 一本ヲ缺クベカラザルナリ

醫學士ノ職ナリ貴重ノ人命ヲ司リ生殺ノ權ヲ掌握ス是故ニ舉止靜肅意志高尚ナラザル可カラザルヤ故ヨリ論ヲ待タズ此書ハ「ミ
 ュンヘン」府ノ碩學「ロフエツツル」チ「ムセン」ノ其譯録第一册(醫師及醫學ノ任務)ト題スル一編ヲ翻譯セシ者ニシテ醫學ノ最
 モ神聖ナル所以下醫師ノ責任トナ痛論シテ餘蘊ナシ

內務參事官法學士 窪田靜太郎 校閱 內務衛生局員 秋山宣弘編纂

衛生新纂法規全書

全一冊 第五版

四六判洋裝假綴
正價金壹圓貳拾錢

本書ハ醫學衛生ニ關スル法規ハ勿論ニ於ケル特別法等現行法令ハ悉ク蒐輯シ最モ便益ノ分類法ニ則トリ且ツ其沿革ヲ詳ニシテ用テ明カニセシモノニシテ臨時ニ選スルコトアルモノ一日ノ下釋然水解決スルヲ得ベシ斯業ニ從事スルノ士一本ヲ座右ニ備ヘテ常ニ之ヲ鑑カハ其利スル所蓋シ少ニアラザルベシ
醫學士ドクトル 日高昂著

和羅獨英醫語字典

全一冊 第二版

袖珍洋裝本
正價金四拾錢

本書ハ醫學ニ關スル本邦ノ術語ヲ羅典ニ譯シ更ニ之ヲ獨逸語若クハ英語ニ譯シタルモノニシテ第一次ニ日本語ヲ羅馬字ニテ綴リ第二次ニ漢字ヲ列シ次ニ羅獨若クハ英語ヲ以テセル其書ニシテ須臾モ座右ニ缺ク可ラサルモノナリ
平野治編纂

實用藥物學

五冊出版

菊判洋裝假綴
定價金五圓七拾五錢
量目四百五十匁

●卷ノ一定價金壹圓●郵税金六錢●卷ノ二定價金壹圓貳拾五錢●郵税金六錢●卷ノ三定價金壹圓●郵税金六錢●卷ノ四ノ上定價金壹圓九拾錢●郵税金八錢●卷ノ四ノ上定價金六拾錢●郵税金四錢
陸軍軍醫監 足立寛 醫學博士 谷口謙譯補

敏氏藥性論

全三冊

菊判洋裝假綴
各冊定價金七拾錢
各冊郵税金六錢

原書第十一版ヲ重テタル「ピンツ」氏ノ藥性論ニ日本藥局法獨逸藥局法ヲ參酌セラレ簡宜シキニ適セル該書ヲ編纂セラル、モノナリ
足立寛訂正 北川立平 白松徹同纂

醫寶十表

全一冊

袖珍洋裝假綴
定價金參拾五錢

中村重治纂著

梅毒治療新論

全一冊 第二版

四六判洋裝假綴
正價金五拾錢

三尾惠北著

後期醫學記憶之秘訣

全一冊

袖珍洋裝假綴
正價金拾五錢

秋山宣弘編

醫籍藥劑師名簿編成訂正規程

全一冊

袖珍洋裝假綴
正價金貳拾錢

衆議院議員 佐々友房著

戰袍日記

全一冊

菊判洋裝假綴
定價金六拾錢

東京音樂學校囑託教師 前田久八作曲

健康唱歌

全一冊

袖珍洋裝假綴
正價金貳拾五錢

櫻井吉松著

三千字引

全一冊

和漢英對照袖珍假綴
正價金貳拾五錢

陸軍教授 國吉直藏著

簡明獨逸文典

全一冊

四六判洋裝本
正價金四拾五錢

醫學博士 中濱東一郎 警察隊長 山根正次 東京地方裁判所檢事正 川淵龍起
警視廳技手 東京地方裁判所囑託醫 奧貫恭助校訂 醫師 島田昌朔纂著

檢定 斷書 例 全一册 第二版 菊判洋裝本 正價金壹圓七拾錢 郵税金拾八錢

附醫學法令規則 曾テ世ニ診斷檢案等醫事ノ公務ニ係ル書例ノ發見アルヲ聞カズ頃者島田昌朔先生愛ニ見ル所アリ諸大家ノ類例ヲ蒐輯纂シテ診斷書例ト名ケテ世ニ公ニセラル蓋其類例ノ豐富ナル其書式ノ整規ナル事ニ臨テ之ヲ繕ハ好例適法歷々トシテ物ヲ撰中ニ探ルガ如ク猶上開ニハ現行醫事法令ヲ舉ケテ上下對照ニ便セシメ且附録ニハ法醫ノ綱領及普國檢視規程ヲ掲ケ世人ヲシテ理解シ易クシメンコトヲ圖リテ種々ヲ註解ヲ挿ミ人身各部ヨリ筋骨動靜脈神經內臟等ノ名稱關係ニ至ルマテ精緻ナル彩色圖ヲ以テ悉ク之ヲ解釋セリ
橘南翁著 平出古刀福標註

標註 東西遊記 全二册 菊判和裝美本 各册正價金五拾五錢 各册郵税金六錢

南翁筆蹟石版摺及吳春、盛雪、應瑞等諸名家圖書挿入 本書ハ橘南翁ガ天下ヲラユル奇勝ヲ探ランガタメ、日本全國ヲ漫遊セル紀行ニシテ、記述ノ奇絶ナル、文章ノ精熟ナルハ近世紀行文ノ泰斗トイフベク、殊ニ今般文部省發布ノ中學校教科ノ細目ニモ國文ノ標準書トシテ撰擇セラレタレバ文學地理歴史教育科ニハ座右ノ好參考書タルベシ、今コレニ著者ノ詳傳及ビ精細周到ナル標註ヲ加ヘタレバ、本書ノ趣味ハ一層深カラシク愛讀ヲ賜ヘ
醫學士 石黒宇笛治 ドクトル 鈴木倚象校訂 田中鍊太郎纂譯

英和醫學字彙 全一册 第二版 菊判洋裝本 正價金貳拾圓錢 郵税金拾錢

本書ハ方今新道ノ碩學トリトブス、らんぐ爾大家ノ著、獨英醫學字典ヲ經トシる、かつとる、こころど、どんぐりそん、と、います諸大家ノ醫學字書ヲ綜トシ拮据四星霜ノ久シキヲ經テ譯述編纂シタル近來ノ一大良書ナリ
福見尙賢 小栗栖香平纂譯

獨和字典大全 全一册 第十一版 菊判洋裝本 正價金參圓八拾錢 量目四百五十頁

字書編纂ノ主旨ハ能ク讀者ノ満足ヲ得ルニアリ索引ニ便ニシテ廣ク各專門語ヲ蒐輯スルニアリ此書實ニ之ヲ得タリ其好評第一ニ居ル所以宜ベナリト云フベシ

風祭甚三郎編纂

改正 獨和辭彙 全一册 第四版 四六判洋裝本 正價金拾貳圓錢 郵税金拾四錢

第一版發行以來購求者ノ歡迎ヲ博シタル該書ハ訂正増補ヲ施シ第四版ヲ發行ス譯義體裁ノ雙美ヲ占ムル者多故辭書中此書ニ及フモノナケン
法學博士 山脇玄校閱 醫學士 田村化三郎纂譯

袖珍 獨和字典 全一册 第五版 洋裝本 正價金八拾錢 郵税金六錢

携帶索引ニ便ナルト字義ノ明晰通暢ナルトノ公評アル本書ハ再版毎ニ改正増補シ今ヤ獨和小辭書中ノ巨擘ナリ
保志虎吉 加藤玄智共編

珍通俗神話辭彙 全一册 本 獨英和語對照 正價金五拾錢 郵税金四錢

文學哲學ノ研究ニ志ス者ハ希臘羅馬ノ古傳ニ溯リ之カ材料ヲ資ラザル可ラス保志加藤兩先生ノ此著蓋シ斯學ノ燈臺タルベシ弊店發兌ノ榮ヲ擔ヒ之ヲ篤學諸彦ニ紹介ス
翻刻

オツ 氏獨英會話文典 全一册 四六判洋裝本 正價金壹圓拾五錢 郵税金拾錢

「コンヴェンション」ongsグラママー」ヲ翻刻セル者其校正嚴密ナルヲ以テ原書ト相違フナク價格ノ低廉ナルハ大ニ需用者ノ便益ナリ
寺田勇吉校閱 山田端夫編纂

獨逸作文錦囊 全一册 四六判洋裝本 正價金七拾錢 郵税金六錢

山田先生多年教授ノ餘暇此書ヲ編纂セラル其斯學篤志者ニ叮嚀心切ナル猶ホ先生ニ親炙スルノ趣アリ亦々斯學者ノ好資料ナリ

賀來熊次郎編

教科用 獨逸語學楷梯

全一冊

四六判洋裝本
正價金八拾錢
郵稅金四拾錢

獨逸學日新月歩ノ今日ニ於テ此等ノ著書アルハ志學者ノ便益渺ナカラズ殊ニ寒鄉僻地師ニ乏キ者ニ至ッテハ其利益ヲ感スル一層ナルモノアリ

中小路倫太郎插譯

リカール 露語讀本第一獨案内

全一冊

四六判洋裝假綴本
正價金四拾錢
郵稅金四拾錢

第一高等學校獨逸文學科教授校閱

アツフ 氏獨逸新讀本

卷ノ一

歐刻洋裝本
正價金五拾錢
郵稅金四拾錢

「アツフハイム」博士ノ著校正ノ精確ニシテ原書ニ誤ラザルハ世評已ニ之ヲ許ス處ニシテ教科用書ニ適切ナル最良書ナリ

リエンゲ 氏第四讀本

全一冊

菊判洋裝本
正價金八拾五錢
郵稅金拾五錢

リエンゲ 氏第五讀本

全一冊

菊判洋裝本
正價金五拾錢
郵稅金六拾錢

拔粹獨逸文

萬國名家小傳

甲 乙

四六判洋裝本
各冊正價金參拾錢
各冊郵稅金四拾錢

是レ獨逸學研究ノ傍ラ名士ノ性行平生ヲ知ルヲ得ル良教科書ナリトノ評獨逸學者間ニ噴々タリ

維廉得利註釋

全一冊

四六判洋裝本
正價金五拾錢
郵稅金六拾錢

文章優健記事悲壯ヲ以テ名アル「シルレル」氏「ウイルヘルム」タル傳記ニ註釋ヲ加ヘタルモノ教科用トシテ自習用トシテ讀者ニ便スル少ナカラザルベシ

第一高等學校獨逸文學科選定

全一冊

袖珍洋裝本
正價金拾五錢
郵稅金貳拾錢

近來獨逸學術進步ノ世界ニ唱道セラル、ヤ歐米諸國到ル處之ガ研究ヲ望マザルナシ而シテ我國亦タ大ニ斯學ノ流行ヲ見ル此書初學入門ニ最モ適當ナリトノ評アリ

第一高等學校獨逸文學科選定改訂

獨逸語讀本

全二冊

四六判洋裝本
各冊正價金四拾錢
各冊郵稅金四拾錢

獨逸讀本中講究ニ資テ尤モ可ナルモノヲ集積セルヲ以テ教科書ニ適スルノミナラズ獨習用トシテ快味云フ可カラズ

第五高等學校龍南會編纂

新撰獨文讀本

全一冊

四六判洋裝本
正價金拾五錢
郵稅金四拾錢

獨逸語讀本中亦々近來ノ好撰ナリトノ評アリ問々難解澁句ノ解説ヲ挿入セル等用意周到ナリト云フベシ

中目忍 黑田岩之助編纂

獨和兵語會話

全一冊

袖珍洋裝美本
正價金四拾錢
郵稅金四拾錢

陸軍教授ナル兩氏ガ著トシテ尤モ精確ナルハ原ヨリ其處ナリ隆々進步ノ陸軍部内ニアリ彼レノ狀態ヲ詳ニセンニハ其國語ニ通ゼザル可カラズ此書ノ必用アル所以ナリ

陸軍大學校教官陸軍教授 藤山治一著

全一冊

袖珍洋裝美本
正價金四拾錢
郵稅金四拾錢

書中載スル所ハ七十年獨佛戰役、明治二十七年日清戰役同三十三年北清事件日本赤十字社、薩摩等ノ事蹟ニシテ兵語ヲ學ブノ傍ラ事
實ヲ知ルノ便アリ其他又主ヲ水邦ノ事情ヲ酌量シテ著述セラレタルヲ以テ獨逸語ヲ學バントスル軍人ハ勿論普通ノ獨逸語ヲ修メ
ントスル諸氏ノ爲メニ裨益スル所尠カラザルベシ

第一高等學校獨逸文學科教員編纂
獨逸文法教科書 全二冊 各冊正價 金貳拾錢
各冊郵稅 金拾錢

音文一致ノ邦國ニ於テ文法ノ必要ナルハ世間皆人ノ知ル處ニシテ只其正非適不適如何ヲ判スルニ苦シムノミ此書ノ教科用書トシテ
獨逸語ヲ學ブニ適スル所以ハ實ニ文法組織ノ上ニ於テ其當ヲ得タルヲ以テナリ

平塚氏ノ文法ニ精通ニシテ加フルニ彼國在留實驗的見識ヲ以テ此書ヲ編輯セラル獨逸語研究ニ資スル處大ナリト云フベシ其需用者
ノ多キ宜ナルカナ

拔粹獨逸文 全二冊 各冊正價 金貳拾五錢
各冊郵稅 金四錢

獨逸大家文抄 全二冊 各冊正價 金貳拾五錢
各冊郵稅 金四錢

第一高等學校教授 丸山通一著
獨逸學ヲ學ブ者多ク文法ノ難澁ヲ云フ然レドモ大家ノ文ヲ讀ムニ及ンテハ行文流麗少シノ滯硬ヲ見ズ必竟文ニ精ナルノ致ス所口學
者大家ノ文ヲ讀テ其由來ヲ攻究スル亦快ナラズヤ此書ノ教科用書ニ適當ナル所以ナリ

發音 獨逸音聲學大意 全一冊 袖珍洋裝美木
正價 金貳拾五錢
郵稅 金四錢

發音機關圖、發音機關姿勢說明音聲一覽表入
著者ハ近來獨逸語ノ發音ニ關スル衆論紛々トシテ後進ノ歸適スル所ナキヲ憂ヒ標準的發音ヲ一定シテ之ヲ系統的ニ教授スルノ目的
ニテ此書ヲ綴レリ

山口小太郎 黒田岩之助共著

實用獨和書簡文 全一冊 四六判洋裝本綴
正價 金七拾錢
郵稅 金六錢

商戰ノ必勝ヲ期スルニハ信用ヲ得ルニアリ信用ヲ得ルノ方法ハ彼我情實ノ相通ズルニアリトス言語應對ト通信文書トハ相俟ツテ缺
クベカラサルモノナリ二十世紀商戰陣頭功名一番ノ榮譽ヲ得ントモラル、ノ諸彦ハ宜シク此書ヲ御講讀アラントナ所ル
翻刻

ウエー 獨逸辭書 全一冊 第八版 菊判洋裝本綴
正價 金貳圓八拾錢
量目 三百八拾分

第一高等學校獨逸文學科教授校閱
コムフオ 獨逸語楷梯 全一冊 四六判洋裝本綴
正價 金壹圓拾五錢
郵稅 金拾貳錢

「ジャーマン、コース」ヲ翻刻セル者ニシテ嚴密ノ校正ニ成レル者英語ヨリ獨逸語ニ入ルノ最好教科書ナリ
竹仙小史著
The key to the English exercises in the first part of
G. R. Comford's German Course. 全一冊 正價 金貳拾錢
郵稅 金四錢

獨逸習字帖 全二冊 各冊正價 金八錢五厘
各冊郵稅 金貳錢

西諺ニ曰ク筆蹟ハ資性ノ反映ナリト習字小技ニ似タリト雖トモ亦タ忽ニスベカラズ此書ノ翻刻流布スル所以ナリ
佐藤惣三郎編

中等 萬國商業地理 全一冊 四六判洋裝本綴
正價 金八拾五錢
郵稅 金拾錢

法學博士田口卯吉ノ序詞能ク此書ノ心髓ヲ盡ス好的ナル中等教科書タルニ背カザルナリ

25/11/36 / 15/6/41

文學博士 井上圓了講述

通俗靈魂不滅論

全一冊 第三版

附靈魂集 定價金參拾錢

人誰レカ死ナカラシ人誰レカ迷ナカラシ荷モ其死ヲ恐レ其迷ヲ去ラント欲スル者ハ必ズ先ツ本書ヲ讀ミ玉ヘ本書ハ通俗講義ニシテ

文體ハ言文一致ナラシ誰ニテモ讀ミ易ク解シ易ク且附録トシテ靈魂集ヲ添エタレバ神佛三道ノ古今名家ノ靈魂ノ説ヲ一讀ノ下ニ通スルヲ得可シ

文部省書記官兼文部省參事官文部省視學官 寺田勇吉著

學校改良論

全一冊

定價金四拾錢

本書ハ寺田先生ガ學校紛擾ノ教育界ニ流行スルヲ憂ヒ之ガ狀況原因及醫救ノ方策ヲ指示シ學校根本的改良意見ヲ論述セラレタルモノニシテ府縣市町村ノ學務官吏、公私立讀學校ノ校長及生徒ニ至ルマテ必ズ一本ヲ座右ニ備テ愛讀スヘキ良書ナリ

文學博士 井上哲次郎校閱 有終會譯

氏字ヘルバルト教育學

全一冊

定價金六拾五錢

ヘルバルトノ教育學已ニ一種特得ノ見アルハ人ノ能ク知ル處ニシテ批難モ亦タ從テ生ズト雖モ教育ニ意アル者座右ノ好參考書タルヲ失ハス

第一高等學校獨逸文學科教授校閱

獨逸法政要義

全一冊

定價金四拾錢

原名ハウスホーフエル氏、スターツビエルゲルヲ拔粹セシモノニシテ教科書ニ最モ適ス

醫學博士 伊東重著

養生哲學

全一冊

定價金四拾錢

深遠ノ學識ト卓絶ノ俊爾トヲ以テ多年之レチ實地ニ試ミ微妙ヲ啓キ幽玄ヲ發シ古來未タ見聞セサル養生哲學ヲ、最良ノ一書ヲ得、一讀以テ無量ノ世ヲ益スルヲ知ル今チ國家多事ノ際人生ノ幸福ヲ完カラシメ國家富強ノ實ヲ舉クルニ於テ此書指南ノ大車タリ

文學大學哲學教師ドクトル フォン、コエーベル講義

哲學要領

全一冊 第二版

定價金五拾錢

本書ハ「コエーベル」博士ガ哲學ノ入門トシテ嘗テ文科大學々生ノ爲メニ講セラレシモノ凡ソ哲學上ノ問題及ヒ其解釋ノ方法ニシテ本書ノ説カザルモノナク蓋サザルモノナシ此ノ如キハ我國ノミナラス、泰西ノ書ニ於テモ稀レニ見ル所ナリト云フ苟モ哲學ノ真趣ヲ解セント欲スルノ士ニハ必用缺ク可カラザルノ良書ナリ

醫學博士 大澤岳太郎著

日本婦人待遇論

全一冊

定價金五拾錢

歐米文明ノ花實ハ偏ニ婦人培養ノ功多キニ居ル其婦人ガ尊重敬愛セラレ、偶然ニ非ザルナリ其家政ノ調理兒童教育ノ大任ハ實ニ此婦人ノ手ニアリ吾東洋社會ノ歐米各國ニ比シテ大ニ遜色アル所ノ者ハ婦人ノ待遇其宜キヲ得サルニアリ大澤博士久シク歐洲ニアリ其風俗ヲ實見シ省テ我國婦人ノ待遇其處ヲ得ス家庭ノ圓滿ヲ缺キ一家團樂ノ美風ニ乏シキヲ慨シ遂ニ此著アリ

醫學博士 佐藤進題辭 木村信實纂著

醫業論

全一冊

定價金五拾錢

醫學博士 下山順一郎序文 慶松藥學士共纂

化學要

全一冊

定價金四拾錢

Chemiker-Kalender von Japan. 此書ハ化學實驗ニ關シ最新須要ナル事項ヲ網羅摘載シタルモノニシテ純正化學應用化學醫化學藥化學有機化學ニ志アルモノ、日常缺クベカラサルハ勿論技術師教員藥劑師醫師等ノ試驗ニ應セントスルモノ、記憶ニ資スルノ必携ナリ原書ハ獨逸「エル、ビー、デルマン」博士ノ「ヘミケル」ガレニシテ第二十三版ヲ重子英佛伊其他諸外國語ニ翻譯セラレタル化學上著明ノ一大寶典ナリ今ヤ慶松藥學士和原栢堂ニ原著者ノニシテ原書ニ倣ヒ尤モ携帶ニ便ニセリ四方爲學ノ諸士御購讀ノ上其眞價ヲ咄嗟セラレンコトヲ希望仕候發賣ヲ委セラレタルヲ以テ亦體裁ヲ原書ニ倣ヒ尤モ携帶ニ便ニセリ

醫學博士 大澤岳太郎 醫學士 櫻井恒次郎著

解剖學捷徑

全一册

正四六判洋裝假綴
郵税金五拾錢

本書ハ櫻井恒次郎先生ガ千八百九十五年ニ講定セラレタル解剖學新名稱ヲ本據トシ傍ラ「ラウベル」氏解剖學「ブルテル」氏解剖學等ヲ參照シ醫學士ノ速修ニ資スルノ目的ヲ以テ編述セシモノニシテ全篇ヲ八篇ニ分チ第一篇ニ於テハ各局部ノ初級名稱ヲ列シ第二篇ニ於テハ各級帶チ片假名順ニ號列シ其起點止チ明記シ第三篇ニ於テハ各局部ノ諸名稱ヲ學ゲ第四篇ニ至テ同シク片假名順ニ從テ其起點止作用及附屬神經ヲ記シ第五篇ニ於テハ結液囊、結液管、名稱位置ヲ述ヘ第六篇ニ於テハ各骨ニ於ケル筋ノ起點、附屬點、示シ第七篇ニ於テハ更ニ各管、孔、破裂、溝等ト軟部(血管、神經)トノ關係ヲ記述セリ解剖學ヲ修メントスルノ士ニ本世ニ堪ルニアラズノ突ク能ク其記憶ヲ鞏固ニスルヲ得ンヤ實ニ醫學士諸君ノ爲メニハ好伴侶ト言フベシ諸君速ニ一本ヲ購ハレント希望ノ至ニ堪ズ

醫學博士 緒方正規 中島秀一著

八種傳染病診療法

全一册

正四六判洋裝假綴
郵税金七拾五錢

方今醫學ノ進步ニ伴ヒ幾多ノ新論奇說續出スト雖モ多クハ兩學萬能ヲ迷信セル牽強ノ偏見ニ陥リ或ハ架空ノ臆想ヲ逞フセル附會ノ推斷ニ止マリ不按ノ定説トナスベキモノ十中一ヲ算セズ之ヲ辨別シ之ヲ取捨センコト斯學ノ專修者ニ與味アリテ實地臨床家ノ應用ニ利アラズ中島秀一先生夙ニ之ヲ感ヒトシ確固タル定説ニ基キ偏見ヲ推斷チ却ケ八種傳染病ノ診療法ヲ撰著セラレタリ其內容ヲ三輯ニ分チ本論ニ於テハ新ノ學說ヲ紹介シ正確ナル方法ヲ指示シ諸博士ノ閱テハ醫學ノ大綱ヲ概説シ簡便ナル檢査法ヲ詳述シ附論ニ於テハ結核、淋疾等十數ノ疾病ニ就キ其診療法ヲ叙シ醫學ノ泰斗緒方正規博士ノ閱テハ醫學ノ立トコロニ其妙處ニ達スルヲ得ベク殊ニ特ニ從ハシカ決シテ他ノ指斥ヲ容サザルベク研究家之ヲ机上ニ置キテ練習ニ試ミンカ立トコロニ其妙處ニ達スルヲ得ベク殊ニ特ニ從ハシカ傳染病流行ノ際檢斷上ノ紛議ヲ解決スルニ最モ必要ナル良書ト謂フベシ醫學ノ士乞フ速ニ一本ヲ購ヘ

醫學博士 長與稱吉校閱 ドクトル 湯川玄洋纂著

胃腸病診療新書

全一册

正四六判洋裝假綴
郵税金四拾錢

第一版第二版ニ於テ江湖醫家諸君ノ歡迎ヲ得タレ本書ハ著者湯川先生歐洲留學ノ爲メ久シク絶版セシガ歸朝以來之ガ訂正ニ從事セラレ彼土ニ在テ親炙セラレタル胃腸病諸大家ノ蘊蓄セル學理ト富豐ナル實驗トハ悉ク網羅シテ本書ニ收容セリ醫家諸君希クハ其渴望テ醫セラレントシ

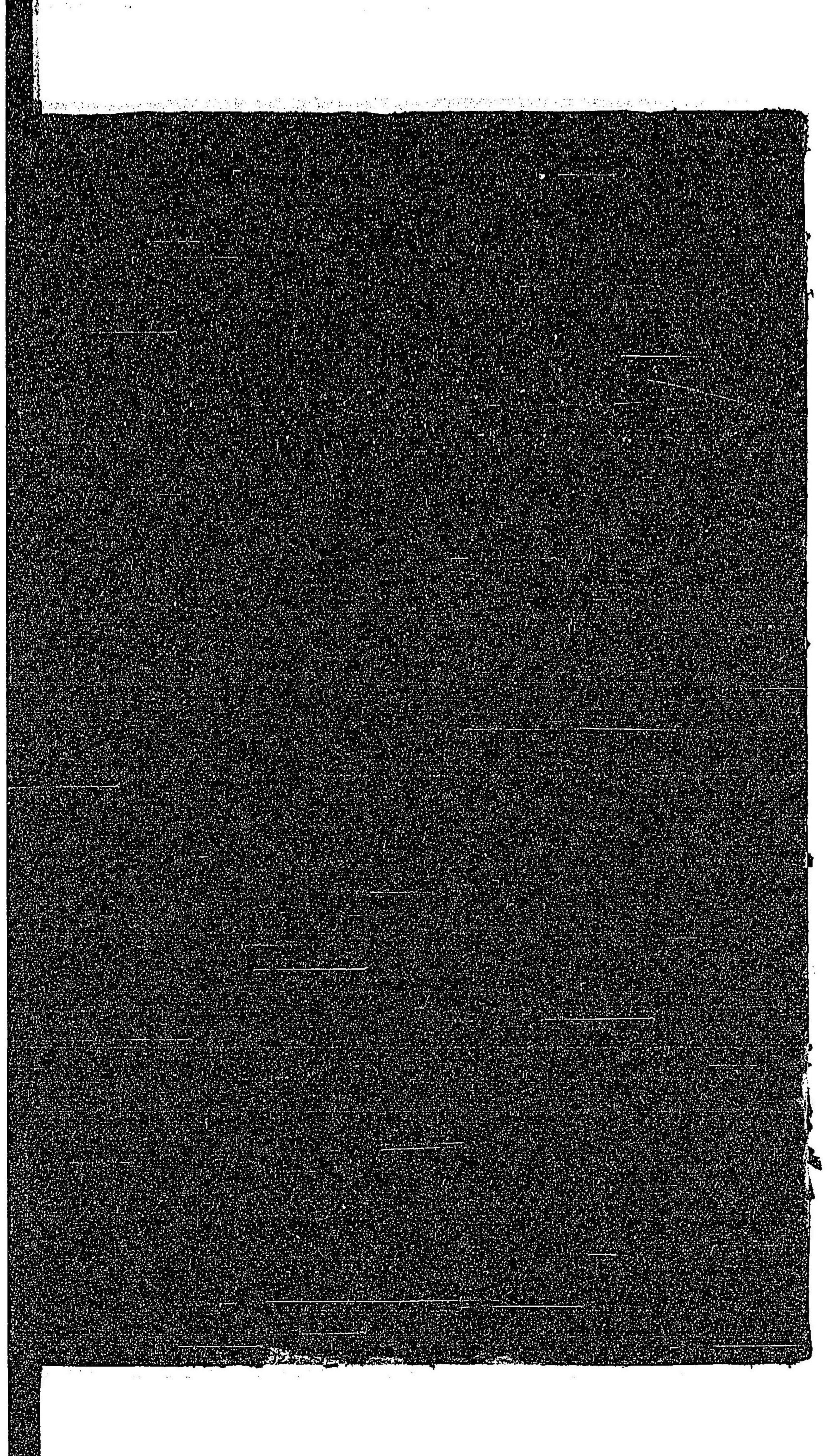
水野繁太郎著

教科及習用 羅甸文法楷梯

全一册

正四六判洋裝假綴
郵税金六拾錢

56
別冊
40





059825-001-7

56-40

産科学講義

中島 襄吉/著

上

M36-39

CBI-0055



15.24